

Copyright Notice

This document is provided under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License (CC BY-NC-SA 4.0):

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/>

You are free to:

- Share — copy and redistribute the material in any medium or format
- Adapt — remix, transform, and build upon the material

Under the following terms:

- Attribution — You must give appropriate credit to the publisher, provide a link to the license, and indicate if changes were made. You may do so in any reasonable manner, but not in any way that suggests the licensor endorses you or your use.
- NonCommercial — You may not use the material for commercial purposes.
- ShareAlike — If you remix, transform, or build upon the material, you must distribute your contributions under the same license as the original.

About the Project

This document was created with the permission of participating publishers as part of the Japanese Multi-Volume Sets Discoverability Improvement Project, funded by the Council on East Asian Libraries and the Mellon Foundation for Innovation Grants for East Asian Librarians.

日本人の海外活動に関する歴史的調査
第二十三卷

East Asian Library
University of Chicago Library

容

七

八	同	七	○第十五章 貿易及び商業の発達
九	同	八	○第十六章 金融の発達
一〇	同	九	○第十七章 財政の発達
一一	同	八	第十八章 交通通信の発達
一二	同	七	第十九章 土木及治水
一三	同	六	第二十章 在外朝鮮人の保護
一四	同	五	第二十一章 戦争と朝鮮統治
一五	同	四	附 録
一六	同	三	○朝鮮統治の性格と実績
一七	同	二	○「独立」朝鮮経済の將來
	同	一	第一部 台湾経済半世史概観
	同		第二部 地理的に見た台湾
	同		第三部 台湾の文化・社会
	同		第四部 台湾の産業
	同		第五部 台湾の経済 其の一
	同		同 其の二
	同		台湾に関する統計
	同		白日下の台湾
	同		余録 日僑の追憶 (合 本)
	同		終戦前後の台湾に関する資料

一八
一九

樺太
同

二〇

南洋群島

二一

同

二二

滿洲

二三

同

二四

同

二五

同

二六

北支

二七

中南支

二八

同

二九

海南島

三〇

南方

第一部 總論	一八
第二部 産業及經濟	一九
第三部 交通及通信	
第四部 文化	
主要統計	
合本	

總論
經濟及産業

○第一部 總論

○第二部 滿洲の産業

○第三部 滿洲の經濟

○第四部 關東州

○華北日系事業概観

第一部 列國の對華經濟進出と其の法的諸條件

○第二部 我が對華經濟活動と在華投資

第三部 對華借款と對華文化事業

○第四部 補遺

○海南島における日本經濟發展概要

○第一部 總論

(註) ○印の部章については、其の全文又は一部分を翻訳し英文版を作成す。

三二	同	二	各	論	第二部第一章佛印	第二部第二章暹羅
三一	同	三	同	同	第二部第三章ビルマ	第二部第四章英領マライ
三三	同	四	同	同	第二部第五章蘭領印度	
三四	同	五	同	同	第二部第六章比島	
三五	欧米其他諸地域	一	○第一章	総論		
			第二章	北米		
			第三章	中南米		
			第四章	東方諸地域		
			第五章	西方諸地域		

日本人の海外活動に関する歴史的調査総目録

通卷第一冊 総論

第一章 近代に於ける日本經濟の發達	一
-------------------	---

序	一
---	---

第一節 開國當時に於ける諸事情	四
-----------------	---

一、開國前後に於ける經濟事情	四
----------------	---

二、開國が各方面に及ぼせる影響	七
-----------------	---

三、植民地化の危機	八
-----------	---

第二節 資本主義育成時代	九
--------------	---

一、明治維新後に於ける変革	九
---------------	---

(イ) 政治的変革	九
-----------	---

(ロ) 社会的変革	一一
-----------	----

(ハ) 經濟的変革	一二
-----------	----

(ニ) 旧武士階級の没落	一三
--------------	----

二、近代的經濟化への準備	一五
--------------	----

(イ) 貨幣制度	一五
----------	----

(ロ) 銀行会社制度の移植	一七
---------------	----

(ハ)	新交通制度の輸入及び助長	二〇
(三)	郵便電信制度の移植	二三
(ホ)	官営による近代工業の移植	二四
(ヘ)	博覧会、共進会及び其の他	二五
(ト)	貿易	二六
	三、整理恐怖と基礎的準備の完成	二七
(イ)	紙幣整理及び財政整理と其の意義	二八
(ロ)	農村の分解と新らしき変化	二八
(ハ)	産業及び貿易	三〇

第三節 資本主義確立時代……………三一

	一、日清戦争（一八九四—五年）前後の経済発展——産業革命進行の第一期時代	三一
(イ)	農業の地位の変化と商業化の進展	三一
(ロ)	繊維工業の躍進	三二
(ハ)	重工業其の他	三四
(ニ)	交通及び通信	三五
1、	鉄道	三五
2、	海運	三六
3、	郵便及び電信	三七
(ホ)	貿易	三七
(ヘ)	貨幣及び金融制度	三八
	二、日露戦争（一九〇四—五年）後の経済発展——産業革命進行の第二期時代	四〇

(イ) 農 業	四〇
(ロ) 工業の発展	四一
1、重工業の発展	四一
2、繊維工業其の他	四二
(ハ) 交 通 業	四三
1、鉄 道	四三
2、海 運 業	四四
(ニ) 貿 易	四四
(ホ) 銀行及び金融の発達	四七
1、銀行による産業支配の強化	四七
2、外資の輸入及び日本資本の輸出	四七
第四節 資本主義高度化時代	四八
一、第一次世界大戦（一九一四——一八年）後の経済発展	四八
(イ) 農 業	四八
(ロ) 工業及び鉱業の発展	四九
1、織 維 工 業	四九
2、重工業其の他	五〇
(ハ) 交 通 業	五一
(ニ) 貿 易	五三
(ホ) 銀行及び金融の発達	五四
二、昭和時代初期の経済事情	五五

第五節 戰時經濟時代

(イ) 世界經濟事情の变化	五五
(ロ) 日本經濟の苦惱	五六
三、滿洲事變(一九三一年)後の經濟發展	五八
(イ) 貿易の劃期的發展	五八
(ロ) 輕工業の劃期的發展	六二
(ハ) 重工業の劃期的發展	六三
(ニ) 朝鮮、台灣の工業化	六四
(ホ) 漁業の發展	六五
一、日華事變の發生(一九三七年)と日本經濟の變貌——戰時經濟体制確立時代	六六
(イ) 生産力拡充と消費統制	六六
(ロ) 平和産業の大萎縮と軍需産業繁榮の情況	六九
(ハ) 滿洲の開發	七三
(ニ) 輸送力の隘路化	七四
二、太平洋戰爭の勃發(一九四一年)と日本經濟力の衰亡——近代的消耗戰時代	七六
(イ) 消耗戰への突入	七六
(ロ) 戰時非常措置の強化	七八
(ハ) 日本經濟力の衰亡	八〇

第二章 極盛時に於ける日本

第一節 版図と人口

一、日本の版図	八七
二、日本の人口	九二
第二節 資源の賦存と主要物資の需給状況	
一、土地利用	九四
二、食糧	九八
（イ）米	九八
（ロ）麦	一〇〇
（ハ）大豆	一〇一
（ニ）其他農産物	一〇三
1、芋類	一〇三
2、雑穀	一〇三
3、果実	一〇五
（ホ）畜産	一〇六
（ヘ）水産物	一〇八
（ト）塩	一一〇
（チ）砂糖	一一二
三、衣料	一一三
（イ）生糸	一一四
（ロ）綿毛	一一六
（ハ）羊毛	一二二
（ニ）人絹	一二五

四、林 産 物	一二八
五、鉱 産 物	一三〇
(イ) 鉱産額概況	一三〇
(ロ) 鉄 及 び 鋼	一三二
(ハ) 石 炭	一三五
(ニ) 石 油	一三八
六、電 氣	一四一

第三章 日本及び植民地域に於ける人口の發達

第一節 日本内地の人口

一、人口の増加	一五二
二、人口の産業別推移	一五六
三、人口の都市集中	一六一
四、北海道への移住人口	一六二
五、外 來 人 口	一六五

第二節 日本の海外移民(一)

一、海外移民に関する統計	一六八
二、海外移民の渡航方向	一六九
三、海外移民政策の変遷	一七三

第三節 日本の海外移民(二)

一、ハワイ移民	一八五
---------	-----

二、濠洲移民	一八八
三、米國移民	一八九
四、カナダ移民	一九三
五、メキシコ移民	一九四
六、比律賓移民	一九四
七、其の他南洋移民	一九六
八、ペルー移民	一九七
九、ブラジル移民	一九九
十、其の他南米諸國への移民	二〇二

第四節 日本の植民地の人口

一、台 湾	二〇三
（イ）台湾人々口	二〇三
（ロ）台湾に於ける日本人々口	二〇八
二、樺 太	二一二
三、朝 鮮	二一四
（イ）朝鮮人々口	二一四
（ロ）朝鮮に於ける日本人々口	二一八
（ハ）朝鮮以外に於ける朝鮮人々口	二二二

第五節 満洲の人口

一、満洲に於ける諸民族の角逐	二二六
----------------	-----

二、滿洲人口の増加と中國本部よりの移住民……………	二二九
三、滿洲國時代の人口……………	二三三
四、關東州及び鐵道附屬地の人口……………	二三五
五、滿洲に於ける日本人々口……………	二三八
(イ) 歴史的觀察……………	二三八
(ロ) 農業移民……………	二四五

第六節 日本及び其の植民地に於ける民度の向上……………二四七

一、人口の増殖と生産の増加との速度比較……………	二四九
二、衛生狀態の向上及び教育の普及……………	二五二
1、日本本土……………	二五三
2、台灣……………	二五六
3、朝鮮……………	二六一
三、中國系民族の弊習矯正に關する日本の努力……………	二六五

第四章 結 論……………二六九

一、明治維新より日清戰爭に至る時期……………	二七〇
二、日露戰爭より歐洲大戰に至る時期……………	二七五
三、歐洲大戰より滿洲事變直前に至る時期……………	二八一
四、滿洲事變前後より太平洋戰爭終結に至る時期……………	二八九
1、滿洲事變前後より日華事變に至る時期……………	二八九
2、日華事變より太平洋戰爭終結に至る時期……………	二九八

附表

第二章 極盛時に於ける日本

第一表	日本の版図及び満洲國の面積	八八
第二表	日本の版図及び満洲國の人口（一九四〇年、昭和十五年）	九二
第三表	日本の版図内各地及び太平洋諸國の人口密度	九三
第四表	日本の版図及び満洲國內の民族別人口（一九四〇年、昭和十五年）	九四
第五表	日本に於ける土地利用（一九三六年）	九五
第六表	主要作物作付面積	九六
第七表	耕地面積	九八
第八表	耕地變動	九八
第九表	日本（内地）に於ける米の用途別消費割合一九二九—三〇年	九九
第十表	日本（内地）の米の需給額	九九
第十一表	日本（内地）麦類産額	一〇一
第十二表	蛋白攝取源に関する日本人、西洋人の比較	一〇二
第十三表	満洲の大豆輸出	一〇二
第十四表	芋類産額	一〇三
第十五表	日本の雜穀類産額及び輸入	一〇四
第十六表	日本の果実生産	一〇五
第十七表	家畜在高（昭和十年末）	一〇六
第十八表	列國の人口に対する家畜数（昭和十年）	一〇七
第十九表	列國の養雞数及び産卵数（昭和十年）	一〇八

第二十表	日本の漁獲高（昭和十年）	一一〇
第二十一表	日本の塩需給	一一一
第二十二表	日本の砂糖需給	一一三
第二十三表	本邦蘭産額及び輸出入	一一五
第二十四表	我國生糸需給	一一五
第二十五表	生糸類別輸出高	一一六
第二十六表	棉花輸入高	一一八
第二十七表	本邦綿業輸出入	一一九
第二十八表	我國綿糸布需給	一二〇
第二十九表	我國綿布輸出高	一二一
第三十表	羊毛工業関係貿易狀態	一二三
第三十一表	毛織物生産高	一二三
第三十二表	羊毛原料輸入表	一二四
第三十三表	我國羊毛原料國別輸入高	一二四
第三十四表	本邦人絹糸需給	一二六
第三十五表	本邦人絹織物需給	一二六
第三十六表	本邦人絹織物輸出先	一二七
第三十七表	本邦木材パルプ生産高並に輸入高	一二七
第三十八表	本邦パルプ需要高	一二七
第三十九表	本邦パルプ原木使用高	一二八
第四十表	本邦木材需給	一二八
第四十一表	本邦木材輸出入	一二九

第四十二表	本邦林野產物……………	一三〇
第四十三表	本邦林產物類輸出入……………	一三〇
第四十四表	本邦鉾產額（昭和十年）……………	一三一
第四十五表	全日本鉾產額（土石類を除く）……………	一三一
第四十六表	本邦鋼材需給……………	一三三
第四十七表	本邦鉄鉾需給……………	一三三
第四十八表	本邦鉄鉾需給……………	一三四
第四十九表	屑鉄及び故鉄輸入……………	一三四
第五十表	石炭の産業別需要高……………	一三六
第五十一表	石炭產出高累年表……………	一三六
第五十二表	旧領土、滿、華出炭高……………	一三六
第五十三表	輪移入炭高調……………	一三七
第五十四表	石炭輸出入累年表……………	一三七
第五十五表	本邦石油製品需給……………	一三九
第五十六表	本邦石油製品類別需給……………	一四〇
第五十七表	石油國別輸入……………	一四一
第五十八表	人造石油実績……………	一四一
第五十九表	本邦發生電力量……………	一四二
第六十表	全國包藏水力（一九四六年、昭和二十一年現在）……………	一四二
第六十一表	本邦電燈需要……………	一四三
第六十二表	本邦電力需要……………	一四三
第三章	日本及び其の植民地域に於ける人口の發達……………	一五一

第一表	徳川幕府時代及び明治以來の日本の人口（内地の内地人）	一五三
第二表	日本人口の出生率、死亡率及び自然増加率	一五四
第三表	日本の有業人口産業別構成の變化	一五七
第四表	日本の工場労働者数の推移	一六〇
第五表	日本内地に於ける市郡別人口の推移	一六二
第六表	日本内地に於ける外系人人口の推移	一六七
第七表	日本の海外渡航者	一六九
第八表	行先別海外渡航者数	一七一
第九表	行先別海外移民数	一七二
第十ノ一表	ハワイの民族別人口	一八七
第十ノ二表	ブラジルへの国籍別移民	二〇〇
第十一表	台湾人口の発達	二〇五
第十二表	台湾に於ける本島人の年平均出生率、死亡率及び自然増加率の推移	二〇六
第十三表	台湾人の職業別本業者人口	二〇七
第十四表	台湾人及び中國人の島外出入数	二〇七
第十五表	台湾に於ける内地人の渡航者及び退去者	二〇八
第十六表	台湾に於ける内地人の出生死亡及び自然増加	二〇九
第十七表	台湾に於ける内地人の職業別本業者人口	二一一
第十八表	台湾に於ける人口都市集中程度（一九三五年、昭和十年）	二一一
第十九表	樺太人口の発達	二一三
第二十表	樺太の職業別人口	二一三
第二十一表	朝鮮人口の発達	二一五

第二十二表	朝鮮人の職業別人口……………	二一六
第二十三表	朝鮮に於ける日本内地人の出生死亡……………	二一九
第二十四表	朝鮮に於ける日本内地人職業別人口の推移……………	二二一
第二十五表	朝鮮に於ける日本内地人職業別本業者人口（昭和五年）……………	二二一
第二十六表	朝鮮に於ける人口都市集中の程度（一九三五年、昭和十年）……………	二二二
第二十七表	台湾に於ける朝鮮人人口……………	二二五
第二十八表	東三省人口の発達……………	二二九
第二十九表	満洲の三省に於ける人口と耕地の増加……………	二三〇
第三十表	大連港に於ける中國人の渡來数と帰郷数の推移……………	二三一
第三十一表	入滿離滿労働者数の推移……………	二三二
第三十二表	満洲人口の發展（満洲事変以後）……………	二三四
第三十三表	満洲國の職業別人口（一九三七年、昭和十二年）……………	二三五
第三十四表	関東州人口の発達……………	二三六
第三十五表	鉄道附屬地人口の発達……………	二三七
第三十六表	関東州及び鉄道附屬地に於ける中國人の職業別人口（一九三五年）……………	二三七
第三十七表	満洲に於ける日本人人口……………	二四〇
第三十八表	大連港に於ける日本人の渡來数と出港数の推移……………	二四〇
第三十九表	関東州及び鉄道附屬地に於ける日本人有業者職業別人口の推移……………	二四三
第四十表	関東州及び満洲國に於ける都市別日本人人口……………	二四四
第四十一表	日本内地、朝鮮及び台湾に於ける人口指数と農産物生産指数との対比……………	二五〇
第四十二表	台湾に於ける主要農産物の生産増加……………	二五二
第四十三表	台湾及び朝鮮に於ける工業生産價額の増加……………	二五二

第四十四表	日本内地に於ける上水道の発達	二五三
第四十五表	日本内地に於ける医療機関の発達	二五三
第四十六表	日本に於ける傳染病発生数	二五四
第四十七表	日本内地に於ける小学校と図書館との発達	二五六
第四十八表	徴兵検査に際し発見された文盲者数	二五六
第四十九表	台湾に於ける上水道新設数	二五七
第五十表	台湾に於ける医療機関の発達	二五七
第五十一表	台湾に於ける傳染病患者数及び死亡数の推移	二五八
第五十二表	台湾人不具者数	二五八
第五十三表	台湾に於ける小学校児童体格の改善	二五九
第五十四表	台湾人に対する初等教育の発達	二六〇
第五十五表	台湾人学齡兒童の就学率	二六〇
第五十六表	台湾人に対する日本語の普及程度	二六一
第五十七表	朝鮮に於ける上水道新設数	二六一
第五十八表	朝鮮に於ける医療機関の発達	二六二
第五十九表	朝鮮人の出生死亡及び自然増加	二六三
第六十表	朝鮮に於ける傳染病患者発生数	二六三
第六十一表	朝鮮に於ける普通学校の発達	二六四
第六十二表	朝鮮人小学校教員の男女別数	二六四
第六十三表	朝鮮人旧式初等教育施設(書堂)の推移	二六六
第六十四表	台湾に於ける阿片吸飲特許者数	二六六
第六十五表	台湾に於ける阿片吸飲者の年齢別表	二六六

通卷第二冊 朝鮮篇 第一分冊

序 章 朝鮮の概貌……………一

はしがき……………一

第一節 朝鮮の地理と歴史……………一

一、朝鮮の自然……………一

二、朝鮮の人口……………五

三、朝鮮の歴史……………九

第二節 朝鮮の政治……………一三

一、中央行政……………一三

二、地方行政……………一四

三、司法制度……………一五

第三節 朝鮮の経済……………一六

一、農業……………一六

二、林業……………二〇

三、水産……………二〇

四、鉱業……………二一

五、工	業	二二
六、商	業	二六
七、財政及金融		二八
八、交通通信		三〇
第四節	朝鮮の文化	三二
一、教	育	三二
二、衛	生	三四
三、宗	教	三四

第一章 旧來の朝鮮の政治、經濟、社会、文化の性格……………三六

第一節	朝鮮歴史の出發史の出發点としての自然的條件	三六
第二節	民族國家の生成過程に於ける半島的性格	四二
第三節	國是としての事大主義の成長	四八
第四節	李朝社会の「停滯性」の眞意義	五八
第五節	貴族政權の存続と党争の余殃	六二
第六節	封建制の欠如と民生の阻碍——民間團體の結成	六七
第七節	儒教精神の經濟活動への影響	七九
第八節	開國直前の朝鮮の姿	八四

附表

第二章 朝鮮開國より日韓併合への途	九九
第一節 朝鮮開國の二段階	九九
一、日本の「独占」の真相	九九
二、朝鮮開國の國際的背景	一〇四
第二節 宗主権の問題	一一一
清國と列國との対立	一一一
第三節 外國人の經濟活動	一一六
一、日清商人の爭覇	一一六
二、日本の金融霸權の成立	一二二
三、土地の貨幣化の趨勢	一三四
四、在來工業の没落と新工業の擡頭	一四〇
第四節 國際政治舞台上の朝鮮	一四三
一、日清勢力の衝突	一四三
二、ロシア勢力の登場	一四七
三、日本勢力の確立	一五三
第五節 日韓併合の回顧	一五八
その意味とその運命	一五八

第一表	主要河川	三
第二表	各道面積と現在人口（一九四二年末）	六
第三表	現住戸口職業別（一九四二年末）	七
第四表	職業別人口百分比（一九四二年末）	八
第五表	現住戸口累年別	八
第六表	耕地総面積の増加	一六
第七表	農作物栽培面積（一九三九年）	一七
第八表	農産物生産價格（一九三五——一九三九年平均）	一七
第九表	主要農作物生産高推移	一八
第十表	農民の区分	一八
第十一表	鮮米の生産高、移出高及び一人当消費高	一九
第十二表	工場工業構成の変化	二四
第十三表	部門別工場並に職工比率（一九三九年）	二五
第十四表	部門別規模別民間工場生産額（一九三九年）	二五
第十五表	朝鮮に本社を有する会社資本額	二七
第十六表	朝鮮対内地移出入額	二八
第十七表	國別朝鮮外國貿易額	二九
第十八表	朝鮮総督府歳入歳出特別會計	二九
第十九表	朝鮮に於ける通信関係取扱数	三一
第二十表	朝鮮に於ける郵便爲替並に郵便貯金	三一
第二十一表	朝鮮に於ける学校	三三

通卷第三冊 朝鮮篇 第二分冊

第三章 朝鮮統治の最高方針 一

第一節 同化政策——一視同仁政策の眞意 一

一、日韓併合の由來 一

二、併合の目的 二

三、朝鮮統治の根本方針 三

四、統治の根本方針たる同化政策の由來とその眞意 三

五、内鮮一体と内鮮差別との關係 五

六、皇國臣民化運動と民族統治の二方式 七

第二節 歴代總督の統民方針 一〇

一、寺内總督時代、自一九一〇年一〇月一日 至一九一六年一〇月九日 六ケ年 一〇

本期の施政方針 一〇

本期の重要政策 一一

(一)治安維持と生命財産の保護——(二)財政の調整——(三)産業の育成 一一

二、長谷川總督時代 自一九一六年一〇月一六日 至一九一九年八月一二日 二年十ヶ月 一四

三、齋藤總督時代 自一九一九年八月一二日 至一九二七年二月一〇日 八年四ヶ月 一五

本期の統治方針 一六

本期の重要政策 一六

(一)官制改革と民意暢達——(二)司法並に警察制度——(三)財政方針の変更——(四)專売制度の確立——(五)農業の振興と産米増産計画——(六)交通の整備	
四、山梨総督時代	自一九二七年一月一〇日 一年十ヶ月
五、第二次齋藤総督時代	自一九二九年八月一七日 一年十ヶ月
六、宇垣総督時代	自一九三一年六月一七日 五年二ヶ月
本期の施政方針	自一九三六年八月五日
本期の重要政策	
(一)農山漁村の振興と自力更生運動——(二)北鮮開拓事業——(三)産米増殖計画の中止と工業発展	
七、南総督時代	自一九三六年八月五日 五年九ヶ月
本期の施政方針	自一九四二年五月
本期の重要政策	
(一)治安の確保と警察機構の整備——(二)産業一般に対する対策——(三)米穀其の他に対する対策——(四)産金五箇年計画——(五)朝鮮民事令の改正——(六)陸軍特別志願兵制度——(七)國民精神總動員運動	
八、小磯総督時代	自一九四二年五月二九日 二年二ヶ月
本期の施政方針	自一九四四年七月二四日
本期の重要政策	
(一)國体本義の透徹——(二)道義朝鮮の確立——(三)戦力増強の爲の施策——(a)戰略物資の増産——(b)資源の利用促進、回收及び節約——(c)労務対策——(d)國民貯蓄の増強——(e)輸送力の強化其の他一聯の運輸政策——(f)治安の維持——(g)防空施設の充實——(h)第一線地方行政の刷新強化——(四)徴兵制と義務教育——(a)陸軍徴兵制の実施——(b)義務教育の実施決定——(五)教育戦時非常措置——(六)朝鮮人官吏に対する在勤加俸支給制度の創始——(七)決戦非常措置の実施——(八)財政需要に應ずる爲の措置	

九、阿部総督時代	自一九四四年七月二十四日	六六
至一九四五年八月一日	一年一ヶ月	六七

本期の施政方針	六七
本期の重要政策	六七

(一)半島住民に参政権の賦與——(二)朝鮮人官吏に対する在勤加俸の全面的支給等一聯の内鮮差別撤廃措置——(a)在勤加俸の支給——(b)朝鮮人の任用——(c)有力朝鮮人の統治上の協力要請——(三)戦力増強策の推進——(a)食糧対策——(b)重要鉱物等の緊急増産——(c)輸送力の増強——(d)労務対策——(四)國土防衛対策の強化——(a)主要都市の防空施設強化と疎開——(b)警察上の特別施策——(c)防空及び國土防衛の爲のその他の施策——(五)官公吏に対する物價騰貴対策——(六)教育施設——(七)國民義勇隊の結成——(八)經濟安定対策委員會の設置

第四章 朝鮮政治機構の近代化	七九
----------------	----

第一節 顧問政治及統監政治と諸制度の近代化	七九
-----------------------	----

(一) 顧問の傭聘に依る施政の改善	七九
(二) 統監に依る施政の改善	八〇
(三) 司法、警察及び財務の制度の近代化	八三

第二節 総督府機構と其の変遷	八七
----------------	----

(一) 朝鮮総督府の設置と其の概要	八七
(二) 朝鮮総督府所属官署の概要	八九
(三) 文化的施政制度の整備確立	九四
(四) 國內体制強化に伴う諸制度の展轉	九六

第三節 朝鮮總督と中央國家機關との關係……………一〇〇

(一) 朝鮮總督府の事務に対する中央政府の所管機構の變遷……………一〇〇

(二) 中央國家機關と朝鮮總督との關係……………一〇一

(イ) 內閣總理大臣及び各省大臣の朝鮮總督に対する監督權の有無——(ロ) 帝國議會と朝鮮總督との關係

(a) 帝國議會の立法權と朝鮮總督の制令權との關係——(b) 帝國議會の予算協賛權と朝鮮との關係

——(ハ) 司法機關と朝鮮總督との關係

第四節 朝鮮人の行政參與並に國政參與……………一〇五

(一) 朝鮮人の官吏登用及び待遇改善……………一〇五

(二) 朝鮮人の朝鮮内の行政參與……………一〇八

(三) 朝鮮人の國政參與……………一〇九

第五節 地方自治制度の育成……………一一一

(一) 府制及面制の施行……………一一一

(二) 地方團體の制度整備……………一二二

(三) 昭和五年に於ける自治能力の拡充……………一二四

(四) 内地の地方團體との自治能力の相違……………一二五

(五) 地方團體の事業の概要と其の歲計……………一二六

第六節 國民總力運動……………一二八

(一) 國民總力運動の性格……………一二八

(二) 國民總力聯盟の機構……………一二九

イ、中央組織——ロ、地方組織——ハ、各種聯盟——ニ、愛國班……………一二九

(三) 國民総力聯盟の財政	一二〇
(四) 國民総力運動の概況	一二一
イ、道義の昂揚——ロ、皇民の錬成——ハ、決戦生活の確立——ニ、必勝生産力の拡充——ホ、徴兵制度 実施の準備——ヘ、その他の実施事項	

第五章 警察行政と其の実績

第一節 序

一二四

第二節 憲兵警察と普通警察

一二四

一、憲兵警察

一二四

二、普通警察

一二六

(イ)主義運動と警察(ロ)農村振興運動と警察——(ハ)志願兵制度と警察——(ニ)戦争と警察

第三節 結 語

一二〇

第六章 司法及行刑と其の実績

第一節 裁判及檢察

一三二

一、構 成

一三二

(a)制 度——(b)人的機構

二、適用法規

一四四

三、民事訴訟の概況

一五一

(1) 民事事件

一五一

(2) 刑事事件	一五二
----------	-----

第二節 其の他の司法諸制度	一五七
---------------	-----

一、登記制度	一五七
二、戸籍制度	一五八
三、供託制度	一六一
四、民事争訟調停制度	一六一
五、小作調停制度	一六二
六、弁護士制度	一六四
七、公証制度	一六五
八、執行機関	一六六
九、司法書士制度	一六六
十、法務局	一六七

第三節 行刑	一六八
--------	-----

第四節 司法保護	一七五
----------	-----

一、普通犯保護	一七五
二、思想犯保護	一七六
三、少年保護	一七七

附表

第一表 司法職員表	一四三
第二表 民事訴訟当事者別新受件数	一五二

第三表	新受刑者罪名別表（明治四三年——一九一〇年）	一五三
第四表	刑事有罪確定人員表（昭和一五年——一九四〇年）	一五四
第五表	刑事第一審裁判人員表	一五五
第六表	檢事捜査事件人員表	一五六
第七表	刑務所職員表	一七三
第八表	刑務所在所人員表	一七四
第九表	刑務所在所人員内訳表（一九四〇年）	一七四
第十表	釈放者保護人員表（一九四〇年）	一七八

通卷第四冊 朝鮮篇 第三分冊

第七章	教育文化政策と其の実績	一
-----	-------------	---

第一節	教育政策の変遷	一
-----	---------	---

一、其の 前 史	一
二、總督施政下の教育 第一期	九
——一九一一年（明治四十四年）八月「朝鮮教育令制定」——	
三、總督施政下の教育 第二期	一四
——一九二二年（大正十一年）二月「改正朝鮮教育令」公布——	
四、總督施政下の教育 第三期	二〇
——一九三八年（昭和十三年）三月「改正朝鮮教育令」公布——	
五、總督施政下の教育 第四期	二四

——一九四二年（昭和十六年）四月國民學校制実施——

第二節 皇民化教育の理想と現実	二七
第三節 教育機関の普及拡充	三三
第四節 國語普及運動と朝鮮語放策	四一
一、國語普及運動第一期	四一
二、國語普及運動第二期	四四
三、朝鮮語政策	五〇

第五節 神社信仰と一般宗教政策

一、神社信仰	五八
二、神道	六四
三、佛敎	六五
四、キリスト敎	七二
五、儒敎	七九
六、類似宗教	八二
七、シヤマニズム	八五

第六節 朝鮮文化財の保存と研究調査

一、王陵の保護	八八
二、古蹟遺物の保存と調査	八九
三、古圖書の蒐集保存と朝鮮史編纂	九三

四、其の他研究調査	九五
第八章 衛生行政と其の実績	九八
はしがき	九八
第一節 衛生行政機関の沿革	九九
第二節 医療機関の整備	一〇〇
一、病院の設置	一〇一
二、公医の配置	一〇五
三、医生の開業	一〇五
四、在外朝鮮人の医療施設	一〇六
第三節 医師、歯科医師、薬剤師其の他	一〇六
一、医師、歯科医師、薬剤師の養成機関	一〇六
二、助産婦及看護婦の普及	一〇九
三、歯科医師の普及	一〇九
四、薬剤師の普及及び薬品其の他衛生材料の製造販賣の取締	一一〇
第四節 医薬行政及び取締	一一〇
一、衛生試験機関の設置	一一〇
二、衛生試験依頼規程の発布	一一一
三、漢薬の増産及び医学的研究	一一一

四、阿片及び麻薬濫用防止施設	一二二
五、朝鮮麻薬中毒予防協会の設立	一一五

第五節 各種疾病予防の努力	一一六
---------------	-----

一、傳染病予防	一一六
---------	-----

二、結核予防	一一九
--------	-----

三、癩の予防救療	一二〇
----------	-----

四、寄生虫病予防	一二六
----------	-----

五、細菌検査機関の設置	一二七
-------------	-----

六、消毒薬品検定規定の發布	一二八
---------------	-----

第六節 上水道、共同井戸、下水道	一二八
------------------	-----

第七節 屠場並に墓地に対する取締	一三一
------------------	-----

附 主要なる規定及び施設一覽表	一三四
-----------------	-----

附表

第一表 日本に於ける小学校	三四
第二表 朝鮮に於ける初等教育	三五
第三表 簡易学校統計	三六
第四表 書堂統計	三七
第五表 各種学校統計	三七
第六表 中等学校累計	三八
第七表 中等学校に於ける日鮮人別	三九

第八表 朝鮮人中國語を解する人数……………四九

通卷第五冊 朝鮮篇 第四分冊

第九章 産業及經濟政策……………一

第一節 朝鮮の資源と産業立地條件……………一

朝鮮の經濟社会停滯の原因——農業生産力の諸條件と農業資源——水産資源——鉱産資源——水力資源——
耕作者及労働者の特性——産業立地的に見た朝鮮——商品市場及資本市場としての殖民地性

第二節 荒廢せる併合前の産業經濟……………五

旧來の朝鮮社会——世界資本主義の波瀾——日本資本の滲透

第三節 日本に依る産業經濟の開発とその意義……………八

近代朝鮮の形式的成立——近代的土地制度の確立——朝鮮經濟の近代化——産米増殖計画と朝鮮米の商品化

第四節 朝鮮産業經濟の驚異的躍進と民度の向上……………一四

(一) 滿洲事変以前……………一四

世界經濟恐慌の影響——朝鮮經濟の頽勢と後退

(二) 滿洲事変以後……………一六

朝鮮經濟の劃期的改変——朝鮮の工業化——内地巨大資本系の近代的大工場——中小工業——土着民
族資本——農業部面の变化——朝鮮經濟の複雑性と特異性——朝鮮經濟近代化の朝鮮大衆の消費生活
の上に與つた影響——鮮内進出の内地大工業の朝鮮大衆生活に與つた影響

(三)	日華事変以後……………	二一
	滿洲事変以來の發展の量的拡大——輕工業——重化学工業——中小工業——朝鮮經濟近代化の農村に與つた影響——貿易上の變化……………	
(四)	太平洋戰爭前期……………	二五
	軍需生産を中心とする跛行的發展——農事部面の停滯と萎微……………	
(五)	太平洋戰爭後期……………	二七
	戰局逼迫の影響——朝鮮政治經濟の基本的弱點の露呈……………	
(六)	終戰時に於ける朝鮮經濟の構造……………	二八
	日本統治の成果——在鮮日本人及朝鮮人間富の配分關係——日本から受継いだ物的資産——朝鮮經濟の脆弱點……………	
(七)	人口の増加と過剰人口の消化……………	三二

第五節	日本資本及び技術の導入……………	三四
-----	------------------	----

(一)	日本資本の導入……………	三四
	貿易資本、商業資本の進出——工業資本の成熟——農業資本——大資本の進出——内地産業資本の産業支配率——日本資本の鮮内投資額……………	
(二)	日本技術の導入……………	三八
	農事技術特に水利——林業及水産業技術——工業技術及發電技術——鉍業技術——各種近代工業の勃興——輕工業技術——中小工業の低位性——近代工業技術の導入と朝鮮經濟との關係……………	

第十章	農業の發達……………	四五
-----	------------	----

第一節	併合前、朝鮮農業衰退とその自然的、社会的、經濟的並に技術的原因……………	四五
-----	--------------------------------------	----

内治、外交財政の疲弊混乱——農民社会の封建的構造——自足経済より貨幣経済への過渡時代——「漚施設
の廃類——營農法の幼稚——勤勞精神の欠如

第二節 農政への総督府の異常なる努力……………四八

(イ) 伊藤統監時代(予備期)……………四八

勸業模範場の開設——土地調査の開始

(ロ) 寺内総督時代(第一期)……………五〇

農業振作の目標明示——農業の指導奨励——朝鮮農業開発の第一期

(ハ) 斎藤総督時代(第二期)……………五三

朝鮮産米増殖計画其の他各種計画の樹立——勸農機關の整備——朝鮮農業開発の第二期

(ニ) 宇垣総督時代(第三期)……………五五

農村振興運動——自作農地設定——朝鮮農地令——朝鮮産米増殖計画の中止——穀物検査の國營——

其の他の重要施設

(ホ) 南総督時代(第四期)……………五九

農土併進主義——食糧事情の逼迫と増米計画及甘藷——増産奨励計画の実施——食糧の供出と配給

(ヘ) 小磯総督時代(第五期)……………六一

「断じて食はず」声明——食糧保護政策——食糧配給の法的國家管理

第三節 宇垣農村振興運動……………六五

一、宇垣施設と農村振興……………六五

施設方針の明示——農村の窮乏状況——農村振興自力更生の運動

二、農村振興運動の実施……………六六

農山漁村の振興、自力更生運動の趣旨方針の大綱發展——第一期工作——第二期工作

三、農村振興運動の第二期工作	六七
四、更生計画の要領	六九
更生指導部落の選定——農村振興会の組織——府、道、郡邑面農村振興委員會——更生計画の要領——農家經濟基本調査	
五、農家更生計画の実績	七一
(1)不足食糧の充実——(2)負債償還の実績——(3)現金收支の均衡狀況	
六、農村振興運動の効果	七二
七、農家更生計画の拡充と並行施設	七三
第四節 日本人地主及び技術者の朝鮮農業生産向上への寄與	七四
一、地主	七四
多数大地主の存在——大地主発生の原因——農家各階級推移の狀況——日本人地主数	
二、朝鮮人地主	七八
三、小作慣行の改善策	七九
地主会の結成——朝鮮農地令の制定	
四、地主の責務と日本人地主	八〇
五、日本人の土地経営法	八一
未墾土地の開発——小作人との共存共栄——進歩的且つ合理的經營法	
六、日本人地主の朝鮮農業への貢獻	八二
土地改良事業の先導——水利施設に投下せる資本	
七、農事改良に及ぼせる効果	八三
八、小磯総督の地主利用策	八四
九、日本人技術者の朝鮮農業生産力向上への寄與	八五

第五節 米穀の増産とその意義……………八八

一、食糧充実と米穀増産……………八九

食糧充実は総督施政の第一義——食糧不足の原因——朝鮮産米増産計画

二、農家経済と米穀増産……………九二

三、米を中心とする産業の勃興……………九四

巨額に上る米の生産——商品となる米の数量——米中心の産業の勃興

四、朝鮮米の貿易と増産……………九八

日本への移出——朝鮮米の貿易上の地位——米の輸移出が盛である理由——日華事変以後の米穀事情の一変

一変

五、日本の食糧問題への貢献……………一〇二

日本の食糧不足と朝鮮米及台湾米の移入——朝鮮米移出は自然な経済的取引

附 朝鮮の米作と水利事業……………一〇五

朝鮮の旱魃——水利灌漑事業——朝鮮産米増殖計画——朝鮮の水利事業の規模——朝鮮産米増殖計画の中止——朝鮮増米計画

第六節 その他の農産物の増産とその意義……………一一一

一、米以外の食糧作物……………一一一

畑作物の生産価値——朝鮮に於ける食糧の消費状況——畑作改良増殖計画——甘藷増産奨励計画

二、棉……………一一三

(イ) 米國陸地棉の試作——(ロ) 米國陸地棉の栽培奨励(棉作奨励第一期計画——第二期計画——計画の一部変更と棉作の盛衰)——(ハ) 棉花増産計画の樹立——(ニ) 棉花増産奨励の意義

画の一部変更と棉作の盛衰)——(ハ) 棉花増産計画の樹立——(ニ) 棉花増産奨励の意義

三、朝鮮の苹果……………一二一

第七節 養蚕奨励とその意義	一二八
(イ) 果樹の奨励施設	
(ロ) 苹果栽培の発達	
(ハ) 朝鮮苹果の好評	
(ニ) 苹果の栽培的價值	

養蚕改良奨励——養蚕取締——産繭百万石計画——製糸業の長足の進歩——養蚕業の現況

第八節 畜産及び畜産行政	一三三
--------------	-----

一、牛	一三三
-----	-----

(イ) 牛の改良に関する施設(牛種保存——保護牛、規則の制定——種牡牛の充實——種牛生産地区の設置——標準体系の設定)——(ロ) 牛の増殖に関する施設(種付の奨励——生産奨励郡の設置——預託の奨励——牛契——購入資金の融通——妊牛屠殺の取締)——(ハ) 牛の飼育に関する施設(飼料の充實——畜力の利用——去勢の奨励——畜牛の肥育——厩肥の増産——牛皮の改良——畜牛の共済——病牛の治療)——(ニ) 其の他の施設(畜牛の取引——畜牛の輸移出——指導機關の充實——試験研究機關の設置——朝鮮牛増殖計画)

二、馬	一四四
三、緬	一四六
四、豚	一四七
五、鶏	一四八
六、養蜂	一四八
七、畜産物	一四八
第九節 結語	一五〇

朝鮮の爲の統治——朝鮮の農業によつて日本の得たもの——朝鮮は農業上何を得たか——終戦後の朝鮮

第一表	地稅納稅義務者面積別人員表	三〇
第二表	人口の増加	三三
第三表	職業別人口表	三三
第四表	内地資本の鮮内投資額	三八
第五表	米穀需給量	六二
第六表	累年農產物生産額	六三
第七表	農產物生産高	六三
第八表	産業別生産指數	六四
第九表	階級別農家戸数	七五
第十表	階級別農家戸数千分比例	七六
第十一表	百町歩以上地主道別数	七六
第十二表	地稅納稅義務者面積別人員表	七七
第十三表	朝鮮米作付反別及生産増加趨勢	七八
第十四表	米穀移出高並に消費高	九〇
第十五表	日華事變後の米生産高移出高調	九二
第十六表	道別畝田別割合	九三
第十七表	各種産業生産額（一九三六年）	九四
第十八表	農產物別作付面積	九五
第十九表	農產物生産高	九五
第二十表	米生産高及移出高調	一〇〇
第二十一表	朝鮮米の貿易上の地位	一〇二
第二十二表	米生産高に対する輸出移出割合	一〇二

第二十三表	日本の米不足と台鮮米移入額及外米輸入額	一〇三
第二十四表	朝鮮米及台湾米の日本への移入状況	一〇三
第二十五表	朝鮮産米増殖更新計画	一〇八
第二十六表	土地改良施行地域の産米増收の内訳	一〇八
第二十七表	産米増殖事業資金	一〇九
第二十八表	棉作面積並に生産高	一一七
第二十九表	苹果生産高	一二三
第三十表	梨生産額	一二三
第三十一表	果実生産高	一二三
第三十二表	果実日本移出高	一二六
第三十三表	果実輸出高	一二六
第三十四表	年次別畜牛飼養状況	一四三
第三十五表	一九四〇年畜牛飼養状況	一四四
第三十六表	一九四〇年畜牛異動状況	一四四
第三十七表	朝鮮牛輸出状況	一四四
第三十八表	馬、驢馬、騾頭数	一四六
第三十九表	肉類生産額	一四八
第四十表	牛皮生産額及輸移出額	一四九

通卷第六冊 朝鮮篇 第五分冊

第一節 概 説	五
一、林野の概況	五
二、林政の概要	六
三、林 産 物	八
第二節 林 野 調 査	一二
一、総 説	一二
二、林野整理調査	一二
（一）道知事の査定——（二）林野調査委員会の裁決	一四
三、國有林区分調査	一五
第三節 國有林野の処分	一五
一、第一種不要存林野の処分	一六
二、第二種不要存林野の処分	一七
第四節 國有林の經營	一七
一、機 関	一七
二、施業案の編成	一七
三、林野の概況	一七
四、伐採利用	一八
（一）伐木、運伐及流筏——（二）製材——（三）販 売——（四）立木拂下——（五）森林土木	二〇
五、製 炭	二〇
六、造 林	二〇

七、國有林野の保護	二〇
八、火田整理	二一
第五節 北鮮開拓事業	二二
一、森林の利用及開發	二三
二、火田民指導及農耕適地等の開放処分	二三
三、森林保護	二四
第六節 民有林	二四
一、民有林の概況	二四
二、民有林指導方針	二五
三、造林奨励	二六
(1)樹畜の需給——(2)記念植樹——(3)造林補助事業——(4)用材林造成事業——(5)林産副業の助成	二六
四、其の他の奨励施設	三一
(1)民有林野利用区分調査——(2)農用林地設営——(3)未利用の開發助成(4)木炭の増産奨励	三一
五、營林監督	三二
(1)施業監督——(2)保安林	三三
六、森林保護	三三
第七節 砂防事業	三四
一、荒廢地の分布狀況	三四
二、事業の計画	三五
(一) 國費継続砂防事業——(二) 其の他の砂防事業	三五

三、事業成績	三七
第八節 林業試験	三八
第十二章 水産業の発達	三九
第一節 総論	三九
海岸線、島嶼及潮流——水産業の発達——水産法規	
第二節 漁業	四二
一、漁場	四二
(1) 東海岸——(2) 西海岸——(3) 南海岸	
二、漁業の種類	四三
三、漁船	四四
四、漁獲物の処理、運搬及水産物の冷蔵	四五
五、販売機関	四六
六、漁港	四七
七、漁業経営費低減施設	四八
八、漁業の保護取締	四八
第三節 水産養殖	四九
一、貝藻類の養殖	四九
(1) 貝類——(2) 海藻類 (a) ノリ養殖——(b) テングサの増殖——(c) フノリの増殖	
二、魚類の増殖	五一

(1) コヒ——(2) ワカサギ——(3) アユ——(4) タラー——(5) 淡水魚養殖に対する補助

第四節 製 造 業……………五三

一、総 説……………五三

二、水産製品の検査……………五四

三、各種の統制……………五六

(1) 罐詰製造業の統制——(2) 鰯油肥の統制——(3) 寒天の統制

第五節 輸 移 出……………五八

第六節 試 験 調 査……………六〇

第七節 指 導、教 育……………六一

第八節 水 産 團 体……………六二

一、水 産 会……………六二

二、漁業組合、漁業組合連合会及朝鮮漁業組合中央会……………六三

イ、漁業組合——ロ、漁業組合聯合会——ハ、朝鮮漁業組合中央会

三、水産組合、水産組合聯合会……………六五

四、水産団体の綜合……………六六

第九節 結 言……………六六

第十三章 鉾 業 の 発 達……………六九

第一節 朝鮮鉾業發達の推移と鉾業行政……………六九

第二節 朝鮮の地下資源と近年に於ける鉱業の概要……………七八

一、金鉱および非鉄金属鉱業……………七九

(一) 金 鉱——(二) 銀 鉱——(三) 銅 鉱——(四) 鉛 鉱——(五) 亜鉛鉱——(六) 蒼鉛鉱——

(七) アンチモニー鉱——(八) 水銀鉱——(九) 鋁 錫

二、鉄鋼および合金鉄原料の鉱業……………八四

(一) 鉄 鉱——(二) タングステン鉱——(三) モリグデン鉱——(四) ニッケル鉱——(五) マン

ガン鉱——(六) コバルト鉱——(七) クローム鉄鉱

三、燃料 鉱 物……………九一

(一) 無煙炭——(二) 有煙炭——(三) 泥 炭

四、含稀有元素鉱物……………九四

リシヤ雲母——モナズ石——ジルマン——褐簾石——綠柱石——フェルグソン石

五、非金属その他の鉱物……………九六

(一) 硫化鉄鉱——(二) 燐灰石——(三) 鱗狀黑鉛——(四) 土狀黑鉛——(五) 螢 石——(六) 雲 母

——(七) 石綿——(八) 重晶石——(九) 砒 鉍——(一〇) 礪 鉍——(一一) 明礬石——(一二) マグネサイト——(一三) 珪 砂——(一四) 珪藻土——(一五) 蠟 石——(一六) 粘土類——(一七) 藍晶石——(一八) 石灰石——(一九) 苦灰石

第三節 日本の技術及び資本による朝鮮鉍業の開発.....一〇

第四節 結 論.....一五

一、輸出鉍産物と考えられるもの——二、朝鮮國內用として開発の要のあるもの——三、稼行困難と思われるもの——四、如何なる鉍物が差当り最も不足か

附表

第一表 林 野 面 積.....	八
第二表 林産物生産額内鑑表.....	一〇
第三表 朝鮮に於ける各種生産額.....	一一
第四表 朝鮮に於けるバルブ製造高.....	一一
第五表 造林(國費経営)各年別.....	二九
第六表 造林(公営及民営)各年別.....	三〇
第一表 主なる漁業.....	四三
第一表 鉍産物輸出額.....	七一
第二表 國籍別鉍産價額表.....	一一〇
第三表 鉍産價額換算指數表.....	一一〇
第四表 國籍別出願表.....	一一一
第五表 國籍別稼行鉍表.....	一一三

第六表 鉾種別鉾産額表	一二〇
-------------	-----

通卷第七冊 朝鮮篇 第六分冊

第十四章 工業の發達	一
------------	---

第一節 日韓併合前に於ける朝鮮の工業	一
--------------------	---

第二節 併合後の工業發展	三
--------------	---

一、序 説	三
-------	---

二、併合より第一次世界大戰後に至る期間	四
---------------------	---

三、滿洲事變前後より日華事變前までの期間	九
----------------------	---

四、日華事變より太平洋戰爭終了に至る期間	一七
----------------------	----

五、工業資本と中小工業	二五
-------------	----

(一)朝鮮に於ける産業設備資本の投下割合——(二)内地資本の朝鮮産業支配率——(三)鮮内主要産業資本支配率——(四)工業会社の日鮮人支配比率

第三節 朝鮮に於ける工業労働及び労銀	三二
--------------------	----

一、工鉾業人口の増加	三二
------------	----

二、近代産業の發達及び戰時下に於ける労力の窮迫	三五
-------------------------	----

三、労務対策及び賃銀対策	三六
--------------	----

四、労銀事情	三七
--------	----

五、朝鮮人労務者の特質	四五
-------------	----

第四節 朝鮮に於ける電氣事變の變遷……………四六

一、日韓併合前後の電氣事業……………四六

二、第一次世界大戰後の電氣事業……………四七

三、朝鮮の水力電氣……………四八

四、赴戰江水力の開發と第二回水力調査……………四九

五、發送電網計画の樹立……………五二

六、發電、送電、配電の現況……………五三

(一) 發電——(二) 送電——(三) 配電

七、電力國家管理(發送電の一元的運営)……………五七

八、朝鮮産業將來への寄與……………五九

第五節 結 論……………六一

第十五章 貿易及び商業の發達……………六三

第一節 朝鮮に於ける貿易の發達……………六三

一、朝鮮市場の成立……………六三

二、初期貿易の特徴……………六六

三、併合以後の貿易……………七四

時期的区分(第一期——第二期——第三期——第四期) 膨大な入超額

四、商品の構成及び地域の区分……………八〇

(イ) 商品の構成……………八〇

(ロ) 地域の区分……………一〇一

附 表

五、貿易政策の変遷……………	一六
第二節 商業の発達……………	一二一
一、旧來朝鮮の商業形態……………	一二一
イ、商業の組織……………	一二一
ロ、商業資本……………	一二七
ハ、官の統制……………	一二八
二、日本商人の進出と商業形態の变革……………	一三〇
イ、日本商人の進出……………	一三〇
ロ、併合後の商業……………	一三四
a、市場の統制（i）第二号公設市場——（ii）第三号羅賣市場——（iii）、第一号市場＝朝鮮在來市場） —— b、企業組織の発達……………	
三、戰時經濟の段階……………	一六一
イ、統制經濟への変較……………	一六一
ロ、物價の統制……………	一六二
ハ、配給制度の確立とその影響……………	一六八
第一表 一九一七——一九一九年間に設立せられたる工場……………	五
第二表 会社令実施成績……………	七
第三表 朝鮮工業会社資本金調……………	七
第四表 産業別生産額の変遷……………	一〇
第五表 工鉱業發展累年表……………	一一

第六表	工場数並に職工数の増加	一二
第七表	工業別生産高	一二
第八表	一九三八年工場生産業種別	一三
第九表	各種工産額累年表	一九
第十表	物價指数に依り修正した工場生産額	二三
第十一表	アルミニウム生産累年表	二四
第十二表	マグネシウム生産累年表	二四
第十三表	生産様式別生産額	三〇
第十四表	家内工業の各部門工産額中に占める比率（一九三九年）	三〇
第十五表	朝鮮の職業別人口構成	三二
第十六表	朝鮮人の職業別人口構成割合	三三
第十七表	賃銀指数	三六
第十八表	賃銀表	三八
第十九表	施設以來一九三七年迄の電力開発	五〇
第一表	一八七七年より一八八二年に至る輸出入額	六六
第二表	仁川港日清商輸入額	六八
第三表	一八八六——一八九三年の貿易額	六九
第四表	一八九四——一九一〇年の貿易額	七〇
第五表	一九〇七年度國別貿易收支	七三
第六表	併合後に於ける貿易の推移	七五
第七表	輸出入移出入の割合	七七

第八表	一八七七年より一八八二年に至る日本独占時代の貿易	八一
第九表	輸入重要品價額累年表	八二
第十表	輸出入重要品類別價格國別表（一九〇七年）	八三
第十一表	輸出品中に於ける農産物及び米、大豆の地位	八四
第十二表	輸出重要品價額累年表	八六
第十三表	朝鮮に於ける各種生産額	八七
第十四表	商品部類別貿易額の推移	八八
第十五表	商品種類貿易額の推移	九〇
第十六表	朝鮮主要移出入商品	九三
第十七表	種類別産地別輸出額	九八
第十八表	産地別累年輸出額	一〇一
第十九表	対内地並に對外國貿易の比重	一〇一
第二十表	朝鮮對内地貿易の推移	一〇二
第二十一表	對外國貿易の推移	一〇三
第二十二表	對外國貿易相手國別	一〇四
第二十三表	對滿洲支貿易の推移	一〇九
第二十四表	輸移出重要商品別國別表	一一〇
第二十五表	一八九六年朝鮮に於ける商館數	一三二
第二十六表	第二号公設市場發展趨勢	一三七
第二十七表	第三号市場公営私營別發展趨勢調	一三八
第二十八表	第三号市場分類表	一三八
第二十九表	公私設別在來市場の変遷	一四〇

第三十表	朝鮮に於ける道別業種別商業者数調（一九三八年推定）	一四一
第三十一表	農村市場に於ける常設店舗数の推定（一九三八年）	一四二
第三十二表	朝鮮に於ける在住支那人戸口調	一四四
第三十三表	市場取引高（一九四一年）	一四五
第三十四表	市場取引高累年調	一四六
第三十五表	農漁村産物増加と市場取引高対照	一四七
第三十六表	年代別市場数の増減	一四七
第三十七表	一九一一——一九三八年間道別市場数の増減	一四九
第三十八表	在留日本人中に占める商業者数	一五〇
第三十九表	日本人会社表（一九〇六年末）	一五一
第四十表	朝鮮に於ける会社資本累年比較	一五五
第四十一表	会社社数及び資本累年比較	一五七
第四十二表	日鮮人別資本金累年額	一五九
第四十三表	日鮮人別工場数及び生産額	一五九
第四十四表	京城物價指数	一六二
第四十五表	内鮮滿の物價推移	一六五

通卷第八冊 朝鮮篇 第七分冊

第十六章 金融の發達

はしがき

第一節 併合前に於ける通貨金融の非近代的狀態と之が近代的改革……………二

一、通貨金融の非近代的狀態……………二

朝鮮の通貨制度——朝鮮在來の金融機關——近代金融機關

二、近代的改革……………九

日本と共通の貨幣制度の樹立——韓國銀行の創立——其の他の通貨金融整理工作——併合直前に於ける各金融機關の情勢

第二節 併合後に於ける近代的通貨金融機構の整備進展……………一四

一、概 説……………一四

終戦直前に於ける朝鮮の金融機構の概貌——各金融機關の現勢——機構的分裂矛盾と非近代的（前資本主義的）要素の残存——朝鮮經濟發展段階——併合後に於ける朝鮮金融發展の趨勢——第一段階の金融的特徴——第二段階の金融的特徴——第三段階の金融的特徴——第四段階の金融的特徴

二、朝鮮銀行と通貨機構……………二三

朝鮮銀行——鮮銀券發行高——鮮銀券以外の通貨の鮮内流通高——鮮銀券の發行制度——朝鮮銀行の普通銀行業務

三、朝鮮殖産銀行と朝鮮に於ける金融統制の問題……………三〇

朝鮮殖産銀行の役割——朝鮮金融團の金融統制（金利の調整——貯蓄の増強——國債消化）

四、金融組合の發達と其の意義……………三五

金融組合の設立——殖産契——金融組合の發達——發達を逸げた原因——高利貸資本圧力の残存——朝鮮金融組合聯合會

鮮金融組合聯合會

五、郵便貯金及簡易保險の資金的意義……………四四

郵便貯金——簡易保險

六、普通銀行及其他の金融機関……………四七

地場銀行と支店銀行——貯蓄銀行業務——朝鮮信託株式会社——無盡業——東洋拓殖株式会社

第三節 朝鮮に於ける資金形成の問題……………五〇

朝鮮に於ける資金需給の均衡……………五〇

日本の内地資金の導入……………五六

朝鮮の資金蓄積力……………五

朝鮮の高率金利……………五九

第四節 朝鮮に於けるインフレーションの進展と其の特質……………六二

朝鮮に於けるインフレーション……………六二

鮮銀券増発の原因……………六七

大陸インフレーションの影響——日本内地インフレーションの影響

朝鮮に於ける資金吸収……………六九

第五節 國際收支……………七三

一、序……………七三

二、貿易上の國際收支……………七四

イ、朝鮮に於ける貨物貿易……………七四

ロ、相手國別に見た朝鮮の貿易……………八三

対内地貿易——対外國貿易

ハ、朝鮮に於ける金銀貿易……………八九

三、貿易外の國際收支……………九二

イ、受取勘定……………九二

1、國庫資金の流入額——2、大藏省預金部資金の流入額——3、会社資本に依る投資額（鮮内に本店を有する会社による投資額——鮮内支店を通じての会社資本の投資額——昭和十七年度以降に於ける内地資本の流入額）——4、労務益金

ロ、支拂勘定……………一〇

1、朝鮮總督府特別会計より内地特別会計への繰入額——2、有價証券の購入による流出資金——

3、大藏省預金部資金源としての流出資金——4、保険料支拂による流出資金（生命保険——災害保険）

四、結語……………一二三

第十七章 財政の発達……………一二五

第一節 朝鮮財政発達史概観……………一二五

一、併合前の財政……………一二五

李朝國家の財政——近代的財政制度の樹立——日本政府所屬の財政

二、第一期（一九一一年度より一九一九年度）獨立財政の樹立……………一二九

過渡期——創業期——獨立財政計画——歳計の発達

三、第二期（一九一九年度より一九三一年度）文化統治と財政……………一三六

イ、財政方向の較換——ロ、歳出の変遷

四、第三期（一九三一年度より一九三七年度）農工併進と財政……………一四四

イ、プロック經濟と朝鮮財政——ロ、歳入の近代化——ハ、歳出の構成

五、第四期（一九三七年度より一九四五年度）戦争と朝鮮財政……………一五〇

イ、膨脹する歳計——ロ、收入の構成——ハ、支出の重点——ニ、朝鮮財政と軍事費

第二節 租 稅 政 策 一六四

一、最近朝鮮の國稅体系 一六四

(a) 朝鮮の國稅体系——(b) 稅制の沿革

二、朝鮮の特殊事情と稅制 一七三

租稅の發展段階に基く特異性——納稅者の担稅力に基く相違——朝鮮の特殊な慣習に基く相違点——一般民衆の社會通念、經濟、産業狀態に基く朝鮮の特異性——社會制度に基く特異点——産業政策に基く特異点——物價事情に基く特異点

三、關 稅 一七六

第一、總 說 一七六

第二、關稅據置期間中に於ける關稅制度の刷新 一七八

第三、關稅法、關稅法定率法等の施行 一七九

第四、免稅特例及國境關稅 一八〇

第五、移入稅の存続と其の撤廢 一八一

第六、出 港 稅 一八二

第三節 公 債 金 一八四

一、併合當時の借入金と爾後の歲出入關係 一八四

韓國政府時代——朝鮮總督府特別會計設置以後

二、朝鮮事業公債法による公債並に本法に準じ發行せられた公債 一八八

三、公債の發行と償還 一九一

四、朝鮮財政と公債政策 一九二

第四節 補充金關係 二〇四

附 表

第五節 地方財政の進展	二二〇
一、道	二二〇
イ、歳計の発達——ロ、歳入——ハ、歳出	二二〇
二、府	二二五
イ、歳計の発達——ロ、歳入——ハ、歳出	二二五
三、邑、面	二二七
イ、歳計の発達——ロ、歳入及歳出	二二七
四、学校組合	二二九
五、学校費	二二〇
六、地方財政の発展と内鮮人負担関係	二二一
第一表 各種貨幣流通高累年表	一一
第二表 韓國金融機關一覽表	一三
第三表 朝鮮の金融機構	一五
第四表 鮮内金融現機關現勢	一六
第五表 併合後に於ける朝鮮金融發展の趨勢	一八
第六表 各種銀行貸出金使途別表	一九
第七表 朝鮮對内地貿易表	二一
第八表 朝鮮對内地貿易內容構成表	二二
第九表 各種銀行貸出金事業別表	二二
第十表 一九四三年（昭和十八年）度鮮内産業資金事業別用途別調	二四
第十一表 朝鮮銀行券年末並に月末発行高表	二六

第十二表	鮮銀券以外通貨流通見込高表	二八
第十三表	朝鮮銀行鮮内預金貸出勘定推移	三〇
第十四表	朝鮮殖産銀行主要勘定推移	三二
第十五表	朝鮮金融團指示預金利率表	三六
第十六表	金融組合主要資産負債勘定	三九
第十七表	金融組合貸出金使途別表	三九
第十八表	金融組合免展の推移	三九
第十九表	個人金貸業者平均金利表	四一
第二十表	金融組合聯合会主要勘定	四三
第二十一表	金融組合聯合会所有々價証券種類別内訳	四三
第二十二表	郵便貯金内鮮人別調	四四
第二十三表	朝鮮關係預金部資金還元額調	四六
第二十四表	朝鮮簡易生命保險積立金運用狀況	四六
第二十五表	普通銀行預金貸出推移	四八
第二十六表	普通銀行現勢	四八
第二十七表	東洋拓殖株式会社金融勘定推移	四八
第二十八表	鮮内各金融機關預金貸出推移	五一
第二十九表	一九四二年末に於ける資金運用	五一
第三十表	一九四二年末に於ける資金供給額	五一
第三十一表	一九四三年度鮮内産業資金調達法調	五五
第三十二表	鮮内金融機關貸出金事業別並に用途別調	五五
第三十三表	各種銀行一般預金貸出金内鮮人別表	五七

第三十四表	預金々利内鮮比較……………	六〇
第三十五表	中央銀行貸出標準金利内鮮比較……………	六〇
第三十六表	朝鮮銀行貸出標準金利沿革表……………	六一
第三十七表	銀行貸出金々利内鮮比較……………	六二
第三十八表	四系銀行券対前年膨脹率表……………	六四
第三十九表	全鮮手形交換高調……………	六四
第四十表	物價指数内鮮比較……………	六四
第四十一表	朝鮮銀行鮮内本支店爲替受拂表……………	六六
第四十二表	朝鮮銀行鮮内本支店対内地爲替受拂表……………	六六
第四十三表	鮮内陸海軍經費調……………	六九
第四十四表	朝鮮事業公債法に基く公債金收入表……………	七〇
第四十五表	朝鮮貯蓄目標額及実績表……………	七一
第四十六表	貯蓄実績内鮮比較……………	七一
第四十七表	年度別鮮内各種貯蓄額調……………	七二
第一表	朝鮮貿易の推移……………	七五
第二表	朝鮮の主要輸移出入商品……………	七七
第三表	対内地及び対外國貿易の比重……………	八三
第四表	朝鮮対内地貿易の推移……………	八四
第五表	対外國貿易の推移……………	八五
第六表	対外國貿易相手國別……………	八六
第七表	金銀貿易の推移……………	九〇

第八表	朝鮮経営費及び朝鮮事業公債発行額……………	九三
第九表	統監府時代に於ける日本政府支出の朝鮮経営費……………	九五
第十表	統監府時代に於ける日本政府の対韓國政府貸付……………	九五
第十一表	預金部資金貸出総括表……………	九六
第十二表	朝鮮に支店を有する内地会社及び資本金……………	一〇五
第十三表	鮮内産業資本調達調……………	一〇七
第十四表	内地向勞務者送出表……………	一〇九
第十五表	軍要員送出表……………	一〇九
第十六表	臨時軍事費特別會計繰入額……………	一一一
第十七表	國債整理基金特別會計繰入額……………	一一一
第十八表	恩給負担金繰入額……………	一一二
第十九表	金融機關以外の者の有價証券買入額……………	一一二
第二十表	金融機關の有價証券買入額……………	一一三
第二十一表	一九四二年（昭和十七年）末現在に於ける金融機關の保有國債……………	一一三
第二十二表	殖銀金聯保有有價証券……………	一一五
第二十三表	朝鮮關係の郵便貯金、簡易生命保險、郵便年金の預金部預金額……………	一一六
第二十四表	内地に本店を有する生命保險会社の業績……………	一一七
第二十五表	内地に本店を有する災害保險会社の業績……………	一二〇
第二十六表	同……………	一二一
第二十七表	收支總括表……………	一二三
第一表	韓國政府歳入歳出予算……………	一二八

第二表	韓國國債……………	一二八
第三表	一九一一年度以降一九一九年度に至る歳計の推移(予算)……………	一三二
第四表	一九一一年度以降一九一九年度に至る歳計の推移(決算)……………	一三三
第五表	自一九一一年度至一九一九年度歳入種類別決算総額……………	一三四
第六表	歳出經常及び臨時別決算額の発展……………	一三四
第七表	一九一一年度以降一九一九年度に至る歳出予算目的別……………	一三五
第八表	第二期歳計の推移(決算)……………	一四一
第九表	第二期歳入内訳(決算)……………	一四二
第十表	朝鮮總督府第二期歳出予算目的別……………	一四三
第十一表	第三期歳計の推移(決算)……………	一四七
第十二表	第三期歳入内訳(決算)……………	一四八
第十三表	朝鮮總督府第三期歳出予算目的別……………	一四八
第十四表	第三期歳出予算目的別増加指数……………	一四九
第十五表	第四期歳計の推移……………	一五九
第十六表	第四期歳入内訳……………	一五九
第十七表	第四期歳出予算目的別……………	一六〇
第十八表	納税負担比較……………	一六一
第十九表	一般会計支出朝鮮經營費中軍事費一六二……………	一六二
第二十表	朝鮮總督府特別会計より臨時軍事費特別会計繰入額……………	一六三
第二十一表	関稅收入額累年比較……………	一八三
第二十二表	韓國政府公債金調……………	一八五
第二十三表	歳入に対する公債の地位……………	一八七

第二十四表	公債發行限度の沿革	一九五
第二十五表	補充金調	二〇八
第二十六表	道歳入百分比	二一二

通卷第九冊 朝鮮篇 第八分冊

第十八章	交通通信の発達	一
------	---------	---

第一節	交通	一
-----	----	---

一、鐵道	鐵道の発達	一
------	-------	---

1、併合前に於ける朝鮮の交通	一
----------------	---

(一) 鐵道開通以前に於ける原始的交通狀態	(二) 鐵道の創始
-----------------------	-----------

2、併合以後に於ける鐵道の發展	七
-----------------	---

(一) 國有鐵道	七
----------	---

(イ) 國有鐵道經營の変遷 (總督府鐵道局の設置——滿鉄委託經營——總督府直營還元——北鮮鐵道の委託經營及直營還元——自動車運輸事業の經營及統制会社への移管——地方鐵道局の開設——行政機構の簡素強力化——交通局の設置)——(ロ) 新線の建設と既設線及買收線の改良——(ハ) 既設線の改良 (買收線改良を含む)——(ニ) 運輸營業 (營業料程——客貨賃率——營業施設——運輸概況)——(ホ) 車輛及工作——(ヘ) 經理 (概説——營業收支——鐵道用品資金——鐵道投資額)

(二) 私設鐵道	四一
----------	----

ロ、鉄道の発達と朝鮮産業経済への寄與……………	四四
1、朝鮮産業経済の発達……………	四四
2、鉄道と資源開発の実際……………	四六
(一) 農産資源——(二) 林産資源——(三) 水産資源——(四) 地下資源——(五) 工作物	
(六) 動力資源——(七) 其の他……………	五一
ハ、結 言……………	五一
二、自 動 車……………	五二
イ、概 況……………	五二
ロ、自動車交通事業……………	五二
ハ、自動車の整備……………	五五
三、海 事……………	五六
イ、海 事 行 政……………	五七
ロ、海上輸送……………	五七
1、命令航路……………	五七
2、船 舶……………	六〇
3、輸 送 統 制……………	六三
4、港 湾 荷 役……………	六四
ハ、造 船……………	六四
ニ、海 員……………	六五
1、海 員 数……………	六五
2、海員の養成……………	六六
3、海員保護……………	六六

ホ、航路標識	六七
四、航空	六八
イ、航空輸送	六八
ロ、航空保安施設	六九
ハ、航空機工業	六九

第二節 通信

一、併合前に於ける原始的狀態	七〇
イ、近世的郵便制度の導入	七〇
ロ、電信電話	七〇
ハ、日本政府に依る通信施設	七二
ニ、韓國通信機關の合同統一	七五
ホ、通信事業の監督及機構	七八
二、併合後に於ける通信の發達	八一
イ、通信機關の普及狀況	八一
ロ、郵便遞送の改善	八一
ハ、電信線の拡充整備	八二
ニ、電信機械の進歩	八六
ホ、無線電信の施設	八八
一、京城無線電信局——二、木浦及濟州——三、京城無線電信局の擴張施設——四、鎮南浦無線電信局——五、清津無線電信局——六、蔚山無線電信局——七、清津航空無線標識局其の他	九二
ヘ、電話の施設と其の改良	九二

ト、警備電話線の施設	一〇二
チ、放送無線電話	一〇三
三、通信の発達と産業経済への寄與	一〇五
四、結 語	一〇八

第十九章 土木及治水

第一節 総 論

一、土木事業の沿革	一二六
二、土木行政の沿革	一二八

イ、要 綱——ロ、道路——ハ、河川——ニ、都市計画——ホ、港湾

第二節 土木事業の概要

一、治道事業（道路工事）

イ、沿 革——ロ、第一期治道事業——ハ、第二期治道工事——ニ、北鮮拓殖道路工事——ホ、國防道路工事——ヘ、國道新設改良工事——ト、鮮滿國境架橋工事——チ、國庫補助治道工事——リ、既成道路各道別延長——ヌ、特殊事業の概要

二、治水事業（河川工事）

イ、沿岸の概要——ロ、治水調査——ハ、治水事業の概要——ニ、主要直轄河川改修工事の概要（洛東江改修工事——漢江改修工事——龍興江改修工事——大同江改修工事——万項江改修工事——載寧江改修工事——三橋川改修工事——東津江改修工事——榮山江改修工事——南江放水路工事——鴨綠江護岸工事——城川江改修工事）——ホ、中小河川改修工事——ヘ、食糧対策小河川改修工事——ト、治水に關する特殊土木事業

附表

三、港 灣 事 業.....	一五九
イ、沿革の概要——ロ、主要港湾の修築概要（釜山港修築工事——麗水港修築工事——仁川港修築工事——多獅島港修築工事——馬山港修築工事——城津港修築工事——海州港修築工事——清津港修築工事——端川港修築工事——墨湖灣修築工事——其の他主要港湾施設の概要）.....	一七七
四、都市計画事業.....	一七八
イ、概 要——ロ、街路事業の概要.....	一七八
五、上下水道事業.....	一七八
イ、上水道——ロ、下水道.....	一七八
第一表 一九四五年（昭和二十年）四月——七月國有鉄道輸送成績.....	三二
第二表 一九四五年（昭和二十年）八月現在私設鉄道延長.....	四三
第三表 自動車交通事業營業許可路線延長料及事業者累年表.....	五四
第四表 朝鮮総督府命令航路表.....	五九
第五表 貿易船舶入港表.....	六〇
第六表 登簿船舶表.....	六一
第七表 不登簿船舶表.....	六一
第八表 船員手帳交付数.....	六六
第九表 海員養成所数及養成人員.....	六六
第十表 航路標識表.....	六八
第一表 通信事業合同當時に於ける電信線.....	七七
第二表 通信機關合同當時に於ける日本政府施設機關数.....	七九

第三表	一九〇五年七月朝鮮事業合同當時に於ける現業機關數	八〇
第四表	郵便線路（一九四〇年末現在）	八二
第五表	年度別電信電話線路延長	八三
第六表	電話事務取扱局所數	九三
第七表	朝鮮に於ける通信事業の推移	一〇九
第八表	通信事業概況（一九四三年度）	一一〇
第九表	通信官署所屬職員年次比較	一一六
第十表	通信官署職員累年比較	一一七
第十一表	郵便線路累年比較	一一八
第十二表	郵便局所年度別設置狀況	一一九
第十三表	郵便局所以外の通信機關設備表	一二〇
第十四表	電信線路及線條（一九四三年度末）	一二一
第十五表	電信線路及線條累年比較	一二二
第十六表	電話線路及線條累年比較	一二二
第十七表	電信電報通數累年比較	一二三
第十八表	著信電報通數累年比較	一二三
第十九表	通信事業歳出成立予算決算及決算額	一二四
第二十表	通信事業收支累年比較	一二五
第一表	北鮮拓殖道路工事進捗狀況（一九四五年）	一三四
第二表	國防道路進捗狀況（一九四五年八月）	一三五
第三表	國道新設改良工事施行狀況（一九四五年八月）	一三六

第四表	鮮滿國境架橋工事進捗狀況（一九四四年）	一三八
第五表	各道別道路の現況（一九四〇年）	一四一
第六表	直轄河川改修工事調書	一四五
第七表	中小河川改修工事各道別工費及工程（一九四三年九月）	一五六
第八表	食糧対策小河川改修工事進捗狀況（一九四五年）	一五七
第九表	朝鮮に於ける主要堰堤及貯水池	一五八
第十表	釜山港施設概要	一六一
第十一表	麗水港施設概要	一六三
第十二表	仁川港施設概要	一六五
第十三表	多獅島港施設概要	一六六
第十四表	馬山港施設概要	一六八
第十五表	城津港施設概要	一六九
第十六表	海州港施設概要	一六九
第十七表	清津港施設概要	一七〇
第十八表	端川港施設概要	一七〇
第十九表	墨湖灣施設概要	一七一
第二十表	其の他主要港灣施設概要	一七二
第二十一表	工業用地並に住宅地造成事業	一七九
第二十二表	市街地計画令適用都市及市街地計画決定事項	一八〇
第二十三表	土地区劃整理事業	一八二
第二十四表	市街地計画事業	一八五
第二十五表	主要都市の街路事業	一八七

第二十六表	上水道の現況	一八九
第二十七表	工業用水道施設概要	一九三

通卷第十冊 朝鮮篇 第九分冊

第二十章	在外朝鮮人の保護	一
------	----------	---

第一節	総説	一
-----	----	---

一、	朝鮮人鮮外移住の沿革	一
二、	在外朝鮮人の分布状況	三
三、	在外朝鮮人の生活状況	五

第二節	在外朝鮮人指導方針	七
-----	-----------	---

第三節	在外朝鮮人指導施設	九
-----	-----------	---

一、	在滿朝鮮人対策	九
(一)	教育施設——(二) 産業施設——(三) 金融經濟施設——(四) 衛生施設	九
二、	在支朝鮮人対策	二〇
(一)	教育施設——(二) 衛生施設——(三) 金融施設——(四) 輔導施設——(五) 其他の施設	二〇
三、	滿洲、北支等に於ける特殊施設	二四
(一)	集團部落の建設——(二) 安全農村の設定——(三) 自作農の創定——(四) 滿洲移民実行機關	二四
の設置——(五) 集團移民施設——(六) 北支模範農村施設		二五

第二十一章	戦争と朝鮮統治	二二
-------	---------	----

附表

第一節 朝鮮の戦争遂行上に占めた地位……………	三二
一、満洲、華北等との大陸経済圏構成の地位……………	三二
二、大陸の自活自戦体制と最終拠点及対日輸血路としての朝鮮……………	三六
第二節 軍需物資増産に対する措置……………	四二
第三節 各種戦力源の供出……………	四七
一、米穀の供出……………	四七
(附) 農業生産責任制と農業要員制……………	五八
(イ) 農業生産責任制……………	五八
(ロ) 農業要員設置制……………	六三
二、労務の送出……………	六五
(イ) 徴用令に依らざる対日労務供給……………	六五
(ロ) 徴用令実施後の労務事情……………	六七
第一表 一九三五年(昭和十年)六月現在満洲各省別朝鮮人戸数人口……………	四
第二表 一九三六年(昭和十一年)六月現在満洲各省別朝鮮人人口……………	四
第三表 各年次満洲在留朝鮮人人口の増加状況……………	五
第四表 諸外国在留朝鮮人数……………	五
第五表 満洲在留朝鮮人職業別戸口表(一九三五年六月)……………	六
第六表 一九三七年(昭和十二年)五月末現在在満朝鮮人学校……………	一四
第七表 一九三九年(昭和十四年)度日本側保留在満朝鮮人学校……………	一四

第八表	在北支教育施設補助の状況	二二
第九表	安全農村概況（一九三八年一月現在）	二六
第十表	集團移民状況（一九三八年）	二八
第十一表	集團開拓民省別入植調	二八
第十二表	対内日貿易の推移	三六
第十三表	輸移入重要品	三六
第十四表	対内地移出米穀数量	四九
第十五表	朝鮮人の米穀消費量	五一
第十六表	月別米穀消費趨勢	五一
第十七表	滿洲雜穀月別輸入計画対実績	五四
第十八表	米穀の買上実績	五七
第十九表	麦の生産と供出数量	五八
第二十表	主要食糧作物作付計画面積及生産数量	五九
第二十一表	朝鮮人日本内地渡航者帰還累年表	六七
第二十二表	朝鮮人勞務者対日本動員數調	六八
第二十三表	國民徵用実施狀況	六九
第二十四表	朝鮮内に於ける官幹旋勞務者數調	七一
第二十五表	道内動員數調	七一
第二十六表	軍要員送出勞務員數調	七一
第二十七表	朝鮮に於ける勞務動員數	七二

通卷第十一冊 朝鮮篇 第十分冊

六八

朝鮮統治の性格と実績

——反省と反批判——

はしがき……………一

一、所謂「同化政策」に就て……………二

独特の同化政策……………二

自治主義……………三

独立万歳事件以後の同化政策の一層の強行……………四

同化政策の不徹底又は行過ぎ……………四

朝鮮人の皇民化運動の失敗——善意の惡政……………八

創氏制度の進歩的性格とその失敗……………一〇

内鮮共学制の導入——内鮮人関係の民主化……………一一

一視同仁的同化政策の革新的、民主的性格……………一二

二、所謂「特殊事情」の主張と朝鮮総督の綜合行政権……………一三

総督の綜合行政権の内容……………一三

朝鮮の「特殊事情」の意義……………一四

行政的な母國延長主義と一視同仁的同化政策との対立……………一六

重要産業統制法の朝鮮施行を繞る問題——戰時統制經濟の内鮮一元化に關聯する問題……………一六

「内外地行政一元化」の措置と總督の綜合行政権……………	一七
三、朝鮮統治の經濟面……………	一八
日本の朝鮮併合の動機——國防上の必要……………	一八
旧來の朝鮮經濟の停滯性……………	二三
低度な經濟發達段階——朝鮮經濟停滯の原因……………	二五
日本の指導による朝鮮産業の開発……………	二五
資本の自己増殖運動よりも國家的指導が開発の推進力——日本資本の商業的高利貸資本的性格と朝鮮の封建的高率小作料——土地改革の不徹底……………	二五
四、朝鮮の産業政策……………	三〇
日本の朝鮮併合以後に於ける朝鮮の産業經濟政策の推移……………	三〇
第一期——第二期——第三期——第四期……………	三一
第一期の特徴……………	三一
朝鮮近代化への基礎的準備工作……………	三一
第二期の特徴……………	三一
米穀單種耕作型産業構造への再編成（植民地經濟の典型的構造——鮮内米消費高の減少——米穀單種耕作型産業構造の必然性——朝鮮農業に対する官の指導と督勵——産米増殖計画——朝鮮經濟の向上）……………	三一
第三期の特徴……………	四三
朝鮮の工業化（朝鮮産米増殖政策の打切——近代工業の移植育成——産業構造の工業化再編成——農村振興運動）……………	四三
第四期の特徴……………	五〇
軍需産業中心の再編成（近代的工業生産力の物的基礎の形成——朝鮮工業の急速な重化学工業化、軍需……………	五〇

産業化——民需産業の育成確保)

結

語

五、朝鮮の財政及び金融についての諸問題

朝鮮の財政上の問題

朝鮮の戦費負担額——其の他の内地会計への繰入額——健全財政方針の堅持——生産公債——租税負担

額——朝鮮財政の性格

朝鮮の金融上の問題

朝鮮の貨幣制度——最近の朝鮮インフレーション——朝鮮の金融機関——朝鮮における資金形成の問題

六、朝鮮人の民度について

朝鮮経済の躍進発達

朝鮮人の人口の顯著なる増加

朝鮮人職業別人口の推移

朝鮮人間の分配問題(農村の階級構成)

自作農の小作農への顛落——農業経営の零細化——朝鮮農民の貧窮——土地関係の根本的改革を實行し

得なかつた原因

朝鮮人対在鮮内地人間の分配問題(内鮮人の産業支配関係)

朝鮮産業設備資本の内鮮投下割合——内地財閥及産業資本の朝鮮産業支配率——鮮内主要産業資本系の

支配率——朝鮮人支配下の会社——營業税納税人員の内鮮別割合——土地所有の内鮮別割合

朝鮮人の経済的民度

朝鮮人の文化的民度の向上

教育機関の普及——公衆衛生の改善

戦争経済への突入が朝鮮における富の配分関係に及ぼした変化……………九六

- (1) 土地所有の朝鮮人側への集中——(2) 中小商工業への朝鮮人の進出——(3) 朝鮮人の賃銀若くは俸給取得者層の激増——(4) 農民、小運送労力その他の自由労務者層の所得の激増——(5) 生活物資の内鮮無差別配給

むすび……………一〇六

「独立」朝鮮経済の将来……………一〇七

はしがき……………一〇七

一、日本より受け継いだ経済的資産……………一〇八

終戦当時の産業構造……………一〇九

生産物価額から見た朝鮮の産業構造及生産力——部門別工場生産額——交通運輸の輪廓

日本の対朝鮮産業投資……………一一一

日本の技術的指導援助……………一二二

二、主體的條件——民族的経済構造……………一二三

民族的資本……………一二六

朝鮮人の産業支配関係——朝鮮の農村構造

技術の民族的水準……………一二一

三、「独立」朝鮮経済の客観的條件……………一二三

A 「独立」に伴う不利益……………一二三

- (1) 米作農業開発の意義喪失——(2) 朝鮮工業化の一大原因の消滅——(3) アウタルキー的採算價

値の消滅——(4) 朝鮮工業の日本経済との有機的關聯の喪失——(5) 対外市場の狹隘化——(6) 國內市場の狹隘化——(7) 朝鮮の人口過剰失業問題の深刻化——(8) 日本の資金及技術の流入停止	一三二
B 「独立」に伴ふ利益……	一三二

(1) 朝鮮民族の独立解放に對する世界の同情——(2) 殆んど皆無の戦禍——(3) 敗戦負担からの解放——(4) 日本の投資施設の継承——(5) 關稅自主權の行使——(6) 朝鮮の對外購買力等の確保——(7) 在鮮日本人の占めた高級的職場の解放	一三四
「独立」に伴ふ損失としての考察上の注意……	一三五

四、「独立」朝鮮經濟今後の動向 其の一……	一三五
-----------------------	-----

A 國際收支適合の見地より……	一三五
-----------------	-----

國際收支惡化の見透し——これに對抗する改善策

B 過剰人口対策……	一五一
------------	-----

C 財政確立の見地より……	一五三
---------------	-----

五、「独立」朝鮮經濟今後の動向 其の二……	一五五
-----------------------	-----

むすび——朝鮮經濟關係の將來……	一五七
------------------	-----

國民經濟の自主的獨立性の護持育成……	一五七
--------------------	-----

今後の日鮮關係……	一五八
-----------	-----

日鮮貿易關係——技術面における日鮮の提携——日本文化の輸出

附 錄 南北鮮の分割と朝鮮經濟……	一六二
-------------------	-----

附 表

第一表 朝鮮國別貿易百分比……	一九
-----------------	----

第二表	鮮米の生産高、移出高及び一人当消費高	三三
第三表	内地、朝鮮、台湾主要食糧一人当消費高（昭和五年）	三四
第四表	各米穀年度に於ける鮮米の生産高、移出高及び一人当消費高	三五
第五表	耕地面積の増加	三九
第六表	米の反当収量	四〇
第七表	朝鮮対内地貿易額	四六
第八表	朝鮮対内地貿易内容構成	四七
第九表	朝鮮対外貿易	四八
第十表	朝鮮貿易額中輸移出割合	四九
第十一表	各種産業別生産額	五一
第十二表	工場生産額類別	五二
第十三表	朝鮮総督府特別会計より臨軍費繰入累年	五六
第十四表	直接税平均負担額	五九
第十五表	鮮銀券発行高	六二
第十六表	鮮内金融機関預金貸出（昭和二十年一月末）	六四
第十七表	同 右（昭和十五年末）	六七
第十八表	殖銀、東拓、金融債券の残高及び鮮銀券の保証発行高	六八
第十九表	朝鮮経済力の向上	七〇
第二十表	併合後朝鮮人人口の絶対的增加	七二
第二十一表	朝鮮人職業別人口推移	七四
第二十二表	農家階級別構成比率	七五
第二十三表	自作小作別耕地面積比率及び指数	七六

第二十四表	耕地面積別農家戸数比率（昭和十三年）	七七
第二十五表	朝鮮産業設備資本の投下割合	七九
第二十六表	内地財閥及び産業資本の朝鮮産業支配率	七九
第二十七表	鮮内主要産業資本系の支配率	八一
第二十八表	内鮮人支配別朝鮮本店会社	八三
第二十九表	朝鮮人支配下の会社割合表	八四
第三十表	営業税納税別人員表（昭和十三年）	八七
第三十一表	地税納税義務者面積別人員表	八七
第三十二表	初等学校状況	九一
第三十三表	地税納税義務者面積別人員推移	九七
第三十四表	京城府内中小商業者開業年数別	九八
第三十五表	工場労働者増加状況	一〇〇
第三十六表	工場、鉱山、運輸事務所商店の使用労働者	一〇一
第三十七表	内地向労働者送出累年表	一〇二
第三十八表	内地在留朝鮮人職業別	一〇二
第三十九表	京城労働賃銀調	一〇四
第四十表	朝鮮各種生産物価額（昭和十八年）	一〇八
第四十一表	工場生産額類別（昭和十七年）	一〇九
第四十二表	交通運輸統計	一一〇
第四十三表	日本の対朝鮮産業投資	一一一
第四十四表	朝鮮人職業別戸数（昭和十七年）	一一四
第四十五表	在鮮日本人職業別戸数（昭和十七年）	一一五

第一部 台灣經濟半世史概観

通卷第十二冊 台灣篇 第一分冊

第四十六表	朝鮮在籍会社日鮮人支配別 (昭和十三年)	一六
第四十七表	營業稅納稅別人員表 (昭和十三年)	一七
第四十八表	地稅納稅義務者面積別人員表 (昭和十二年)	一八
第四十九表	農家階級別構成比率	一九
第五十表	自作小作別耕地面積比率	二〇
第五十一表	耕作面積別農家戸數比率 (昭和十三年)	二〇
第五十二表	輪移出中移出割合	二七
第五十三表	朝鮮對外貿易中「円域」の占める割合 (輸出)	二七
第五十四表	朝鮮貿易額	二七
第五十五表	輪移出重要品數量金額 (昭和十四年)	三七
第五十六表	輪移入重要品數量金額	三九
第五十七表	南北鮮の面積、戸數及び人口 (昭和十五年)	四四
第五十八表	南北鮮の職業別戸數 (昭和十五年)	四四
第五十九表	耕地面積及び主要農產物分布 (昭和十六年)	四六
第六十表	各種生產額の南北鮮分布 (昭和十五年)	四六
第六十一表	工產物の南北鮮分布 (昭和十五年)	四七
第六十二表	輪移出入南北鮮分布 (昭和十四年)	四九

はし が き 一

第一章 日本統治下に於ける台湾經濟發達史の時代付け 一

第一節 日本資本主義經濟發達史の時代付け 一

日本統治下の台湾に於ける經濟發達の歴史的過程 一

日本經濟發達史の各段階 一

第一期、商業資本主義時代Ⅱ本源の蓄積期（一八六八——一八九〇年） 二

第二期、産業資本主義確立期（一八九〇——一九〇〇年） 二

第三期、帝國主義への過渡期（一九〇〇——一九〇四・五年） 二

第四期、「帝國主義」完熟期（日露戰役後より第一次世界大戰開始まで） 三

第五期、帝國主義再編成期（一九二〇——一九三〇年） 四

第六期、統制經濟時代（一九三〇——一九四五年） 五

第二節 台湾經濟發達史の時代付け 六

第一期、資本主義への準備時代及確立時代 七

第二期、高度資本主義時代 七

第三期、「帝國主義」時代 八

第四期、統制經濟時代 九

台湾經濟が日本經濟に対して有してゐた價值の変動 一〇

第一段階、台湾がマイナスの附屬物であつた時代——第二段階、プラスの附屬物へと進みつつあつた時代

代——第三段階、不可欠な構成部分であつた時代

第二章 資本主義化準備並に確立時代（一八九五——一九〇五年） 一二

第一節 日清戦争の歴史的意義と台湾領有の事情	一二
日清戦争の歴史的意義に関する三見解	一四
自己保存と自己防衛のための戦争	一六
台湾領有は偶発的事件の一つ	一九
第二節 領有時に於ける台湾の價值	二二
第三節 台湾經濟資本主義の準備工作	二四
第一項 政治的準備工作	二五
(一) 治安設定	二五
(二) 外部勢力の排除	二六
第二項 經濟的準備工作	二九
(一) 通貨制度の改革	三〇
(二) 度量衡制度の近代化	三一
(三) 交通機關の整備	三一
(四) 土地制度の近代化	三二
第四節	三五
台湾に於ける日本産業資本主義の移植と確立	三五
台湾に於ける日本産業資本主義の進出方法	三六
一、砂糖——二、米——三、茶——四、阿片、塩、樟腦並に煙草	四〇
台湾經濟の發展	四〇

第三章 高度資本主義時代（一九〇五——一九一八年）	四二
第一節 「帝國主義」化への過渡期	四二
第二節 急速なる生産拡張	四三
一、製糖工業	四三
二、米作及茶業	四四
三、専売事業	四五
四、官営事業	四五
五、林野調査事業	四六
第三節 独占化と社会問題の発生	四七
第四章 「帝國主義」時代（一九一八——一九三〇年）	五〇
第一節 台湾に於ける「帝國主義」の露呈	五〇
第二節 産業の躍進と独占化の進展	五二
（一）製糖業——（二）米作——（三）茶業——（四）鳳梨罐詰——（五）バナナ——（六）専売事業	
第三節 金融資本の支配	五七
第四節 昭和パニツクと台湾	五八
第五節 解放運動の前進	六一
第五章 統制経済時代（一九三〇年初代期——第二次世界大戰終戦）	六五

第一節 統制經濟時代の概観……………	六五
第二節 準 戰 經 済……………	六九
第一項 準戰段階の概観……………	六九
第二項 二つの産業調査会……………	七四
(一) 臨時産業調査会——(二) 熱帶産業調査会……………	
第三項 重要産業の独占化と統制……………	七六
第四項 産米抑制を中軸とする農業再編成……………	七七
第五項 工業化への出発……………	八〇
第六項 地下資源の開発……………	八三
第七項 交通、通信機關の整備……………	八四
第八項 對外活動の再開……………	八四
第三節 戰爭經濟——前期……………	八六
第一項 前期の概観……………	八六
第二項 農業再編成の本格化……………	八九
第三項 工業化の躍進……………	九三
第四項 外地性よりの脱皮……………	一〇二

第四節 戦争経済——後期	一〇四
第一項 後期の概観	一〇四
第二項 後期に於ける農業政策	一〇七
一、攻勢期——二、潰滅期	
第三項 製糖業の轉換と其の末路	一二二
一、攻勢期——二、潰滅期	
第四項 工業部門の大勢	一二七
一、攻勢期——二、潰滅期	
第五項 終戦当時の政治経済の概観	一二二
結 論	一二四
——日本の治台バランスシートはプラスなりしか、マイナスなりしか？——	
日本治下台湾経済史略年表	一三三
第二部 地理的に見た台湾	一四七
第一章 自然	一四七
第一節 自然的位置	一四七
第二節 地勢的特質	一四八

第三節 氣候的特質	一五一
第四節 面積及び海岸線	一五六
第五節 人口の増減	一五八
一、經濟基体としての台灣人口	一五八
二、台灣常住人口總數	一五九
三、日本版図内人口増加率比較	一六〇
四、日本版図内に於ける人口割合及密度	一六一
五、種族別台灣人口	一六一
六、人口増加率	一六三
七、生産者としての台灣人口の増減	一六五
八、台灣に於ける總人口の増減及密度	一七〇
第二章 資源の分布	一七二
第一節 自然的環境	一七二
第二節 經濟的資源	一七三
一、山地地域	一七三
二、丘陵台地地域	一七五
(1) 大屯山彙丘陵台地帶——(2) 桃園地帶——(3) 新竹丘陵地帶——(4) 山地芭蕉地帶——(5) 大肚台地及八卦丘陵地帶——(6) 台南州下丘陵地帶——(7) 西部鉾山地帶	
三、平野地帶	一七七

- (1) 宜蘭平野(蘭陽平野)——(2) 台北盆地平野——(3) 台中盆地平野——(4) 員林平野——(5) 埔里盆地平野——(6) 嘉南平野——(7) 鳳山屏東平野——(8) 台東地溝帶平野

第三節 主要資源の概説……………一七九

一、農 業……………一七九

(一) 食 用 作 物……………一八〇

イ、米——ロ、甘 藷——ハ、小 麦

(二) 工 藝 作 物……………一八三

イ、甘 蔗——ロ、茶——ハ、落花生

(三) 植 物 纖 維……………一八七

イ、黃麻——ロ、苧麻——ハ、棉——ニ、亞麻

(四) 青 果 菜……………一九〇

イ、バナナ——ロ、パイナップル——ハ、柑橘類——ニ、蔬菜

二、糖 業……………一九一

三、林 業……………一九二

四、水 産 業……………一九三

五、畜 産……………一九四

六、鉱 業……………一九五

第三部 台灣の文化社会……………一九六

第一章 教 育……………一九六

第一節 教育の沿革……………一九六

第二節 学制の沿革	一九七
-----------	-----

第三節 教育機関	二〇〇
----------	-----

一、教育機関の系統	二〇〇
二、初等普通教育	二〇一
三、師範教育	二〇四
四、高等普通教育	二〇六
五、実業教育	二〇九
六、専門教育	二一〇
七、大学教育	二一二
八、其の他の教育機関	二一三
(一) 盲啞学校	
(二) 私立各種学校	
(三) 幼稚園	
九、南支那に対する教育施設	二一五

第四節 社会教育	二一六
----------	-----

一、社会教育の沿革	二一六
二、社会教育の現勢	二一七
三、社会教育の施設	二一八
イ、國語普及施設	
ロ、青少年團	
ハ、青年学校	
ニ、部落教化	

第二章 宗教	二二二
--------	-----

第一節 改隸後に傳來したる宗教	二二三
-----------------	-----

(一) 神道——(二) 佛教——(三) 基督教

第三章 社会厚生 二二六

第一節 社会事業 二二六

一、社会事業の沿革 二二六

二、台湾援護會 二二七

(一) 台湾社会事業協會——(二) 恩賜財團明治救済會——(三) 恩賜財團大正救済會——(四) 恩賜財團

昭和救済會——(五) 方面事業

三、救護事業 二二九

イ、罹災救助基金——ロ、窮民救助——ハ、行旅病人及行旅死亡人取扱——ニ、慈惠院(1)台北仁濟

院——(2)新竹慈惠院——(3)台中慈惠院——(4)嘉義慈惠院——(5)台南慈惠院——(6)高雄

慈惠院——(7)澎湖慈惠院

四、医療保護事業 二三一

イ、一般診療——ロ、特殊診療

五、経済保護事業 二三二

イ、職業紹介——ロ、住宅供給——ハ、宿泊保護——ニ、公設質舗——ホ、公設市場

六、兒童保護事業 二三四

七、社会教化事業及隣保事業 二三四

イ、少年救護——ロ、隣保事業

第二節 厚生施設 二三五

(一) 公園 二三五

(二) 図書館	二二六
(三) 博物館	二三七
(四) 台湾美術展覧会	二三八
(五) 台湾体育協会	二三九
(六) 公共浴場	二三九
第四章 衛生保健	二三九
第一節 一般的衛生概況	二四〇
一般衛生の沿革——出生率、死亡率、死因	
第二節 衛生機関	二四三
イ、官立医院——ロ、日本赤十字社台湾支部医院——ハ、慈恵院——ニ、開業医——ホ、公医——ヘ、南 支医療施設——ト、衛生調査機関	
第三節 防疫衛生	二四七
イ、傳染病予防規則——ロ、隔離病舎及細菌試験室——ハ、海港檢疫	
第四節 予防衛生	二四九
一、慢性傳染病と精神病	二四九
イ、結核予防——ロ、癩予防——ハ、性病予防——ニ、精神病予防——ホ、寄生虫病とトラホーム	
二、地方病	二五二
イ、マラリヤ——ロ、黒水熱——ハ、恙虫病——ニ、甲状腺腫——ホ、デング熱	
第五節 阿片行政	二五五

イ、阿片漸禁制度——ロ、國際阿片會議——ハ、原料阿片の購入——ニ、烟膏の製造と販売

第六節 保健施設……………二五八

一、市区改正……………二五八

二、上水道……………二五九

三、下水道……………二六〇

附表

第一表 台湾の属島数面積及周囲……………一五六

第二表 台湾常住人口総数比較……………一六〇

第三表 日本版図内人口増加率比較……………一六〇

第四表 日本版図内人口割合及密度……………一六一

第五表 種族別台湾人口……………一六二

第六表 台湾人口出生率……………一六四

第七表 台湾人口死亡率……………一六四

第八表 台湾人口自然増加率……………一六五

第九表 主要國人口動態……………一六五

第十表 台湾産業別人口……………一六七

第十一表 内地産業別人口……………一六八

第十二表 有業者を百とする産業別人口比……………一六八

第十三表 産業別内台人活動割合……………一七〇

第十四表 台湾の纖維作物生産額……………一八八

第十五表 台湾鉱業比較表……………一九五

第十六表	初等教育機關數（一九四二年七月末現在）	二〇三
第十七表	師範學校及臨時教育養成所（一九四二年四月末現在）	二〇五
第十八表	高等學校（一九四二年四月末現在）	二〇六
第十九表	中等學校數（一九四二年四月末現在）	二〇八
第二十表	女學校數（一九四二年四月末現在）	二〇八
第二十一表	實業學校數（一九四二年四月末現在末）	二〇九
第二十二表	實業補習學校數（一九四二年四月末現在）	二一〇
第二十三表	專門學校數（一九四二年四月末現在）	二一二
第二十四表	台北帝國大學學生數（一九四二年四月末現在）	二一三
第二十五表	盲啞學校數（一九四二年四月末現在）	二一四
第二十六表	私立各種學校數（一九四二年四月末現在）	二一四
第二十七表	幼稚園數（一九四二年四月末現在）	二一五
第二十八表	南支那國民學校數（一九四二年四月末現在）	二一六
第二十九表	國語普及施設調（一九四一年四月調）	二一九
第三十表	國語解者調	二一九
第三十一表	圖書館數（一九四二年四月末現在）	二二六
第三十二表	博物館數（一九四二年四月末現在）	二三八
第三十三表	一九三五年主要死因順位	二四二
第三十四表	官立醫院患者數	二四三
第三十五表	日本赤十字社台灣支部醫院患者數（一九四一年現在）	二四四
第三十六表	港別檢疫（一九四一年現在）	二四八
第三十七表	結核患者診療人員數	二四九

第三十八表	一九四〇年現在性病有毒調査.....	二五一
第三十九表	一九四一年マラリア防遏成績.....	二五四
第四十表	水道給水状況（一九四一年三月現在）.....	二六〇

通卷第十三冊 台灣篇 第二分冊

第四部 台灣の産業

第一章 農業.....	一
-------------	---

第一節 台灣に於ける農業進歩發達の技術的要因.....	一
-----------------------------	---

一、氣象調査.....	一
-------------	---

二、土性調査.....	二
-------------	---

三、種類、品種の導入.....	三
-----------------	---

四、品種改良.....	四
-------------	---

五、栽培法の進歩.....	五
---------------	---

六、病虫害対策.....	六
--------------	---

七、検査事業.....	七
-------------	---

八、農具の改良.....	八
--------------	---

第二節 台灣に於ける農業生産の發達状況.....	九
--------------------------	---

耕地面積——農業人口——農産額——農産物——農業と他の各種産業との割合——農家経営規模

一、米.....	一〇
----------	----

二、甘	蔗	一二
三、甘	諸	一三
四、茶		一五
五、芭蕉（バナナ）		一六
六、鳳梨（パイナップル）		一八
七、落	花生	二〇
八、豆	類	二一
九、麦	類	二二
一〇、胡	麻	二三
一一、黄	麻	二四
一二、苧	麻	二六
一三、苧	麻	二七
一四、棉	花	二八
一五、煙	草	二八
一六、柑	橘	三〇
一七、蔬	菜	三二
第三節 内地農業移民……………三四		
一、一般移民の概況……………		三四
官営移民事業——私営移民事業の助成——嘉南共栄協会		
二、花蓮港廳下の移民……………		三六
三、台東廳下の移民……………		三七

四、台中州下の移民	三七
五、台南州下の移民	三八
六、高雄州下の移民	三九
第四節 水利事業	四〇

一、水利施設と水利団体	四〇
二、官設埤圳	四一
三、公共埤圳	四三
四、認定外埤圳	四四
五、水利組合	四四
六、水利統制調査	四六
七、土地改良関係法令の制定	四六
八、十一箇年土地改良事業計画	四六

第二章 畜産業	四八
---------	----

第一節 畜産の概況	四八
-----------	----

第二節 各種畜産の状況	五一
-------------	----

一、畜牛	五一
二、馬	五三
三、豚	五五
四、山羊	五五

五、繭	五五
六、鹿	五六
七、家禽	五六
第三節 飼料対策	五九
第四節 家畜防疫	五九
第三章 林業	六二
第一節 台灣の森林	六二
一、森林の概要	六二
二、経済的森林	六三
三、樹林の分布	六四
イ、特殊性林帯——ロ、暖帶闊葉樹林帯——ハ、混生樹林帯——ニ、人工林帯	
第二節 林務行政	六七
一、林政機関の沿革	六七
二、最近の林務	六八
三、保護取締機関	六九
四、保安林制度	六九
第三節 森林計画事業	七〇
一、森林計画一般概況	七〇
二、施業案編成調査	七一

三、施業案檢訂	七二
四、施業案の編成実績	七三

第四節 造林事業	七三
----------	----

一、施業案編成以前の造林事業	七四
----------------	----

(一) 営林所々管造林	(二) 地方廳所管造林
-------------	-------------

二、施業安造林事業	七五
-----------	----

三、森林治水事業	七六
----------	----

四、保安林事業	七八
---------	----

(一) 保安林造林	(二) 保安林編入解除
-----------	-------------

五、海岸砂防造事業	七八
-----------	----

六、澎湖島振興造林事業	七九
-------------	----

七、民有林振興造林事業	七九
-------------	----

第五節 官行斫伐事業	八〇
------------	----

一、阿里山伐木事業	八〇
-----------	----

二、八仙山伐木事業	八二
-----------	----

三、宜蘭濁水溪の事業	八三
------------	----

四、林産物搬出道路開鑿	八四
-------------	----

第六節 木材の需給事情	八五
-------------	----

一、木材の需要状況	八五
-----------	----

二、林産物生産状況	八六
-----------	----

第四章 水 産 業

第一節 一般概況

沿革——漁業——漁場——漁業基地——養殖業——水産物製造——水産総額——水産業者——漁船

八八

第二節 水産行政

九〇

一、水産奨励

九一

(一) 海洋漁業奨励 (イ) 母船建造費補助——(ロ) 漁船建造補助——(ハ) 漁業改善施設補助——(ニ) 漁業組合補助——(ホ) 試験出漁船補助——(ヘ) 講習会、講話会補助——(ト) 指導員補助——(二) 漁業共同施設奨励——(三) 水産物冷蔵加工奨励 (イ) 製氷冷蔵庫建設補助——(ロ) 水産加工設備補助——(四) 鯉苗養成所——(五) 鱧皮増産奨励——(六) 水産皮革検査員設置費補助——(七) 澎湖島振興水産奨励——(八) 水産難放助事業補助

二、漁業移民奨励事業

九六

三、水産用資材水産業及水産物の配給統制に関する事項

九七

(イ) 水産用資材配給統制の実施——(ロ) 水産業統制の実施——(ハ) 鮮魚介の生産配給統制の実施——(ニ) 塩乾魚類の配給統制実施

四、水産団体

九九

五、水産実務教育

一〇〇

六、漁業処分及漁業取締

一〇〇

第三節 水産試験調査事業

一〇一

第四節 漁業

一〇二

一、かつを漁業

一〇二

二、機船底曳網漁業	一〇三
三、かじき、ふか、まぐろ延縄漁業	一〇三
四、かじき突棒漁業	一〇三
五、汽船トロール漁業	一〇三
六、捕鯨業	一〇四
七、かつを待網及大敷網漁業	一〇四
八、焚寄網漁業其の他網漁業	一〇四
九、釣漁業	一〇四
十、さんご漁業	一〇五
十一、河川漁業	一〇五
第五節 製造業	一〇五
一、まがつを節製造	一〇六
二、そうだ節製造	一〇六
三、ふふかひれと堆翅	一〇六
四、からすみ	一〇七
五、塩乾魚	一〇七
六、熟魚と魚業	一〇七
七、其の他一般塩蔵品	一〇七
八、たい田麩	一〇八
九、かまぼこ及竹輪	一〇八
十、フイツシユソーシ	一〇八

十一、水産皮革	一〇八
十二、工藝品	一〇八

第六節 養殖業	一〇九
---------	-----

一、サバヒ	一〇九
-------	-----

二、ぼら	一〇九
------	-----

三、蠣	一一〇
-----	-----

四、えび、かに	一一〇
---------	-----

第五章 鉾業	一一一
--------	-----

第一節 概況	一一一
--------	-----

鉾物——鉾数及面積——鉾産総額

第二節 鉾業に対する総督府の施策	一一二
------------------	-----

一、鉾業法令	一一二
--------	-----

二、調査事業	一一三
--------	-----

(一) 鉾物及地質調査——(二) 油田調査——(三) 石炭調査——(四) 金属鉾床調査——(五) 工業原料鉾物調査

三、地質調査機関	一一五
----------	-----

四、石油業法施行概況	一一六
------------	-----

五、産金奨励並管理	一一六
-----------	-----

六、石油の消費規正	一一七
-----------	-----

七、重要鉾物の増産と石炭の消費規正	一一七
-------------------	-----

八、石油試掘補助	一一七
----------	-----

第三節 主要鋁業……………一一八

一、金 鋁 業……………一一八

(一)金瓜石鋁山——(二)瑞芳鋁山——(三)砂金鋁業——(四)主要なる砂金地帯——(五)高位金段丘の調査計画

二、石炭鋁業……………一二四

(一)沿革——(二)分布——(三)炭質——(四)採炭設備——(五)需給狀況(1)生産——(2)輸移出——(3)需給調整

三、石油鋁業……………一二九

(一)沿革——(二)分布——(三)出鋁坑油田——(四)錦水油田——(五)新営油田——(六)竹頭崎及凍子脚油田——(七)苗栗製油所——(八)石油の需給

四、其の他の鋁業……………一三五

(一)砂金鋁業——(二)マンガン鋁々業——(三)ジルコン石及モナズ石鋁業——(四)水銀鋁業——(五)硫黄鋁業——(六)燐鋁業——(七)石綿鋁業——(八)銅鋁業

第六章 工 業……………一六四

第一節 一般工業……………一六四

一、工業発展の沿革……………一六四

二、工産額の趨勢……………一六九

三、工業研究所……………一七五

第二節 近年の各工業……………一七六

一、纖維工業……………一七六

(一)苧麻工業——(二)黃麻工業——(三)サイザルヘンプ工業	一七八
二、金屬工業……	
(一)製鉄工業——(二)アルミニウム工業——(三)マグネシウム工業——(四)ニッケル工業	一七九
三、窯業……	
(一)セメント工業——(二)カーバイト工業	一七九
四、化學工業……	
(一)肥料工業——(二)香料工業——(三)バガス板工業——(四)パルプ及紙工業——(五)植物油工業——	一八二
(六)有機合成化學工業——(七)ゴム工業	
五、雜工業……	
(一)帽子工業	一八三
六、食料品工業……	
(一)製茶工業——(二)鳳梨罐詰工業	一八三
七、專賣工業……	
(一)食塩——(二)樟腦——(三)酒——(四)煙草	一九五
第三節 工業要件……	
一、原料……	一九五
二、動力……	一九九
三、勞力……	二〇〇
四、需要……	二〇二
五、企業形態……	二〇三
第四節 投資会社……	二〇三

(イ)食料品工業——(ロ)金属工業——(ハ)機械器具工業——(ニ)窯業——(ホ)化学工業——(ヘ)製材業
木製品工業——(ト)印刷業製本業

第五節 台湾工業化の経過 二〇九

一、準戦階段に於ける台湾工業の発達 二一〇

工業導入の階段——熱帯産業調査会——日月潭発電所竣工

二、戦争階段に於ける台湾工業の発達 二一五

生産力拡充五箇年計画——工業化政策の実練——(イ)設備の拡張を行つたもの——(ロ)建設を終了して既に新製品を市場に出したのもの——(ハ)工業会社の創設——(ニ)竣工せる工場並に既に起工に着手せるもの——(ホ)設立を傳へられている工業会社及工場——(ヘ)動力施設の拡充

(イ)統制会社——(ロ)協議会、統制協会、組合——(ハ)会社の合併

三、戦争階段末期の台湾工業 二二三

(A)鉄鋼業——(B)軽金属製錬業——(C)機械工業——(D)化学工業

第七章 台湾の糖業 二三〇

第一節 台湾糖業の沿革 二三〇

一、領 台 前 二三〇

二、領 台 後 二三一

(一)糖業政策の確立——(二)糖業法規——(三)其の機関及施設——(四)糖業の統制

第二節 砂糖工業並に附帯工業 二三九

一、砂糖工業 二三九

(一)製糖工業——(二)製造法の概要	二四四
二、附帶工業	二四四
(一)糖蜜利用工業〔(イ)酒精工業——(ロ)酵母の製造——(ハ)フーセル油の利用——(ニ)蒸餾液の利用——(ホ)粘結剤として廃糖蜜の利用〕——(二)バガスバガスパルプ工業〔(イ)沿革——(ロ)産出量——(ハ)原料としてのバガスの特徴——(ニ)バガスパルプの品質、用途〕	二四四
第三節 台湾糖業の地位	二五四
第四節 四大製糖会社の沿革(附、糖業聯合会)	二五七
一、各社興亡の跡	二五七
二、四大製糖会社の沿革	二六〇
(一)台湾製糖株式会社——(二)明治製糖株式会社——(三)大日本製糖株式会社——(四)塩水港製糖株式会社	二六〇
附 糖業聯合会	二六〇
第五節 糖業会社の台湾に貢献せる事実	二七一
一、土地改造施設	二七五
(一)台湾製糖会社万隆並に大响営農場——(二)台湾製糖会社後壁林工場の客土作業——(三)塩水港製糖会社看天田地盤改造——(四)明治製糖蒜頭工場の塩分除去作業	二七五
二、鉄道施設	二七八
三、其の他の施設	二八〇
第六節 近年の台湾糖業	二八一
一、近年の生産状況	二八二

二、産糖高減少の原因	二八三
三、工場戦災状況	二八三
四、赤糖事業	二八四

第八章 電気瓦斯事業	二八六
------------	-----

第一節 電気事業	二八六
----------	-----

一、概要	二八六
二、日月潭水力発電工事	二八七
三、大甲溪開発発電工事	二八八
四、電気事業の統制	二九一
五、水力資源の調査	二九三
六、台湾電力株式会社の事業概況	二九五
七、未開発電源	二九六

第二節 瓦斯事業	二九七
----------	-----

一、瓦斯事業の概況	二九七
二、天然瓦斯研究所	二九八

附表

第一表 柑橘種類植付面積	三一
第二表 州廳別家畜数調	六〇
第三表 州廳別獣医師調	六一
第四表 一九四五年肉豚配給割当頭数表	六一

第五表	林野被害狀況……………	六七
第六表	一九四四年末保安林面積調……………	六九
第七表	一九四一年現在造林面積（營林所所管造林）……………	七四
第八表	地方廳所管造林実績……………	七四
第九表	樹種別新植面積……………	七五
第十表	阿里山予想蓄積高……………	八〇
第十一表	阿里山伐木作業狀況……………	八一
第十二表	八仙山予想施行面積及蓄積高……………	八二
第十三表	八仙山伐木作業狀況……………	八二
第十四表	宜蘭濁水溪蓄積予想高……………	八三
第十五表	大平山伐木作業狀況……………	八四
第十六表	最近三ヶ年木材生産及移出入狀況……………	八五
第十七表	木材生産量及價格……………	八六
第十八表	林産物処分高……………	八七
第十九表	水産業者及漁船の種類別隻数……………	九〇
第二十表	本島炭分析表……………	一二五
第二十一表	石油生産実績……………	一三一
第二十二表	最近に於ける石炭需給実績……………	一三九
第二十三表	鉱区数及面積鉱種別……………	一三九
第二十四表	台湾鉱業一覽……………	一四一
第二十五表	一九〇二年各産業の生産額……………	一六四
第二十六表	一九〇七年各産業の生産額……………	一六五

第二十七表	一九一二年工業生產額……………	一六六
第二十八表	一九一七年工業生產額及各種工業工場數並に職工數……………	一六六
第二十九表	一九二一年工業別工場數職工數及生產額……………	一六七
第三十表	一九二六年各產業の生產額……………	一六八
第三十一表	一九三六年——三八年各種產業の生產額……………	一七一
第三十二表	各種工業別生產額比較……………	一七一
第三十三表	產額五〇万円以上の工業別生產額……………	一七二
第三十四表	一九三九——四〇年工業別生產額……………	一七三
第三十五表	既設塩田及工業用塩田……………	一八五
第三十六表	樟腦製造順及副產物用途一覽表……………	一八七
第三十七表	酒類五ヶ年製造高……………	一九〇
第三十八表	酒類販賣數量……………	一九〇
第三十九表	酒類販賣全額……………	一九一
第四十表	葉煙草耕作面積……………	一九三
第四十一表	兩切煙草製造本數……………	一九四
第四十二表	煙草販賣実績……………	一九四
第四十三表	煙草累年販賣高對台灣製品比較……………	一九四
第四十四表	製品煙草仕向地別輸出調……………	一九五
第四十五表	主要原料一覽表……………	一九五
第四十六表	南支、南洋方面主要鉱物原料……………	一九八
第四十七表	新興工業会社の資源地及資源名一覽表……………	一九八
第四十八表	累年別發電量……………	二〇〇

第四十九表	内台人別主要職工賃銀.....	二〇一
第五十表	業種別工場労働者数.....	二〇一
第五十一表	工業別組織.....	二〇三
第五十二表	食料品工業会社.....	二〇四
第五十三表	金屬工業会社.....	二〇五
第五十四表	機械器具工業会社.....	二〇六
第五十五表	窯業会社.....	二〇六
第五十六表	化学工業会社.....	二〇七
第五十七表	製材及木製品工業会社.....	二〇八
第五十八表	印刷及製本業会社.....	二〇九
第五十九表	各種産業別生産額.....	一一三
第六十表	業種別工産額表.....	一一三
第六十一表	製糖工業総産額.....	一一四
第六十二表	工業別組織別表.....	一一五
第六十三表	工業別原動機使用状況.....	一一五
第六十四表	一九四二年度工業生産額.....	一二〇
第六十五表	一九三五年重要工産額表.....	一二一
第六十六表	一九三八年重要工産額表.....	一二二
第六十七表	重要工業品生産状況.....	一二四
第六十八表	工業別空襲被害状況.....	一二五
第六十九表	新式製糖会社各工場能力調.....	一二四
第七十表	一九三九—四〇年期糖種別産糖高.....	一二三

第七十一表	糖蜜生産高……………	二四五
第七十二表	酒精工場並に製造高……………	二四七
第七十三表	バガス生産量……………	二四八
第七十四表	世界砂糖生産高……………	二五二
第七十五表	日本砂糖生産高……………	二五三
第七十六表	赤糖 産出 高……………	二五三
第七十七表	台湾分蜜糖産高調……………	二五四
第七十八表	製糖狀況調……………	二五四
第七十九表	台湾瓜哇單位面積当産糖量……………	二五六
第八十表	全國砂糖消費と台湾の生産額……………	二五六
第八十一表	台湾工産額に於ける砂糖の地位……………	二五六
第八十二表	新式製糖会社私設鉄道累年表……………	二七八
第八十三表	新式製糖業近年の生産狀況……………	二八一
第八十四表	台湾糖業近年の生産狀況……………	二八二
第八十五表	各製糖会社別産糖高比較……………	二八二
第八十六表	製糖工場戦災洲況……………	二八三
第八十七表	州廳別赤糖工場調……………	二八四
第八十八表	最近の赤糖生産高……………	二八五
第八十九表	台湾島内の未開發電源予想表……………	二九七
第九十表	発電力累年比較……………	三〇〇
第九十一表	発電々力量累年比較……………	三〇一
第九十二表	電氣需要数累年比較……………	三〇二

第九十三表	用途別電力利用状況	三〇四
第九十四表	投下資本累年比較	三〇五
第九十五表	損益累年比較	三〇六

通卷第十四冊 台灣篇 第三分冊

第五部	台灣の經濟（其の一）	一
-----	------------	---

はしがき	一
------	---

第一章	貿易	一
-----	----	---

第一節	總說	一
-----	----	---

一、概況	一
------	---

日本領有以前に於ける貿易——日本領有後の貿易

二、輸移出入の構成	五
-----------	---

三、内外貿易の構成	六
-----------	---

四、商品の構成	九
---------	---

第二節	内國貿易	一三
-----	------	----

一、内國貿易趨勢	一三
----------	----

二、内國貿易の商品的構成	一六
--------------	----

第三節	外國貿易	一九
-----	------	----

一、對外貿易趨勢.....	一九
二、主要貿易品及び相手國.....	二四
三、滿洲事変以後の外國貿易の構成変化.....	二五

第二章 運 輸.....	三一
--------------	----

第一節 道路 橋 梁.....	三一
-----------------	----

一、領台前の道路.....	三一
二、軍 設 道 路.....	三一
三、道路橋梁の施工統一.....	三一
四、國 費 道 路.....	三一
五、縱 貫 道 路.....	三一
六、地方産業道路.....	三一
七、橋 梁.....	三一

第二節 港 灣.....	三八
--------------	----

一、沿 革.....	三八
二、基隆築港工事の概要.....	三九
三、高雄築港工事概要.....	四〇
四、花蓮築港工事概要.....	四一
五、新高築港工事概要.....	四二
六、新高工業港築造工事概要.....	四三
七、新高港漁港船溜築造工事概要.....	四三

八、蘇澳港修築工事概要	四四
九、大型船の渠設備概況	四五
十、安平港及び台南運河設備概況	四六
十一、蘇澳漁港の設備概況	四八
十二、新港漁港設備概況	四八
十三、海口船溜設備概況	四九
十四、馬公港設備の概要	四九

第三節 鉄

道

一、沿 革	五五
二、領台当時の台湾鉄道	五六
三、台湾縦貫鉄道	五七
四、縦貫線の複線工事	五八
五、淡水 線	五九
六、潮州 線	五九
七、宜蘭 線	五九
八、台東 線	六〇
九、集々 線	六〇
十、平溪 線	六〇
十一、阿里山、大平山、八仙山鉄道	六一
十二、私設鉄道	六一
十三、私設軌道	六二

十四、國有鉄道の現況……………六四

- (1) 機構——(2) 従業員——(3) 經理——(4) 營業——(5) 運轉——(6) 施設——(7) 車輛
——(8) 鉄道工場

第四節 自動車交通事業……………八〇

一、概 要……………八〇

二、國營自動車事業の現況……………八二

- (1) 概 況——(2) 車輛——(3) 營業籽程及び走行籽——(4) 運輸成績——(5) 自動車修理場

三、民營自動車事業……………八四

- (1) 乗合自動車——(2) 貨物自動車

第五節 海 運……………八七

一、概 況……………八七

二、命令航路……………八八

三、海事諸法關係……………九二

四、造 船……………九四

- (1) 計画造船——(2) 造船施設

五、航路標識……………九六

第六節 空 運……………一〇〇

一、沿 革……………一〇〇

二、日本内地、台湾間定期航空輸送……………一〇〇

三、台湾島内定期航空輸送……………一〇一

四、對外定期航空輸送	一〇一
五、飛行場	一〇二
六、附帶施設	一〇三
(1) 台北航空機修理工場	(2) 航空保安施設
第七節 台灣古來の交通機關	一〇四
一、竹筏	一〇四
二、戊克船	一〇五
三、轎	一〇六
四、牛車	一〇六
五、揀車	一〇七
第三章 通信事業	一〇八
第一節 郵便業務	一〇八
一、沿革及び概況	一〇八
二、遞送	一〇九
(1) 島内相互間	(2) 日本内地台灣間
(3) 集配	(4) 外國郵便
(5) 郵便料金	
第二節 電信電話	一一一
一、沿革	一一一
(1) 領台前の概況	領台後の概況
二、現況	一一四
(1) 台灣島内電信電話回線	(2) 台灣島外電信電話回線
(3) 對船舶無線電信	(4) 氣象用無線

電信——(5)加入電話——(6)交通局逓信部所管以外の電信電話

第三節 放送無線電話	一一八
------------	-----

一、概況	一一八
------	-----

二、放送事業の現況	一一九
-----------	-----

(イ) 放送施設——(ロ) 放送番組——(ハ) 普及状況	一二一
------------------------------	-----

國際電氣通信株式会社の概要	一二一
---------------	-----

(一) 無線事業の沿革の概要と現況——(二) 有線事業の沿革の概要と現況	一二四
--------------------------------------	-----

逓信部所屬官署一覽表	一二八
------------	-----

業務機關戰災狀況及び復旧措置	一二八
----------------	-----

第四章 物價	一三三
--------	-----

第一節 台灣經濟の変遷	一三三
-------------	-----

一、領台後の台灣經濟	一三三
------------	-----

二、台灣經濟の新動向と物價	一三四
---------------	-----

第二節 物價統制の推移	一三八
-------------	-----

一、暴利取締令より物價統制令の實施迄	一三八
--------------------	-----

暴利取締令——物品販賣價格取締規則——價格等統制令——物價騰落の推移	一四二
------------------------------------	-----

二、價格等統制令の例外となつて居る物品の價格統制	一四三
--------------------------	-----

三、物價統制令實施後の物價狀況	一四三
-----------------	-----

公定又は協定價格を設定したる物品——台灣の物價——物價の騰貴狀況

第五章 賃 銀 一四九

第一節 台湾に於ける労働力と賃銀の性格 一四九

一、労働力の量と質 一四九

台湾の労働者——食料品工業労働者（製糖工業労働者——鳳梨罐詰工業労働者——製茶労働者）

二、賃銀の特質 一五五

第二節 労働と賃銀の動態 一五七

一、台湾産業の発達と雇傭の増大 一五七

二、工業労働構成の推移 一五九

イ、業種別工場労働構成の変化——ロ、労働力の男女構成——ハ、労働力の出身別構成

三、移入労働 一六九

イ、日本人——ロ、中国人

四、賃銀の推移 一七三

イ、賃銀の一般的推移——ロ、業種別賃銀の推移——ハ、賃銀統制——ニ、台湾人の労働賃銀の上昇

附 表

第一表 事変下台湾貿易の変遷 四

第二表 輸移出入の構成 五

第三表 内外貿易構成 七

第四表 主要輸移出品價格表 九

第五表 輸移出総額に対する主要輸移出品價額の百分比 一〇

第六表 主要輸移入品價格表 一一

第七表	輸移入総額に対する主要輸移入品價格の百分比	一二
第八表	移出総額に対する類別移出品價額の百分比	一六
第九表	移入総額に対する類別移入品價額の百分比	一七
第十表	輸出の地理的構成変化	二五
第十一表	輸入の地理的構成変化	二六
第十二表	四域第三國向輸出構成	二九
第十三表	四域第三國輸入構成	二九
第十四表	橋 梁	三四
第十五表	基隆港の設備概要	五一
第十六表	高雄港設備の概要	五二
第十七表	花蓮港港の設備の概要	五三
第十八表	新高港の概要	五四
第十九表	私設鉄道の概況	六三
第二十表	國有鉄道の昭和二十年度歳入及歳出見込額	六六
第二十一表	國有鉄道營業料程	六六
第二十二表	昭和十九年度及二十年度運輸成績概況	六七
第二十三表	列車運轉料及列車回数	六八
第二十四表	各線マ線路容量	七〇
第二十五表	機関車車輛数	七二
第二十六表	客車車輛数	七四
第二十七表	貨車車輛数	七六
第二十八表	ガソリン動車車輛数	七七

第二十九表	車輛修繕施設	七八
第三十表	自動車營業料程	八二
第三十一表	自動車運輸收入並に輸送数量実績	八四
第三十二表	民營乘合自動車事業概況	八四
第三十三表	貨物自動車事業概況	八六
第三十四表	航路別收入	八七
第三十五表	造船会社表	九四
第三十六表	航路標識及燭光数一覽	九六
第三十七表	昭和十七年度命令航路一覽	九七
第三十八表	昭和十七年度命令航路收支概算表	九七
第三十九表	台灣島外通信回線設備	一一五
第四十表	主要地域に於ける加入電話普及狀況	一一六
第四十一表	放送施設	一一九
第四十二表	逓信部所屬官署名一覽表	一二四
第四十三表	業務機關戰災狀況及復旧措置	一二八
第四十四表	大正三年七月を基準とせる台北市卸賣物價指數	一三五
第四十五表	昭和七年以降物價騰貴率	一三六
第四十六表	昭和四年を基準とする台北市卸賣場價総平均指數	一四二
第四十七表	台北及東京の昭和八年を基準とせる卸賣物價指數比較	一四五
第四十八表	昭和十二年七月を基準とせる台北市卸賣物價指數	一四六
第四十九表	食糧品工業と他工業との比重	一五〇
第五十表	高雄に於ける鳳梨罐詰工業昭和十年作業期間に於ける狀態	一五三

第五十一表	製茶業工場及労働者数	一五四
第五十二表	賃銀、物價指数対照	一五五
第五十三表	台湾産業の趨勢	一五七
第五十四表	労務者増加比率表	一五八
第五十五表	業種別工場並に労働者数の發展	一五九
第五十六表	副業的家内工業に於ける労働力	一六六
第五十七表	帽子製造従事者一ヶ月平均收入	一六七
第五十八表	労働力の出身別構成	一六八
第五十九表	台湾に於ける日台別総人口	一七〇
第六十表	日華事変前迄の対岸中國よりの本島上陸者並に帰還者	一七二
第六十一表	業種別賃銀の推移（製糖工、旋盤工、大工、紡績女工）	一七四
第六十二表	工場未経験労働者初給賃銀決定基準	一七七
第六十三表	鉱山未経験労働者初給賃銀決定基準	一七七
第六十四表	台湾人労働賃銀の上昇	一七九

通卷第十五冊 台湾篇 第四分冊

第五部 台湾の経済（其の二）

第六章 財 政

第一節 台湾総督府特別会計

一、財政の独立.....	一
二、台湾財政と内地財政との相互依存関係.....	二
三、台湾財政の発達と予算概要.....	三
第二節 台湾官設鉄道用品資金特別会計.....	四
第三節 台湾米穀移出管理特別会計.....	五
第四節 官業収入.....	六
第五節 公債.....	七
第六節 租税.....	一〇
第七節 各税の沿革.....	一四
一、所得税.....	一四
二、配当税.....	一五
三、特別法人税.....	一五
四、地租.....	一六
五、家屋税.....	一七
六、営業税.....	一七
七、資本利子税.....	一七
八、法人資本税.....	一七
九、相続税.....	一八
十、鉦業税.....	一八
十一、外貨債特別税.....	一八

十二、台灣銀行券發行稅	一八
十三、登 錄 稅	一九
十四、砂糖消費稅	一九
十五、織物消費稅	一九
十六、骨 牌 稅	二〇
十七、廣 告 稅	二〇
十八、馬 券 稅	二一
十九、清涼飲料稅	二一
二十、特別行爲稅	二一
二十一、臨時利得稅	二二
二十二、大東亞戰爭特別稅	二二
(イ)利益配當稅——(ロ)公債及社債利子稅——(ハ)通行稅——(ニ)建築稅——(ホ)入場稅及特別入場稅	
——(ヘ)物品稅——(ト)遊興稅	
第八節 關 稅	二五
第九節 關稅の沿革	二六
一、關 稅——二、噸 稅——三、酒類出港稅——四、稅関管掌事務	
第十節 地方財政	二九
第七章 金 融	三一
第一節 通 貨	三一

一、始政前の幣制	三二一
二、始政後の幣制と其の沿革	三二二
三、台湾銀行券	三三二
イ、発行制度——ロ、流通高	
四、補助費	三八
第二節 銀行及び銀行勘定	四〇
一、銀行の消長	四〇
イ、始政当時の金融機関——ロ、銀行の設立	
二、銀行諸勘定	四五
イ、預金——ロ、貸出金——ハ、日本政府國債放資	
三、銀行各論	五六
イ、台湾銀行——ロ、台湾商工銀行——ハ、彰化銀行——ニ、革南銀行——ホ、台湾貯蓄銀行——ヘ、	
三銀行支店——ト、日本勸業銀行支店	
第三節 信用組合及び其の系統機関	六九
一、台湾産業組合の普及と変遷	六九
二、台湾に於ける信用組合の發達と特性	七一
三、産業金庫	七五
第四節 其の化の金融機関	七六
一、保險会社	七六
二、信託会社	七八

三、無盡会社	八〇
四、郵便貯金と低利資金	八二
五、台湾拓殖株式会社	八三
第五節 金 利	八四
第八章 島外收支	八九
第一節 島外收支の意義	八九
一、台湾經濟の性格と島外收支	八九
二、島外收支と島内資金	九三
第二節 島外の收支の特異性	九五
一、政府資金の收支	九五
二、島外收支り決済と調節作用	一〇一
第三節 島外收支觀察の方法	一〇六
一、觀察の態度	一〇六
二、統計資料	一〇六
イ、日本内地資本の投下狀況——ロ、各種産業累年生産額——ハ、島外收支調——ニ、資金異動調	一〇六
第四節 台湾經濟の推移と島外收支の概観	一一八
一、第一期、自明治二十八年（一八九五）年至明治三十八年（一九〇五）資本主義創生時代	一一八
イ、日本内地商業資本の進出——ロ、島外收支	一一八

附 表

二、第二期	自明治三十九年（一九〇六）至大正九年（一九二〇）資本主義的産業勃興時代……………	一二六
イ、商業資本の産業資本への轉化——ロ、日本内地資本投下と生産高——ハ、島外收支と資金異動		
三、第三期	自大正十年（一九二一）至昭和六年（一九三一）企業独占化（産業合理化）時代……………	一三八
イ、企業独占化の進展——ロ、日本内地資本投下状況と生産高——ハ、島外收支と資金		
四、第四期	昭和七年（一九三二）以降 經濟統制及近代工業化時代……………	一五四
イ、經濟統制と近代工業化の進展——ロ、日本内地資本投下と生産高——ハ、島外收支と資金		
五、結 語……………		一七四
第一表	歲入欠陷額表……………	三
第二表	官業收入累年表……………	六
第三表	銀行總括表……………	四五
第四表	島内に於ける銀行貸出金殘高調……………	四八
第五表	事業別銀行貸出金趨勢調……………	四九
第六表	昭和十六年（一九四一）末事業別銀行別貸出金調……………	五〇
第七表	台灣銀行貸出金中工業に対する資金の内訳……………	五一
第八表	台灣島内國債所有高調……………	五四
第九表	銀行資産中に於ける國債の地位……………	五五
第十表	金融機關所有有價証券内訳明細……………	五五
第十一表	台灣に於ける台灣銀行の地位……………	五七
第十二表	台灣銀行の島内資産負債表……………	五八
第十三表	台灣商工銀行資産負債表……………	五九
第十四表	彰化銀行資産負債表……………	六一

第十五表	華南銀行資產負債表	六二
第十六表	台灣貯蓄銀行資產負債表	六三
第十七表	三和銀行支店資產負債表	六四
第十八表	日本勸業銀行支店資產負債表	六五
第十九表	島內銀行資產負債綜合表	六五
第二十表	信用組合資金狀態	七二
第二十一表	信用組合資本運用利廻	七三
第二十二表	信用組合貸付金用途別調	七四
第二十三表	產業金庫概況	七六
第二十四表	島內保險会社業務狀況調	七七
第二十五表	台灣信託株式會社狀況	七九
第二十六表	無盡會社概況	八一
第二十七表	無盡會社業績調	八一
第二十八表	郵便貯金增加狀況	八二
第二十九表	銀行別貸出金利率	八六
第三十表	銀行別預金利率	八七
第三十一表	農村信用組合金利	八七
第三十二表	市街地信用組合金利	八八
第三十三表	台灣に於ける株式會社拂込資本金の内台別調	八九
第三十四表	台灣の事業會社中工業部門の占むる地位	八九
第三十五表	台灣工業發達の趨勢	八九
第三十六表	台灣工產額に於ける砂糖の地位	九三

第三十七表	貿易上に占むる砂糖の地位	九五
第三十八表	台湾國庫金總收支額	九五
第三十九表	台湾國庫金回金收支高	九七
第四十表	振替貯金及郵便爲替取扱高	一〇〇
第四十一表	貿易外收支調に於ける保險金關係	一一三
第四十二表	保險会社業務狀況	一一四
第四十三表	郵便貯金關係計數	一一五
第四十四表	郵便貯金の預入増加額	一一五
第四十五表	日本資本投下狀況調(自明治二九年至明治三八年)	一二二
第四十六表	島外收支調(自明治二八年至明治三八年)	一二三
第四十七表	貿易價額表(明治二九年至明治三八年)	一二四
第四十八表	資金異動調(自明治二八年至明治三八年)	一二五
第四十九表	資本投下と生産高趨勢(自明治三八年至大正九年)	一二九
第五十表	日本資本投下狀況調(自明治三九年至大正九年)	一三〇
第五十一表	各種産業累年生産額(自明治三五年至大正九年)	一三一
第五十二表	台湾銀行島内貸出金趨勢	一三三
第五十三表	島外收支調(自明治三九年至大正九年)	一三四
第五十四表	貿易價額表(自明治三九年至大正九年)	一三五
第五十五表	資金異動調(自明治三九年至大正九年)	一三七
第五十六表	資本投下と生産高趨勢(自大正一〇年至昭和六年)	一四三
第五十七表	日本資本投下狀況調(自大正一〇年至昭和六年)	一四四
第五十八表	各種産業累年生産額(自大正一〇年至昭和六年)	一四五

第五十九表	東京市場砂糖現物相場分蜜糖	一四七
第六十表	貿易外收支中臨時的收支（自昭和二年至昭和六年）	一四八
第六十一表	島外收支調（自大正一〇年至昭和六年）	一五〇
第六十二表	本島貿易外收支調（自昭和二年至昭和六年）	一五一
第六十三表	資金異動調（自大正一〇年至昭和六年）	一五三
第六十四表	資本投下と生産高趨勢（自昭和七年至昭和一四年）	一五九
第六十五表	日本資本投下状況（自昭和七年至昭和一九年）	一六〇
第六十六表	各種産業累年生産額（自昭和七年至昭和一九年）	一六一
第六十七表	國庫金回送受入超過額	一六五
第六十八表	島外收支調（自昭和七年至昭和一九年）	一六六
第六十九表	本島貿易外收支調（自昭和七年至昭和一九年）	一六七
第七十表	貿易價額表（自昭和一至昭和一九年）	一七二
第七十一表	島外総收支調（自昭和一至昭和一九年）	一七二
第七十二表	資金異動調（自昭和七年至昭和一九年）	一七三

通卷第十六冊 台灣篇 第五分冊

台灣に関する統計

第一表	台灣の人口（其の一）（自然）	一
第二表	台灣の人口（其の二）（自然）	三
第三表	州廳別面積（自然）	六

第四表	州廳別面積戸口比例（自然）	七
第五表	年次別戸口総数（自然）	八
第六表	州廳別戸口総数（自然）	九
第七表	年次別高砂族種族別戸口（自然）	一〇
第八表	州廳別高砂族種族別戸口（自然）	一一
第九表	学校数累年表（教育）	一二
第十表	教育数累年表（教育）	一三
第十一表	学生、生徒、児童数累年表（教育）	一四
第十二表	初等教育（小学校）（教育）	一五
第十三表	初等教育（公学校）（教育）	一六
第十四表	学齡児童就学及不就学一覽表（教育）	一七
第十五表	高砂族児童教育一覽表（教育）	一八
第十六表	中学校（教育）	一九
第十七表	高等女学校（教育）	二〇
第十八表	実業教育（イ）農業（ロ）工業（ハ）商業（教育）	二一
第十九表	実業補習学校（教育）	二二
第二十表	師範学校（教育）	二三
第二十一表	専門学校（教育）	二三
第二十二表	歳出総額に対する学校費の割合一覽表（教育）	二四
第二十三表	歳出総額に対する学校費の割合五年間平均表（教育）	二五
第二十四表	教育費総額に対する負担率分別割合五年間平均表（教育）	二五
第二十五表	昭和十五年度教育費（教育）	二六

第二十六表	昭和十六年度学校費予算(教育)	二七
第二十七表	国民学校費総額に対する負担率分別割合表	二八
第二十八表	祠廟及神明会数(宗教)	二八
第二十九表	(佛教) 寺院、住職、布教師及信徒(宗教)	二九
第三十表	(佛教) 教務所、説教所、布教師及信徒(宗教)	三〇
第三十一表	(神道) 教務所、説教所、布教師及信徒(宗教)	三一
第三十二表	(基督教) 教務所、説教所、布教師及信徒(宗教)	三二
第三十三表	佛教、神道、基督教信徒数累年比較表(宗教)	三二
第三十四表	社会事業施設一覽表(社会、厚生)	三三
第三十五表	罹災救助基金(社会、厚生)	三四
第三十六表	公設職業紹介所成績(社会、厚生)	三四
第三十七表	公設質舗業務概要(社会、厚生)	三五
第三十八表	衛生機關一覽表(衛生、保健)	三六
第三十九表	官立医院患者取扱数(衛生、保健)	三七
第四十表	内台人別死亡率調(衛生、保健)	三七
第四十一表	死因別死亡数(衛生、保健)	三八
第四十二表	年齢別死亡者調(衛生、保健)	三九
第四十三表	職業別死亡数(衛生、保健)	三九
第四十四表	乳兒死亡調(衛生、保健)	四〇
第四十五表	傳染病患者及死亡数調(其の一)(衛生、保健)	四一
第四十六表	傳染病患者及死亡数調(其の二)(衛生、保健)	四二
第四十七表	種痘人員数(衛生、保健)	四三

第四十八表	マラリア防遏成績 (衛生、保健)	四四
第四十九表	原料阿片購入高表 (衛生、保健)	四五
第五十表	阿片烟膏製造高表 (衛生、保健)	四六
第五十一表	阿片烟膏壳下量累年表 (衛生、保健)	四七
第五十二表	阿片壳上一覽表 (衛生、保健)	四九
第五十三表	阿片烟膏吸食量累年表 (衛生、保健)	五〇
第五十四表	水道一覽表 (衛生、保健)	五二
第五十五表	水道普及率 (衛生、保健)	五六
第五十六表	台湾耕地面積累年表 (農業)	五八
第五十七表	農業人口 (農業)	六〇
第五十八表	各種產業生産総價額累年表 (農業)	六二
第五十九表	台湾主要農作物作付面積及收穫高 (農業)	六六
第六十表	落花生作付面積及收穫高 (農業)	六八
第六十一表	豆類作付面積及收穫高 (農業)	六九
第六十二表	大麥並小麥作付面積及收穫高 (農業)	七〇
第六十三表	原料葉煙草收納高累年表 (農業)	七一
第六十四表	煙草製造高 (農業)	七三
第六十五表	製造煙草壳下高 (農業)	七四
第六十六表	土地改良工事実施計画並効果調 (農業)	七五
第六十七表	柑橘類植付面積及收穫高 (農業)	七六
第六十八表	蔬菜類作付面積及收穫高 (農業)	七七
第六十九表	埤圳の灌漑排水面積 (農業)	七八

第七十表	家畜飼養數(畜產)		七九
第七十一表	家禽飼養數(畜產)		八〇
第七十二表	家畜屠殺數(畜產)		八三
第七十三表	林野面積及林產總額(其の一)(林業)		八四
第七十四表	林野面積及林產總額(其の二)(林業)		八六
第七十五表	造林面積(林業)		八八
第七十六表	調查済森林面積及蓄積高(林業)		九一
第七十七表	官行斫伐事業累年表(林業)		九二
第七十八表	官行斫伐事業收支比較表(林業)		九三
第七十九表	営林所鉄道概要(林業)		九四
第八十表	木材輪移出入明細表(林業)		九六
第八十一表	木炭製産累年表(林業)		九八
第八十二表	水産總額(水産)		一〇〇
第八十三表	州廳別水産額(水産)		一〇一
第八十四表	海洋漁業(水産)		一〇二
第八十五表	養植業(水産)		一〇三
第八十六表	水産製造(水産)		一〇四
第八十七表	水産従事者(水産)		一〇四
第八十八表	漁船及乗組員(水産)		一〇六
第八十九表	工産總額(工業)		一〇七
第九十表	各種産業累年生産總額(工業)		一一〇
第九十一表	主要輕工業工産額(工業)		一二

第九十二表	主要工產移出品表 (工業)	一八
第九十三表	再製茶生產高 (工業)	一九
第九十四表	罐詰製造高 (工業)	二一
第九十五表	新式製糖場一覽表 (糖業)	二三
第九十六表	改良糖廠一覽表 (糖業)	二七
第九十七表	新式製糖会社主要固定資産及償却高並積立金 (糖業)	二八
第九十八表	新式工場及改良糖廠變遷表 (糖業)	三〇
第九十九表	地方別旧式糖廠數累年表 (糖業)	三四
第一百表	製糖場別砂糖生產高累年表 (糖業)	三七
第一百一表	台灣砂糖貿易累年表 (糖業)	四〇
第一百二表	製糖場別產糖狀況累年表 (糖業)	四四
第一百三表	台灣糖業概況累年表 (糖業)	四八
第一百四表	台灣輸出糖仕向地別 (糖業)	五〇
第一百五表	台灣移出糖仕向地別 (糖業)	五二
第一百六表	糖蜜需給高 (糖業)	五四
第一百七表	台灣糖業補助及獎勵金下付一覽表 (糖業)	五六
第一百八表	貿易表 (貿易)	六〇
第一百九表	主要移出品 (貿易)	六二
第一百十表	主要移入品 (貿易)	六六
第一百十一表	主要輸出品 (貿易)	七〇
第一百十二表	主要輸入品 (貿易)	七四
第一百十三表	改隸以後の道路と架橋の開発狀勢 (運輸)	七六

第百十四表	國庫道路(運輸)	一七七
第百十五表	國有鐵道概況(運輸)	一七八
第百十六表	國有鐵道投資額に對する營業收文累年比較(運輸)	一七九
第百十七表	國有鐵道重要貨物輸送數量(運輸)	一八一
第百十八表	鐵道建設費其の他(運輸)	一八二
第百十九表	鐵道及自動車收入一覽(運輸)	一八三
第百二十表	建設費其の他に對する益金の割合(運輸)	一八四
第百二十一表	私設鐵道概要(運輸)	一八五
第百二十二表	私設鐵道收入狀況(運輸)	一八六
第百二十三表	私設鐵道施設狀況(運輸)	一八七
第百二十四表	私設鐵道輸送狀況(運輸)	一八七
第百二十五表	私設鐵道概況(運輸)	一八八
第百二十六表	內台定期航空輸送統計(運輸)	一九〇
第百二十七表	郵便線路一覽(通信)	一九〇
第百二十八表	電話線路一覽(通信)	一九一
第百二十九表	電信線路一覽(通信)	一九二
第百三十表	電話加入者數(通信)	一九二
第百三十一表	電報取扱數(通信)	一九三
第百三十二表	市外電話通話度數(通信)	一九三
第百三十三表	郵便物取扱數(通信)	一九三
第百三十四表	通信事業費收支比較(通信)	一九四
第百三十五表	台北卸売物價年平均指數各年比較表(物價及賃銀)	一九六

第三百三十六表	台北市卸売物價月別指數各年比較表 (物價及賃銀)	一九八
第三百三十七表	台北市卸売物價品目別指數比較表 (物價及賃銀)	二〇〇
第三百三十八表	昭和十五年 (一九四〇) 月別台北市卸売物價品目別指數比較表 (物價及賃銀)	二〇二
第三百三十九表	昭和十六年 (一九四一) 月別台北市卸売物價品目別指數比較表 (物價及賃銀)	二〇四
第三百四十表	台北市卸売物價指數品別 (物價及賃銀)	二〇六
第三百四十一表	内外卸売物價指數對照 (物價及賃銀)	二〇八
第三百四十二表	各都市別賃銀表 (物價及賃銀)	二〇九
第三百四十三表	日台人別賃銀累年表 (物價及賃銀)	二一一
第三百四十四表	台灣總督府特別會計歲入及歲出 (財政)	二一八
第三百四十五表	專売收入の財政的地位 (財政)	二一九
第三百四十六表	台灣銀行券發行高及補助貨流通高 (金融)	二二〇
第三百四十七表	台灣島内銀行種類別預金總括表 (金融)	二二六
第三百四十八表	台灣島内銀行種類別貸出金表 (金融)	二二八
第三百四十九表	台灣島内銀行重要物產放資額種類別殘高表 (金融)	二三四
第三百五十表	手形交換所手形交換高表 (金融)	二三六
第三百五十一表	台灣島内各銀行爲替取組高 (金融)	二四〇
第三百五十二表	市街地信用組合業務狀況 (金融)	二四二
第三百五十三表	農村信用組合業務狀況 (金融)	二四四
第三百五十四表	保險會社業務狀況 (金融)	二四八
第三百五十五表	無盡會社契約狀況總括表 (金融)	二五〇
第三百五十六表	郵便貯金殘高 (金融)	二五一
第三百五十七表	郵便年金狀況 (金融)	二五二

第一百五十八表	簡易生命保險狀況(金融)	二五三
第一百五十九表	簡易保險郵便年金積立金貸付狀況(金融)	二五四
第一百六十表	低利資金回別用途別貸付高調(金融)	二五五
第一百六十一表	低利資金回別主体別貸付高調(金融)	二五六
第一百六十二表	低利資金貸付及償還狀況表(金融)	二五八
第一百六十三表	公設質舖業務狀況(金融)	二六三
第一百六十四表	台灣銀行預金利率表(金融)	二六四
第一百六十五表	島内銀行預金協定利率表(金融)	二六五
第一百六十六表	台灣銀行貸出科目別實際利率(金融)	二六六
第一百六十七表	普通銀行及信用組合貸出金利率(金融)	二六八
第一百六十八表	稼業鉦及面積(鉦業)	二六九
第一百六十九表	鉦產額調(鉦業)	二七〇
第一百七十表	内地、朝鮮、台灣、滿洲產金數量(鉦業)	二七一
第一百七十一表	鉦產額累年比較表(鉦業)	二七二
第一百七十二表	石炭生産數量累年比較表(鉦業)	二七六
第一百七十三表	鉦產物採取數量(鉦業)	二八〇
第一百七十四表	鉦產物採取價額(鉦業)	二八二

通卷第十七冊 台灣篇 第六分冊の一(第六分冊の二と合本)

白日下の台灣

第一	むすびのはしがき	一
第二	統治の方針と現実	二
第三	民族的動向と治安	五
第四	地政学的特徴と基本政策	一
	A、基本的な問題	一
	B、交通の整備	一五
	(イ) 道路、橋梁	一五
	(ロ) 鐵道	一七
	(ハ) 港灣	一八
	(ニ) 海運	一九
	(ホ) 航空及飛行場	一九
	(ヘ) 通信及放送事業	二〇
	C、治水利水	二一
	(イ) 治水	二一
	(ロ) 水利事業	二三
	D、都市生活	二四
	(イ) 都市計画	二四
	(ロ) 上水道	二六
	(ハ) 照明及熱源	二七
第五	資源開発散見	二八

A、地下資源及電力	二八
(イ) 石炭	二八
(ロ) 石油	二九
(ハ) 金属資源	三〇
(ニ) 電力	三一
B、山林資源	三二
C、食資源としての農畜水産業	三五
(イ) 農産	三五
(ロ) 畜産	四〇
(ハ) 漁場の開拓	四二
(リ) 製塩	四三
D、衣資源及繊維工業	四四
E、生産と流通	四六
第六 民生の向上	四九
A、教育施設	四九
B、厚生事業	五〇
C、衛生保健施設	五三
D、其の他について	五四
第七 むすびのあとがき	五五

通卷第十七冊 台灣篇 第六分冊の二（第六分冊の一と合本）

日僑の追憶（終戦後引揚げ迄の日本人の生活と其の後の台湾）

第一 日僑といふもの……………一

第二 光復前後……………二

第三 環境の変貌……………九

——衛生状態、教育、物價の高騰——

第四 遺送される日僑……………一五

第五 光復政治の内容……………三六

（イ）施政方針……………三六

（ロ）行政機構……………三八

（ハ）経済産業……………四四

（ニ）財政金融……………七二

第六 中台遠和（二・二八事件を培ふもの）……………八四

第七 帰志浩然……………九一

統計

台北市零售物價調査表（民國二六——三五年）……………一三

台北市零售物價指數（民國二六——三五年）	一四
台灣企業概況表（昭和二〇年八月末現在）	六四
台灣省內工廠操工情形一覽表（昭和二十一年七月調）	六五
台灣省三五年度（昭和二十一年）歲出入概算總計表（自四月一日至十二月三十一日）	七五
台灣銀行券發行額（昭和一二——二一年）	七九
銀行別、預金及貸付金額（昭和一二——二一年）	八一
戰爭保險金支拂額統計表（昭和二一、六、一五現在）	八三

通卷第十七冊 台灣篇 第六分冊の三

終戦前後の台湾に関する資料

統治篇	一
第一章 総論	一
第一節 行政長官公署成立迄の経緯	一
第二節 施政方針	五
（一）中央に於て決定せる政策——（二）新台湾建設方針	
第三節 台湾の中央行政機構	六
（一）旧台湾總督府機構——（二）台湾省行政長官公署機構	
第四節 地方行政機構	九

(一) 日本統治下の機構——(二) 新機構	
第二章 法 令	一二
(一) 長官公署成立迄——(二) 長官公署成立後	
第三章 教 育	二七
(一) 終戦前の教育状況——(二) 終戦後の一般状況——(三) 罷校事件——(四) 留用日人子弟の教育状況——(五) 其の他	
第四章 衛 生	三二
第一節 衛 生 機 関	三一
第二節 衛生機関運営状況	三一
第三節 傳 染 病	三二
第五章 治 安	三六
(一) 警 察——(二) 警政の検討	
第六章 財 政	四〇
第一節 予 算	四〇
第二節 收 支	四一
第三節 税 務	四二
第四節 縣市地方財政	四三

第五節 省参議会に於ける予算審議概況	四四
第六節 省参議会終了後決定したる省予算	四五
第七節 收支実績	四七
第八節 財政の企業化	四八
第七章 交通	四九
(一) 概 括——(二) 鉄 路——(三) 船 舶——(四) 郵 電——(五) 航 空	
第八章 日 人 還 送	五二
(一) 日人還送並に留用方針——(二) 留用の性質——(三) 歸國者の保護——(四) 歸國狀況——(五) 日人還送の注意事項	
經濟 篇	六一
第一章 總 論	六一
第一節 台灣經濟の現段階	六一
第二節 經濟建設五ヶ年計画	六二
一、方 針	六二
二、各部門計画要点	六三
第三節 本省經濟建設五ヶ年計画を評す	七三
第四節 終戦時の本省企業概況	七六

第一 企業概況 (計表)	七七
第二 台湾に於ける会社拂込資本金の内台別調 (計表)	七九
第二章 物 價	八〇
第一 台北市小売物價調査 (計表)	八〇
第二 台北市小売物價指数 (計表)	八一
第三章 産 業	八三
第一節 農 林 業	八三
第一項 米	八三
(一) 最近十ヶ年米穀生産状況 (計表)	八三
(二) 生産低下の原因及今後の見透	八四
第二項 糖 業	八四
(一) 近年の生産状況	八四
(1) 最近八ヶ年生産高 (計表) —— (2) 各製糖会社別産糖高比較 (計表) —— (3) 産糖高減少 の原因 —— (4) 工場戦災状況	八七
(二) 民國三十五、三十六年度 (昭和二十一、二十二) 産糖予想及五ヶ年計画	八七
(1) 民國三十五、三十六年度予想 (計表) —— (2) 産糖五ヶ年計画 (計表)	八九
(三) 復興 対策	八九
第三項 茶	九〇

(一) 最近一〇ケ年間粗製茶生産状況(計表)	九〇
(二) 本年に於ける生産低下の原因	九一
(三) 増産の方途	九一
第四項 林 業	九三
第二節 水 産 業	九五
(一) 緒 言	九五
(二) 過去の概況	九五
(三) 接收後の状況	九七
(四) 今後の計画	九八
(五) 未来の展望	九九
第三節 工 鉱 業	一〇〇
第一項 終戦直前に於ける台湾工業の姿	一〇〇
附表 生産拡充計画産業生産実績調	一〇一
第二項 省内主要工場操工現況及生産低下の原因	一〇五
附表 台湾省内工廠操工情形一覽表	一〇七
第三項 光復直後に於ける本省重要鉱工業復興に関する旧総督府関係技師の意見	一一四
第四項 工鉱業再編成の方向	一一七
(一) 國省合併並に國營企業	一二七

(二) 省營企業	一八
第五項 台灣省專賣局工作概況	一二〇
(一) 接收狀況	一二〇
(二) 現在の概況	一二一
(三) 資産(省略)	一二六
(四) 財務	一二六
第四章 貿易	一二七
第一節 港灣	一二七
第二節 貿易狀況	一二八
第五章 金融	一三〇
第一節 通貨	一三〇
(一) 終戦時の種類並に既存通貨に対する処置	一三〇
(二) 流通高	一三〇
附表 台灣銀行券發行額	一三三
(三) 光復前後銀行券發行増加原因	一三四
附表 光復以後台灣銀行主要科目増減比較表	一三九
第二節 金融機關	一四〇
(一) 銀行	一四〇

(二) 産業金庫.....	一四一
(三) 信託会社.....	一四二
(四) 無盡会社.....	一四二
(五) 生命保険.....	一四二
(六) 損害保険.....	一四二
附表 戦争保険金支拂額統計表.....	一四四

第三節 銀行勘定.....一四五

(一) 各銀行預貯金及貸出金残高(計表).....	一四五
(二) 各銀行預金残高(計表).....	一四七
(三) 各銀行貸出金残高(計表).....	一四八

第四節 金融機関の対島外債権債務額.....一四九

(一) 島内金融機関別対島外債権債務額調(計表).....	一五一
(二) 島内銀行対島外債権債務調(計表).....	一五二
(三) 島内損害保険会社対日本債権債務額調(計表).....	一五三

第五節 島内保有各種債券の登録.....一五七

附表 登録日本國庫債券等持券人内譯表.....	一五四
附表 登録日本國庫債券等持券人國籍分別表.....	一五五
附表 登録債券明細表.....	一五六
附表 最近五ヶ年勘定科目別項予金残高調.....	一五九
附表 最近五ヶ年間各種予金残高内訳表.....	一六〇

附表	最近五ヶ年貸出金残高調	一六一
附表	最近五ヶ年各種貸出金事業別残高内訳表	一六二
附表	予金及貸出金利率表	一六三
附表	貸出金担保種類別調	一六五
附表	期限過貸出金残高表	一六六
附表	最近五ヶ年諸経費内訳表	一六七
附表	最近五ヶ年主勘定並損益金調	一六八

通卷第十八、十九冊 華太篇

第一部	総論	一
第一章	序説	一
第二章	地誌	三
第一節	位置及面積	三
第二節	地形、地質及び海流	三
第三節	聚落	四
第三章	氣象	六
第四章	人口	七

第五章	資	源	八
第六章	貿	易	一一
第七章	資	金	一二
第八章	財	政	一四
第一節	總	說	一四
第二節	歲	入	一五
第三節	歲	出	一六
第四節	租	稅	一六
第五節	國	有	一七
第六節	市	町	一八
第六節	村	財	一八
第六節	政	政	一八
第九章	行	政	一九
第十章	法	制	二一
第十一章	司	法	二二
第十二章	原	住	二三
第十二章	民	民	二三
第二部	產	業	二四
第二部	及	經	二四
第二部	經	濟	二四

第十三章 概	説	二四
第十四章 水産業	業	二五
第一節 総説	説	二五
第二節 漁撈	撈	二七
一、鯨漁業	業	二八
二、鰯漁業	業	二九
三、鮭漁業	業	三〇
四、鱈漁業	業	三一
五、鰺漁業	業	三一
六、鰈漁業	業	三二
七、鰻漁業	業	三二
八、鮫漁業	業	三二
九、蟹漁業	業	三三
十、昆布漁業	業	三四
十一、伊谷草採取業	業	三四
十二、其の他の漁業	業	三五
第三節 製造	造	三七
一、鯨——二、鰯——三、鮭——四、鱈——五、鰺——六、鰈——七、鰻——八、蟹——九、昆布		
第四節 養殖	殖	三九

一、鱒、鮭人工孵化事業——二、鰺人工孵化事業——三、昆布増殖事業——四、タラバ蟹人工孵化事業	四一
第五節 水産物検査	四一
第六節 海獣保護獵獲	四二
第七節 水産に関する団体及び会社	四三

第十五章 林業	四五
---------	----

第一節 総説	四五
--------	----

第二節 林政	四七
--------	----

一、行政組織——二、森林警察——三、保安林——四、愛林思想の普及——五、昭和林政改革

第三節 森林の利用	五二
-----------	----

パルプ工業——官行斫伐——移輸出数量——森林伐採量——用材需要量——製炭業

第四節 造林	五六
--------	----

第十六章 殖民及農業	五九
------------	----

第一節 総説	五九
--------	----

第二節 殖民	六一
--------	----

一、黎明時代——二、自由移民時代前期——三、自由移民時代後期——四、指定移民時代——五、集團移民時代

第三節 土地	六八
一、土地調査——二、土地処分——三、土地改良	
第四節 農業	七二
一、農業者戸口——二、耕地——三、作付——四、畜産	
第十七章 鉱業	八一
第一節 総説	八一
第二節 鉱業制度	八二
第三節 鉱物	八四
一、石炭	八四
二、石油	八六
三、石灰石	八六
四、海緑石	八七
五、其の他の鉱物	八七
第四節 石炭鉱業	八八
一、沿革	八八
二、稼行炭鉱の状況	九〇
三、炭鉱の設備	九一
四、石炭の需給	九二

五、石炭の輸送.....	九四
第五節 石油試掘.....	九五
第六節 其の他の鉱業.....	九五
一、石灰石採掘事業.....	九五
二、其の他の鉱業.....	九六
(イ) 水銀——(ロ) ベントナイト——(ハ) 耐火粘土.....	九六
第十八章 工業.....	九八
第一節 総説.....	九八
第二節 パルプ及び製紙工業.....	一〇〇
第三節 石炭液化工業.....	一〇一
第四節 醸造業.....	一〇三
第五節 製材業.....	一〇四
第六節 製糖業.....	一〇四
第七節 罐詰業.....	一〇五
第八節 酪農業.....	一〇五
第九節 ツンドラ工業.....	一〇六
第十節 其の他の工業.....	一〇六

一、鉄工業——二、化學工業——三、纖維工業——四、窯業

第十九章 電氣事業	一一〇
-----------	-----

第一節 總說	一一〇
--------	-----

第二節 電氣供給事業	一一二
------------	-----

第三節 自家用電氣施設	一一三
-------------	-----

第二十章 商業	一一五
---------	-----

第一節 總說	一一五
--------	-----

第二節 物資及物價	一一六
-----------	-----

第三節 商業團體	一一七
----------	-----

第二十一章 産業試驗	一二八
------------	-----

第二十二章 金融機關	一二〇
------------	-----

一、銀行——二、産業組合——三、無盡業——四、質屋

第二十三章 樺太開發株式会社	一二三
----------------	-----

一、石炭採掘事業——二、斫伐事業——三、造林事業——四、農牧場の經營——五、殖民事業——六、海獸

事業——七、窯業——八、投資事業

第三部 交通及通信	一二七
-----------	-----

第二十四章 交通	一二七
----------	-----

第一節 總說	一二七
--------	-----

第二節 道路	一二八
--------	-----

第三節 鐵道	一二九
--------	-----

一、國有鐵道	一二九
--------	-----

二、地方鐵道	一三二
--------	-----

三、軌道	一三四
------	-----

第四節 港灣及び航路標識	一三四
--------------	-----

一、大泊港	一三四
二、真岡港	一三四
三、本斗港	一三四
四、敷香港	一三四
五、惠須取港	一三四

第五節 航路	一三七
--------	-----

一、命令航路	一三七
二、自由航路	一三七

第六節 自動車その他	一三九
------------	-----

第二十五章 通信	一四〇
----------	-----

第一節 總說	一四〇
--------	-----

第二節 郵便	一四〇
--------	-----

第三節 電信	一四一
--------	-----

一、有線電信	一四一
二、無線電信	一四一
三、利用狀況	一四一

附表

第四節 電 話	一四三
一、電話通話——二、電話交換——三、內地連絡電話——四、利用狀況	
第五節 放 送	一四四
第六節 爲替及び貯金	一四四
一、郵便爲替——二、郵便貯金——三、郵便振替貯金	
第七節 簡易生命保險及び郵便年金	一四六
第四部 文 化	一四七
第二十六章 概 說	一四七
第二十七章 教 育	一四九
第一節 總 說	一四九
第二節 學 校 教 育	一五〇
一、初等學校——二、青年學校——三、中等學校——四、專門學校	
第三節 社 会 教 育	一五二
第二十八章 社 会 事 業	一五三
第二十九章 保 健 衛 生	一五四

第一表	都市別人口趨勢……………	一五七
第二表	現住戶口趨勢……………	一五九
第三表	昭和十六年末現在種族別人口……………	一六〇
第四表	昭和十八年末現在種族別人口……………	一六一
第五表	昭和十八年度末林野面積及森林蓄積……………	一六一
第六表	木材パルプ原木需要調……………	一六二
第七表	埋藏炭量……………	一六二
第八表	年次別生產額……………	一六三
第九表	移出入品總價額……………	一六四
第十表	昭和十六年移出品……………	一六四
第十一表	昭和十六年移入品……………	一六四
第十二表	銀行預金及貸金……………	一六五
第十三表	金融機關每年度貯蓄增加額及年度末貯蓄總額……………	一六五
第十四表	樺太廳歲入歲出決算比較……………	一六六
第十五表	歲入決算分類比較……………	一六七
第十六表	拓殖事業費決算累年比較……………	一六八
第十七表	昭和十二年度以降歲出決算比較……………	一七〇
第十八表	市町村歲入歲出決算比較……………	一七〇
第十九表	漁業者戶口……………	一七一
第二十表	主要水產物漁獲高……………	一七二
第二十一表	主要漁業從業狀況……………	一七三
第二十二表	鰯、鰈、蟹漁業及昆布採取業狀況……………	一七三

第二十三表	主要魚族人工孵化成績……………	一七四
第二十四表	國有林伐採量……………	一七五
第二十五表	昭和十八年度國有林用途別処分数量……………	一七六
第二十六表	用材需給數量……………	一七七
第二十七表	產地別木材使用量……………	一七八
第二十八表	昭和九年造林十五箇年計画……………	一七九
第二十九表	昭和十六年度以降造林十五箇年計画……………	一七九
第三十表	官行造林事業実績……………	一八〇
第三十一表	民行造林事業実績……………	一八一
第三十二表	黎明時代收容農家戸数……………	一八一
第三十三表	自由移民時代前期收容農家戸数……………	一八二
第三十四表	自由移民時代後期收容農家戸数……………	一八二
第三十五表	指定移民時代收容農家戸数……………	一八二
第三十六表	集團移民時代收容農家戸数……………	一八二
第三十七表	集團殖民地の農家定着率……………	一八三
第三十八表	昭和十六年農産物作付面積及收穫高……………	一八四
第三十九表	家畜家禽頭羽数……………	一八五
第四十表	昭和十六年末現在鉱區数、面積及延長……………	一八六
第四十一表	各炭田別埋藏炭量……………	一八八
第四十二表	樺太炭分析結果例……………	一九〇
第四十三表	出炭量移輸出炭量及島内消費量……………	一九二
第四十四表	稼行炭鉱一覽……………	一九四

第四十五表	炭鉱労務状況……………	一九六
第四十六表	島内石炭用途別消費量……………	一九七
第四十七表	昭和十三年工産物生産額……………	一九八
第四十八表	昭和十六年工産物生産額……………	一九八
第四十九表	島内パルプ及紙生産高……………	一九八
第五十表	昭和二十年現在各製紙工場生産能力等……………	二〇〇
第五十一表	我國木材パルプ生産量……………	二〇二
第五十二表	昭和十六年末銀行貸付及預金額……………	二〇二
第五十三表	郵便物取扱数……………	二〇三
第五十四表	電報取扱数……………	二〇三
第五十五表	電話通数……………	二〇四

通卷第二十冊 南洋群島篇 第一分冊

第一章	序……………	一
第二章	前史……………	九
第一節	総説……………	九
	一、群島の発見——二、発見後の推移……………	
第二節	スペイン領時代の治績……………	一〇
第三節	ドイツ領時代の治績……………	一一

一、総説——二、マーシャル群島に於ける産業的經營——三、ヤップ島に於ける通信施設——四、學術的
探險——五、教化的施設——六、行政的施設

第四節 占領前に於ける我國との交渉……………一五

一、総説……………一五

二、官憲との交渉……………一五

(イ) 軍艦の寄港——(ロ) 邦人虐殺事件調査

三、民間との交渉……………一六

(イ) 南島商会——(ロ) 快通社及恒信社——(ハ) 南洋貿易日置合資会社——(ニ) 其の他の事業家

第三章 自然……………一八

第一節 総説……………一八

一、位置——二、布置——三、地質

第二節 各群島細説……………二一

一、マリアナ群島……………二一

二、カロリン群島……………二二

(イ) バラオ——(ロ) ヤップ——(ハ) トラック——(ニ) ホナヘ

三、マーシャル群島……………二三

第三節 経度及び緯度……………二四

第四節 面積及び島数……………二四

第五節 氣象	二七
--------	----

一、概説——二、氣象觀測——三、氣壓——四、氣溫——五、濕度——六、風向及風速——七、雨量——八、暴風	
---	--

第四章 人口	三一
--------	----

第一節 人口の概況	三一
-----------	----

一、邦人——二、島民——三、外國人——四、戶口調査に關する施設——五、島勢調査——六、南洋群島土着民の國籍	
---	--

第五章 島民	三五
--------	----

第一節 總説	三五
--------	----

第二節 種族	三八
--------	----

第三節 チヤムロ族	三九
-----------	----

第四節 カナカ族	四〇
----------	----

第五節 風俗	四一
--------	----

一、衣——二、食——三、住	
---------------	--

第六節 人文的觀察	四三
-----------	----

第七節 社会的組織	四五
-----------	----

第八節 經濟的生活	四六
-----------	----

第九節 我が対原住民政策	四八
第六章 行政	五六
第一節 沿革	五六
一、発見及西領時代——二、独逸時代——三、日本施設	
第二節 南洋廳の権限及び組織	五九
一、権限——二、組織	
第三節 行政區劃	六一
第四節 地方費制度	六二
一、地方費制度——二、事業——三、地方財政	
第五節 地方制度	六六
一、部落——二、村吏	
第七章 司法、行刑	七〇
第一節 司法	七〇
一、沿革——二、法院制度——三、適用法規——四、取扱事件	
第二節 行刑	七七
第八章 財政	七九

第一節 歲計	七九
一、民政時代及軍政時代——二、南洋廳時代——三、歲入——四、歲出——五、國庫補助金——六、地方財政	
第二節 稅制制度	八六
一、國稅——二、地方稅	
第三節 國有財產	九八
一、官有土地及建物の基因——二、官有土地及建物の管理——三、官有地の貸下	
第四節 官營事業	一〇〇
一、電燈事業——二、製永事業——三、工作場の經營——四、上水道事業——五、医院の經營	
第九章 宗教	一〇五
第一節 概說	一〇五
第二節 固有宗教	一〇七
第三節 基督教	一〇八
一、旧教——二、新教	
第四節 佛教	一一二
第五節 神道	一二二

第十章 教 育	一三三
---------	-----

第一節 概 説	一三三
---------	-----

第二節 西班牙領時代の教育	一三七
---------------	-----

第三節 独逸領時代の教育	一三八
--------------	-----

第四節 特殊 教 育	一二一
------------	-----

第五節 日本統治領時代の教育	一二一
----------------	-----

第六節 原住民に対する教育	一二一
---------------	-----

一、普通教育——二、職業教育

第七節 宗 教 教 育	一三四
-------------	-----

第八節 社 会 教 育	一三六
-------------	-----

第九節 日本人に対する教育	一三八
---------------	-----

一、普通教育——二、中等教育——三、青年教育——四、その他——五、社会教育団体——六、南洋群島文

化協会

第十一章 衛 生	一四四
----------	-----

第一節 衛 生 状 態	一四四
-------------	-----

第二節 衛 生 施 設	一四五
-------------	-----

一、医療機関——二、医療費——三、衛生試験所——四、死因調査——五、住宅及便所の改善——六、上水道——七、種痘及健康診断——八、癩療養所——九、性病予防——十、結核予防——十一、防疫——十二、
地方病

第三節 ヤップ島人口減少の原因調査及び対策……………一五四

附表

第一表	面積及島数……………	一五八
第二表	主要島面積……………	一五八
第三表	人口(邦人)……………	一五九
第四表	人口(島民)……………	一五九
第五表	部落……………	一六〇
第六表	島民村吏……………	一六二
第七表	検事局刑事事件取扱件数……………	一六二
第八表	検事局刑事事件終局人員……………	一六三
第九表	法院刑事事件取扱件数……………	一六三
第十表	和解事件件数……………	一六四
第十一表	地方法院刑事事件有罪人員刑名別……………	一六四
第十二表	犯罪即決処分人員刑名別……………	一六五
第十三表	在監者……………	一六六
第十四表	入監及出監者……………	一六七
第十五表	南洋廳特別会計決算表……………	一六八
第十六表	南洋廳特別会計歳入歳出予算比較対照表……………	一八七

第十七表	繼續事業費一覽表	一九〇
第十八表	南洋廳特別會計予算	一九〇
第十九表	國庫補充金累年表	一九二
第二十表	所得稅	一九二
第二十一表	煙草稅及法人營業收益稅	一九三
第二十二表	鉅區稅	一九三
第二十三表	通行稅、利益配當稅及臨時利益配當稅	一九三
第二十四表	關稅	一九四
第二十五表	出港稅	一九五
第二十六表	郵便、電信及電話收入	一九七
第二十七表	官有物貸下料	一九八
第二十八表	電燈收入	二〇〇
第二十九表	印紙收入	二〇〇
第三十表	懲罰及沒收金	二〇〇
第三十一表	免許及手数料	二〇一
第三十二表	雜入	二〇二
第三十三表	官有物拂下代	二〇四
第三十四表	林業收入	二一〇
第三十五表	醫院收入	二一一
第三十六表	非島民人頭稅	二一三
第三十七表	島民人頭稅	二一三
第三十八表	南洋群島地方費歲入歲出予算表	二一四

第三十九表	同	決算表	二一六
第四十表	地方費税		二一七
第四十一表	南洋群島に於けるキリスト教教勢		二一九
第四十二表	同	佛教教勢	二一九
第四十三表	同	布教者の國籍別	二二〇
第四十四表	同	天理教教勢	二二〇
第四十五表	官立医院診療患者病類別		二二一
第四十六表	傳染病		二二二
第四十七表	種痘施行人員		二二三
第四十八表	ヤップ島(本島)	島民出生死亡数比較	二二三
第四十九表	ヤップ島(本島)	島民死亡者病名別	二二四
第五十表	ヤップ島(本島)	島民の肺結核に因る死亡者年齢別	二二五
第五十一表	ヤップ島(本島)	島民の死亡者総数に対する結核性疾病に因る死亡率	二二五
第五十二表	ヤップ島(本島)	島民人口に対する結核疾病に因る死亡率	二二五
第五十三表	ヤップ島(本島)	島民健康調査結果表	二二六
第五十四表	ヤップ島(本島)	島民健康調査に於ける肺結核患者年齢別	二二七
第五十五表	ヤップ島(本島)	島民人口に対する健康調査に於ける結核性患者比率	二二七
第五十六表	ヤップ島(本島)	島民「カナカ」族性病調査結果表	二二七
第五十七表	ヤップ島(本島)	島民「カナカ」族性病患者年齢別	二二八
第五十八表	ヤップ島(本島)	公学校児童性病患者	二二九
第五十九表	ヤップ島(本島)	「カナカ」族婦人婚姻並に妊娠状態調査結果	二三〇
第六十表	ヤップ島(本島)	「カナカ」族婦人妊娠状態調査	二三〇

第六十一表 ヤップ島人口一覽表	一三二
-----------------	-----

通卷第二十一冊 南洋群島篇 第二分冊

第十二章 交通通信	一
第一節 概説	一
第二節 道路	二
第三節 鉄道及び諸車	三
第四節 港灣	三
第五節 海事	四
一、命令航路	四
(イ) 内地、群島間航路——(ロ) 離島間——(ハ) 環礁間	
二、其の他の航路	二
三、交通港取締	二
四、船舶取締	二
第六節 船舶輸送	一三
一、概況——二、貨物輸送——三、人員の輸送	
第七節 航路標識	一四

第八節 航 空	一四
第九節 通 信 機 関	一五
一、通信監督機關——二、郵便局——三、外國郵便の直接交換	
第十節 通 信 業 務	一九
一、郵便業務——二、爲替貯金業務——三、簡易生命保險及郵便年金業務——四、電信業務——五、電話業務——六、放送業務	
第十三章 產 業 概 論	二二
第十四章 農 業	二七
第一節 概 況	二七
第二節 南洋群島の地質及び氣候の農業關係	二九
第三節 土地と農耕地關係	三〇
第四節 原住民の農業	三二
第五節 日本人の農業	三三
一、米——二、蔬菜——三、熱帶特殊農產物（イ、鳳梨——ロ、キャッサバ——ハ、黃麻——ニ、蓖麻——ホ、棉花——ヘ、カカオ——ト、珈 琲）	
第六節 畜 產	四二
一、概 況——二、牛——三、豚——四、山 羊——五、雞——六、水 牛	

第七節 農畜産業施設	四四
------------	----

- 一、一般農産奨励——二、熱帯特殊農産品の増産奨励——三、畜産奨励——四、病虫害防除並に植物検査——五、熱帯産業研究所——六、指定開拓地

第十五章 林業	四九
---------	----

第一節 概説	四九
--------	----

第二節 林況	五一
--------	----

- 一、一般陸生林——二、紅樹林——三、椰子樹林

第三節 熱帯特殊林産資源	五五
--------------	----

- 一、カラオ樹皮——二、アイス顯——三、コイルファイバー——四、椰子殻炭五、椰子葉纖維——六、バルサ

第四節 群島林業の將來性	五七
--------------	----

第十六章 糖業	五九
---------	----

第一節 糖業確立迄の経緯	五九
--------------	----

第二節 糖業の確立	六二
-----------	----

第十七章 商工業	七七
----------	----

第一節 概況	七七
--------	----

第二章 商業	七八
第三節 工業	七九
第十八章 水産業	八〇
第一節 概説	八〇
第二節 施設	八二
(イ) 一般水産業奨励	
(ロ) 水産団体	
(ハ) 水産試験場及調査	
(ニ) 水産練習生	
第三節 水族	八四
第四節 漁業処分	八五
第五節 漁業	八六
一、鯉漁業	
二、鮭漁業	
三、高瀬貝漁業	
四、珊瑚漁業	
五、鮫漁業	
六、玳瑁業	
七、海鼠漁業	
八、其の他の漁業	
九、遠洋漁業	
第六節 養殖業	九〇
一、眞珠養殖業	
二、海綿養殖	
三、高瀬貝養殖業	
第七節 製造業	九一
一、鋸節製造業	
二、罐詰製造業	
三、其の他の製造業	
第十九章 鉱業	九三

第一節	概	說	九三
第二節	主なる鉍物資源		九四
第三節	地質鉍床調査		九六
第四節	鉍業制度		九七
第二十章	貿	易	九八
第一節	概	況	九八
第二節	移	出	九九
第三節	輸	出	一〇〇
第四節	輸	入	一〇〇
第二十一章	金	融	一〇一
第一節	概	況	一〇一
第二節	産業組合		一〇二
第三節	通信事業金融		一〇三
附表			
第一表	道路延長		一〇四
第二表	諸	車	一〇四

第三表	南洋廳命令航路	一〇五
第四表	船舶入出隻数及総噸数	一一
第五表	汽船乗降人員	一一一
第六表	郵便物	一一三
第七表	電報取扱通数及料金	一一四
第八表	電話	一二四
第九表	私設電話	一二五
第十表	原住民通信事業利用狀況	一二五
第十一表	簡易保険	一二六
第十二表	電氣	一二七
第十三表	農耕地面積	一二七
第十四表	農産物	一二八
第十五表	既耕地と新墾地の比較	一二八
第十六表	農産品別生産量並に價額	一二九
第十七表	農産物ヘクター当收穫高	一二四
第十八表	肥料消費高	一二六
第十九表	家畜家禽総数	一二九
第二十表	畜産物	一二九
第二十一表	林産物	一三〇
第二十二表	椰子林	一三三
第二十三表	コブラ生産	一三三
第二十四表	林野面積	一三三

第二十五表	國有土地貸下面積……………	一三四
第二十六表	古々椰子……………	一三四
第二十七表	甘蔗收穫面積、收穫高、產糖高……………	一三五
第二十八表	工產物……………	一三七
第二十九表	会社……………	一四一
第三十表	南洋群島に本社を設くる会社……………	一四三
第三十一表	水產漁獲物……………	一四五
第三十二表	昭和十七年に於ける水產漁獲物……………	一四六
第三十三表	水產製造物……………	一四七
第三十四表	昭和十七年に於ける水產製造物……………	一四八
第三十五表	漁船……………	一四八
第三十六表	鉦業許可一覽表……………	一四九
第三十七表	燐鉦採掘及移出……………	一五〇
第三十八表	太平洋各島燐鉦產額……………	一五〇
第三十九表	未稼行ボーキサイト埋藏量調……………	一五二
第四十表	パラオに於けるボーキサイト鉦量調……………	一五二
第四十一表	移入品名別價額……………	一五三
第四十二表	移出品名別價額……………	一五四
第四十三表	輸出品名別價額……………	一五五
第四十四表	輸入品名別價額……………	一五六
第四十五表	出港稅及關稅……………	一五七
第四十六表	無盡講……………	一五七

第四十七表	産業組合目的別（毎年末現在）	一五九
第四十八表	産業組合組織別（毎年末現在）	一六〇
第四十九表	産業組合組織別（昭和十六年）	一六一
第五十表	産業組合内容（昭和十六年）	一六二

通卷第二十二冊 滿洲篇 第一分冊

第一章 總論	一
--------	---

——滿洲事変（一九三一年）勃発迄の滿洲における政治國際關係の概観——

第一節 緒論	一
一、序説	一
二、滿洲と支那の他の部分との關係	二
イ、清朝没落に至る迄の歴史	二
ロ、清朝没落後	四
ハ、一九一六年張作霖の奉天省督軍任命	四
ニ、一九二二年張の北京中央政府に対する忠誠の断絶	四
ホ、一九二四年「ソ聯」との奉天協定	五
ヘ、張作霖吳佩孚將軍を破る	五
ト、郭松齡の反逆	五
チ、張作霖の死後	五
リ、滿洲の支那に対する獨立性の意義及性格	六

ヌ、其他の日支間の紛争……………	一〇八
ル、在滿朝鮮人に関する諸問題……………	一〇
朝鮮人の商租権の問題——二重國籍問題——間島の特殊問題……………	一二
三、滿洲に関する対露関係の変遷……………	一二
イ、東支鉄道の建設……………	一二
ロ、露西亞の遼東半島の租借……………	一三
ハ、一九〇〇年露西亞の滿洲占領……………	一三
ニ、一九〇四年二月十四日日露の開戦……………	一四
ホ、ポーツマス條約……………	一五
ヘ、一九一七年露西亞革命の勃發後……………	一五
ト、一九二四年ソ滿協定……………	一六
チ、一九二九年のソ滿紛争……………	一七
リ、ソ聯の對滿政策の日本に及ぼした影響……………	一七
四、滿洲に関する日支関係の変遷……………	一八
イ、序……………	一八
ロ、滿洲に於ける日支兩國関係の特殊性……………	一八
ハ、滿洲に於ける日支鉄道路問題の紛争……………	二〇
五、滿洲事変前に於ける滿洲の政治の實態……………	二一
第二節 滿洲經濟發達の概観……………	二五
一、序……………	二五
二、人口増加と貿易の發展……………	二六

三、列國の投資と其の態容……………	三〇
四、日支の經濟的対立……………	三四

第三節 日滿經濟の相互依存關係……………

一、日本の滿洲に対する經濟的寄與……………	三六
イ、治安の維持……………	三六
ロ、日本資本の供給……………	三七
ハ、日本の技術と經營上の寄與……………	三七
ニ、滿洲資源の販路提供……………	三八
ホ、必需品の低廉供給……………	三九
ヘ、日本の寄與による滿洲經濟の発達……………	三九

鐵道——港灣——通信——農業——鈹業——工業——金融——貿易及通商

二、滿洲の日本に対する經濟的寄與……………	四一
イ、資源の提供……………	四二
ロ、製品販売市場の提供……………	四三
ハ、投下資本に対する利潤の提供……………	四三
ニ、移民地の提供……………	四四
三、日滿經濟關係の經濟的意義……………	四五
四、日滿經濟關係の結論……………	四五

第四節 日本の滿洲經營の沿革……………

一、根本目標の推移……………	四八
----------------	----

イ、移民を目標とせる時代……………	四八
ロ、資本投下及資源の取得を目標とせる時代……………	四九
ハ、商品の販路を目標とせる時代……………	五〇
二、統制組織の変遷……………	五〇
イ、一元的時代……………	五〇
ロ、二元的時代……………	五一
ハ、再度の一元的時代……………	五一
ニ、多元的時代……………	五一
三、満鉄事業を中心とする満洲経営……………	五二
イ、日本の満洲経営上に於ける満鉄の地位……………	五二
鉄道——港湾——鉱山——製鉄業並に其の他の工業——地方施設——産業助成——傍系事業及 他会社への出資——借款及鉄道委任経営……………	五二
ロ、満鉄営業の重点……………	五四
四、金融政策を通じて見たる満洲経営……………	五五
イ、金融機関設立に対する政策の推移……………	五五
ロ、本位問題の変遷……………	五六
ハ、金融政策の不統一……………	五七
五、民間事業の満洲進出とこれに対する政策……………	五八
イ、進出の概況……………	五八
ロ、財閥進出の特徴……………	五八
ハ、民間事業進出に対する政策……………	五九
六、結 論……………	五九

第五節 滿洲事變勃発と滿洲建國の経緯……………六〇

一、滿洲事變勃発の前後の事情……………六〇

二、地方治安維持会の自然的発生……………六一

三、滿洲國の建國の経緯……………六一

四、滿洲國の基礎確立と日本の承認……………六二

第六節 滿洲國發展の過程……………六四

一、序 説……………六四

二、各時代における主要なる國政の業績……………六五

三、滿洲國第一期經濟建設より第二期建設への發展……………六九

イ、滿洲經濟建設綱要とその成果……………六九

ロ、日滿經濟統制方策綱要とその成果……………七三

ハ、第二期經濟建設への發展……………七五

四、産業開發五ヶ年計画を中心とする滿洲國第二期經濟發展の概要……………七五

イ、滿洲國第二期經濟建設要綱と其の性格……………七六

ロ、産業開發五ヶ年計画とその成果の概要……………七七

五、第二次産業建設五ヶ年計画の構想と其の推移……………八五

イ、第二次産業建設五ヶ年計画五案の趣旨と構想……………八五

ロ、太平洋戦争の勃発と本計画の保留……………八六

六、基本國策大綱と其の成果……………八六

第七節 終戦前に於ける滿洲國政治經濟の概況……………九四

一、序	九四
二、終戦前に於ける満洲國國政の根本基調	九五
三、戦時負担の増大及民生の逼迫と之が民心に與へたる影響	九六
イ、課税負担の累増	九六
ロ、物資供出の強化	九七
ハ、勞務動員の強化	九七
ニ、國民貯蓄の増大	九七
ホ、民生物資配給の困難化	九八
四、防衛、防空	九八
イ、國內治安対策	九八
ロ、防空対策	九九
ハ、國土防衛対策	九九
五、戦時生産の緊急増強	一〇一
イ、生産目標の轉換	一〇一
ロ、主要なる緊急生産政策の概要	一〇一
航空機及地上兵器の一貫生産——ロケット噴射薬——酒精、松根油、人造石油——地下工場の建設——東南開發計画の着手	一〇一
ハ、重要物資生産の概要	一〇四
農産物の増産及蒐荷概要——石炭——鉄鋼——セメント——木材——アルミニウム——人造石油及酒精——その他	一〇四
六、運輸の概況	一〇八
七、勞務動員の強化	一〇九

八、物價賃金の昂騰と之が抑制対策……………	一一〇
九、経済統制の行詰りと之が轉換……………	一一二
十、終戦前に於ける満洲國の経済關係諸統計……………	一一三
第八節 ソ聯軍進攻より終戦前後に於ける満洲の实情……………	一三三

一、ソ軍の侵攻……………	一三三
二、終 戦……………	一三四
三、ソ軍の進駐……………	一三五
四、國府軍の進駐……………	一三六
五、結 論……………	一三七

第二章 自然條件……………	一三九
---------------	-----

第一節 満洲の地形……………	一三九
----------------	-----

一、概 説……………	一三九
二、西部山嶽地帯……………	一四四
イ、大興安嶺山脈及び蒙古高原……………	一四四
ロ、松嶺山脈及び凌源山脈……………	一四五
ハ、燕山山脈及び七老図山脈……………	一四五
ニ、達賴湖及貝雨湖……………	一四六
三、中部平原地帯……………	一四六
イ、小興安嶺山脈……………	一四七
ロ、黑遼分水嶺……………	一四七

第二節 滿洲の地質

ハ、黑龍江、松花江、嫩江	一四八
ニ、遼河	一四九
四、東部山嶽地帯	一五〇
イ、大長白山脈	一五〇
ロ、薩哈亮山脈、老張廣山脈、大黑山山脈	一五一
ハ、鴨綠江、豆們江	一五二
ニ、興凱湖、鏡泊湖	一五二
五、地形測量機關	一五三

第三節 滿洲の氣候

一、概説	一五四
二、地域別地質	一五五
イ、南部(南滿洲)	一五五
ロ、北部(北滿洲)	一六〇
ハ、南西部(遼西区域)	一六一
三、地帯構造	一六一
四、地下資源	一六二
五、地質調査機關	一七二
第三節 滿洲の氣候	一七二
一、概説	一七二
二、氣溫	一七五

三、降 水	一七八
四、霜 及 び 雪	一八三
五、氣象觀測機關	一八四

第三章 人口及び労働力	一八五
-------------	-----

第一節 概 説	一八五
---------	-----

一、構 成 種 族	一八五
二、人口統計機構	一八七
三、人 口 政 策	一八八

第二節 人口の分布及び構成	一八九
---------------	-----

一、人口の分布	一八九
二、都 市 集 中	一九〇
三、性比及び年齢構成	一九二
四、職 業 構 成	一九三

第三節 人口の増加趨勢	一九五
-------------	-----

一、滿洲建國前の人口増加	一九六
二、建國後の人口増加	一九七
三、滿洲華北間の労働者移動	一九八
四、日本人の増加	一九九

第四節 勞 働 力	二〇〇
-----------	-----

一、労働政策の推移……………	二〇一
二、労働力とその配置……………	二〇三
三、労働力の構成移動……………	二〇四

第四章 政治行政……………	二一三
---------------	-----

第一節 建 國……………	二二三
--------------	-----

一、満洲事変前における政治体制……………	二二三
----------------------	-----

二、建國の目標……………	二一五
--------------	-----

イ、道義社会の建設……………	二一六
----------------	-----

ロ、民族協和の実現……………	二一六
----------------	-----

ハ、日満不可分関係の確保……………	二一七
-------------------	-----

三、政治の基本制度……………	二一八
----------------	-----

イ、執 政……………	二一九
------------	-----

ロ、人権の保障……………	二一九
--------------	-----

ハ、政府機構……………	二二〇
-------------	-----

ニ、協 会……………	二二五
------------	-----

第二節 第一期……………	二二七
--------------	-----

一、序 説……………	二二七
------------	-----

二、治安の肅正……………	二二八
--------------	-----

イ、日本軍の分散配置……………	二二九
-----------------	-----

ロ、地方政治力、防衛力の確立……………	二二九
---------------------	-----

ハ、保甲制度の実施	二二〇
ニ、民間散在銃器の回収	二二一
三、行政機構の確立	二二一
イ、省	二二二
ロ、縣	二二四
ハ、街村	二三五
四、官吏制度の確立	二三六
第三節 第二期	二三八
一、序説	二三八
二、治外法権の撤廃及滿鉄附屬地行政権の移讓	二三九
イ、治外法権撤廢の經過	二三九
ロ、條約及附屬協定の内容	二四〇
ハ、治外法権撤廢の滿洲國に與へたる影響	二四二
三、行政機構の改革	二四三
イ、一九三七年七月の改革	二四三
ロ、一九四〇年六月の行政機構の改革	二四五
四、地方行政機構の整備充實	二四五
イ、地方行政機構の形式的整備	二四六
省——市——縣——旗——街村	
ロ、地方行政機構の内容の充實	二五一
五、民籍及び國兵徵用制度の確立並に地籍整理事業の実施	二五一

イ、民籍制度の確立	二五二
ロ、國兵徵用制度の確立	二五三
ハ、地籍整理事業の遂行	二五四

第四節 第三期	二五五
---------	-----

一、序 説	二五五
二、民心の動向	二五七
三、本時期における行政運営の状況	二五八
イ、極端なる重点主義	二五八
ロ、地方分権の強化	二五九
ハ、行政機構の改革	二五九
ニ、重要施策遂行の状況	二五九
勞務管理の刷新——動員体制の整備——國民勤勞奉公制度の育成	

第五章 文化厚生	二六三
----------	-----

第一節 文 教	二六三
---------	-----

一、建國以前における文教の状況	二六三
二、学制の改革	二六六
イ、新学制の方針	二六六
ロ、学制体系	二六七
三、日本人の教育	二七一
日本人——朝鮮人	

四、文教の振興	二七二
---------	-----

イ、序説	二七二
------	-----

ロ、教育施設の拡充	二七五
-----------	-----

ハ、教職員の刷新	二七六
----------	-----

ニ、教科書の編纂	二七七
----------	-----

ホ、結論	二七七
------	-----

第二節 保健防疫	二七九
----------	-----

一、序説	二七九
------	-----

二、保健行政機構	二八〇
----------	-----

三、医療機関の整備充実	二八一
-------------	-----

イ、公医制度の確立	二八一
-----------	-----

ロ、病院の設置	二八二
---------	-----

ハ、医師薬剤師	二八三
---------	-----

四、防疫対策	二八四
--------	-----

イ、防疫施設の概要	二八五
-----------	-----

ロ、傳染病院の設置	二八五
-----------	-----

ハ、防疫資材の整備	二八六
-----------	-----

ニ、風土病の研究	二八六
----------	-----

五、阿片対策	二八六
--------	-----

イ、阿片法の実施	二八六
----------	-----

ロ、阿片麻薬断禁十ヶ年計画	二八七
---------------	-----

ハ、其の後の状況	二八八
第三節 社会文化	二八九

一、序	二八九
二、義	二八九
三、社会事業	二九一
イ、滿洲國赤十字社	二九一
ロ、各種宗教的団体	二九二
ハ、財團法人同善堂	二九三
四、出版	二九三
五、其他文化事業	二九六

附表

第一表	一九三〇年迄に至る滿洲經濟の發達を示す若干の指標	二六
第二表	一九三〇年に於ける滿洲貿易品目表	二七
第三表	主要國別貿易額	二八
第四表	一九二八三〇年間對華貿易上に於ける對滿貿易の地位	二九
第五表	列國の對滿投資額（一九三〇年）	三〇
第六表	在滿各國經濟勢力一覽表（一九二八年）	三二
第七表	日支經濟對比表	三五
第八表	特産大豆の主要輸出商取扱高（一九三一年下半年）	三六
第九表	日本の滿洲からの輸入	四二
第十表	日本の對外輸出額における滿洲の地位	四三

第十一表	國防資源需要一覽表——食料品	四六
第十二表	同——衣料品	四六
第十三表	同——工業原料	四六
第十四表	日本不足重要資源輸入國一覽表	四七
第十五表	滿洲第一次產業開發五ヶ年計画概括表	七九
第十六表	滿洲國主要生産能力及実績（一九四五年七月調）	一四
第十七表	金融機關別預金貸出一覽表（一九四五年六月末）	二〇
第十八表	中央銀行貨幣發行高（一九四五年四月末）	二一
第十九表	主要都市銀行預金貸出金高（一九四五年三月末）	二二
第二十表	銀行貸出金用途別調（一九四五年三月末）	二三
第二十一表	在滿主要会社資本構成総括（一九四五年六月末）	二三
第二十二表	社債及借入金	二五
第二十三表	日本對滿投資受入年度別実績	二七
第二十四表	滿洲國策会社一覽	二八
第一圖	滿洲の地勢	四二
第二圖	滿洲の起伏	四三
第三圖	滿洲主要鉱産分布図	四四
	新京氣溫図	七六
	平均氣溫	七七
	一月平均氣溫分布図	七九
	七月平均氣溫分布図	八〇
	全年降水量分布図	八一

東中西部の月別降水量……………	一八三
人口の都市集中度……………	一九一
人口の年齢別構成比率……………	一九三
人口の職業別構成比率……………	一九四
滿洲建國前の人口数……………	一九七
滿洲建國後の人口数……………	一九七
一九四五年在滿日本人数……………	二〇〇
年次別労働者数……………	二〇四
第一表 省別戸口表（一九四三年末）……………	二〇七
第二表 省別民族別人口表（一九四三年末）……………	二〇七
第三表 省別都市人口表（一九四三年末）……………	二〇八
第四表 省別男女別人口表（一九四五年十月）……………	二〇九
第五表 年齢階級別人口表（一九三八年十月）……………	二〇九
第六表 年次別人口表（一九三二—四三年）……………	二一〇
第七表 年次入離滿労働者数（一九二三—四〇年）……………	二一〇
第八表 産業別労働者推定表（一九四四年九月）……………	二一一
建國当時の教育状況……………	二六四
建國当時の学制体系……………	二六七
建國以後における文教振興の趨勢……………	二七三
日本人関係教育施設（一九四二年）……………	二七四

通卷第二十三冊 滿洲篇 第二分冊

第二部 滿洲の産業

第一章 農業

第一節 農業の自然的条件

一、地勢

二、氣候

三、土壤

第二節 農業の社会的条件

一、農法

二、土地利用状況

三、農業人口

四、農業経営

五、作付面積及收穫高

第三節 滿洲建国前後における主要農業政策の概要

一、滿洲建国前（一九三一年迄）の概況

二、建国第一期（一九三二—三六年）に於ける農業政策の概要

イ、建国直後に於ける農業混乱の回復

第二章 開 拓 政 策

第一節 滿洲開拓政策の沿革

第二節 開拓政策の計画並びに実績

ロ、農民協同組織の整備普及	一七
三、第二期（一九三七——四一年）における農業政策の概要	一八
イ、農産物増産五ヶ年計画実施	一八
ロ、農地の造成及改良	二四
ハ、農産物増産十ヶ年計画の樹立	三一
ニ、農民協同組織の改革強化	三六
ホ、生産、蒐荷及配給に対する計画性の強化及統制の実施	四五
四、太平洋戦争勃発以降の概要	五九
イ、農産物非常時緊急増産対策の実施	五九
ロ、太平洋戦争以後における農産物統制の前進と蒐荷量の推移	六三
一、試験移民時代	一四
二、二十ヶ年百万戸計画の構想	一八
三、開拓青年義勇隊の創設	一九
四、滿洲開拓政策の基本要領	二〇
五、太平洋戦争後における開拓政策の調整	二三
一、入植戸数	三七

イ、日本人開拓民……………	一三七
集團、集合、特殊、林業開拓民——自警村開拓團——漁業開拓民——補給廠開拓民——馬産開拓團——	
移駐工場——大陸婦農——開拓青年義勇隊——開拓女塾——滿蒙建設勤勞奉仕隊	
ロ、朝鮮人開拓民……………	一四七
ハ、内國開拓民……………	一四八
二、作付面積並に收量の概要……………	一四九
イ、作付面積の累増……………	一四九
ロ、收穫実績概要……………	一五一
ハ、開拓地耕作の滿洲國農業に於ける地位……………	一五二
三、開拓用地の整備及調査……………	一五三
イ、開拓用地の整備……………	一五三
ロ、入植適地調査……………	一五五
四、農地造成並に改良……………	一五六
イ、二十ヶ年百万戸計画に伴う所要農耕地の確保の見透し……………	一五六
ロ、土地改良基本調査……………	一五六
ハ、土地改良事業施行機関……………	一五七
ニ、日本食糧不足に対応する農地造成事業の飛躍……………	一五七
五、開拓民に対する助成並に融資……………	一五九
第三節 滿洲開拓關係機關の概要……………	一六三
一、序……………	一六三
二、滿洲拓殖公社……………	一六五

イ、沿 革	一六五
ロ、資本金並に社債借入金	一六六
ハ、公社の事業	一六七
ニ、公社の監督	一六八
三、滿洲開拓青年義勇隊訓練本部	一六九
イ、沿 革	一六九
ロ、訓練本部の事業	一七〇
ハ、農地開發資金	一七一
四、滿洲農地開發公社	一七一
イ、沿 革	一七一
ロ、農地開發公社の事業	一七一
ハ、農地開發の資金	一七一
第三章 畜 産 業	一九一
第一節 畜産業の概況	一九一
一、概 説	一九一
二、家畜の種類	一九二
三、畜産製品	一九二
第二節 畜産の振興方策	一九三
第三節 獸 疫	一九八

第四節 畜産関係施設 二〇一

一、家畜交易市場の設置 二〇一

二、畜産物統制機関 二〇二

満洲羊毛同業会——毛皮革類の統制機関——満洲豚毛類統制組合——畜産関係組合——その他の団体

第四章 水 産 業 二一七

第一節 水産業の概況 二一七

第二節 淡水漁業 二一八

一、漁業状況 二一八

イ、松花江水系 二一八

ロ、國境河川、興凱湖 二一九

ハ、達頼湖水系 二二〇

二、淡水魚増産対策 二二〇

第三節 海洋漁業 二二一

一、漁業状況 二二一

イ、黄海方面 二二一

ロ、渤海方面 二二一

ハ、満洲海洋漁業の實体 二二二

二、取引状況 二二二

第四節 水産業の振興対策	二二三
--------------	-----

第五章 林業	二二八
--------	-----

第一節 満洲森林の自然的条件	二二八
----------------	-----

第二節 林政の沿革及び森林の現況	二二九
------------------	-----

一、沿革	二二九
------	-----

二、林場権の整理	二三三
----------	-----

三、主産樹種及森林植物区系	二三四
---------------	-----

四、森林面積及立木蓄積量	二三六
--------------	-----

第三節 国有林野の管理	二三七
-------------	-----

一、官行斫伐と一般処分	二三七
-------------	-----

二、運材施設	二三八
--------	-----

三、施業案の編成	二三八
----------	-----

四、林野の保護	二三九
---------	-----

五、造林及養苗	二三九
---------	-----

六、林野法の実施	二四〇
----------	-----

七、林産物の統制	二四二
----------	-----

第六章 鉦工業	二五三
---------	-----

第一節 満洲事変前の鉦工業	二五三
---------------	-----

一、概 説……………二五三

イ、滿洲鉦産資源の实体……………二五三

ロ、日滿ブロックの経済的根拠……………二五五

ハ、滿鉄を中心とする日本資本の滿洲開発……………二五七

ニ、中國民族資本の擡頭……………二六一

二、事変前主要鉦工業の概説……………二六六

イ、土着工業部門……………二六八

1、油 房 業……………二六八

2、食料品工業（製粉、醸造、製糖、煙草）……………二六九

3、纖維工業（綿糸紡績）……………二七二

4、窯業（煉瓦、陶磁器）……………二七三

ロ、日本資本鉦工部門……………二七四

1、製 鉄 業……………二七四

2、石 炭……………二七七

3、機 械 工 業……………二七九

4、化 学 工 業……………二七九

5、紡 織 工 業……………二八〇

6、窯 業……………二八一

第二節 滿洲国鉦工業政策と実績……………二八一

一、建國工作期（一九三一——一九三六年）……………二八一

イ、滿洲經濟建設要綱……………二八一

ロ、經濟建設要綱の修正	二八四
ハ、重要産業統制法	二八五
ニ、建國工作期の經濟開發の成果	二八六
二、第一次五ヶ年計画期（一九三七——一九四一年）	二八七
イ、第一次産業開發五ヶ年計画	二八七
ロ、満業の設立	二九六
三、大平洋戦争期（一九四二——終戦）	二九七
イ、戦争緊急經濟方策要綱	二九八
ロ、第二次産業開發五ヶ年計画	二九九
ハ、基本國策大綱	三〇〇
四、満洲國鈹工業建設の実績	三〇三
イ、産業構造の重工業化	三〇三
ロ、國家資本の浸透	三一二
ハ、技術の達成	三一三
ニ、日本重工業の補充としての満洲	三一五
第三節 鈹業の發達	三一七
一、鉄 鈹	三一七
イ、鞍山地方	三一七
ロ、本溪湖地方	三一八
ハ、東辺道地方	三一九
二、石 炭	三二〇

イ、滿鉄系	三二一
1、撫順—2、煙台—3、蛟河—4、老頭溝—5、瓦房店	
ロ、滿洲炭礦株式会社経営	三二二
1、復州—2、和龍—3、東寧—4、三姓—5、瑯璁	
ハ、滿業系	三二三
1、阜新—2、鶴岡—3、西安—4、北票—5、密山—6、札賚—7、溪城	
——8、營城子	
ニ、滿洲製鉄株式会社経営	三二六
1、鉄廠子—2、五道江—3、本溪湖	
ホ、其他系 穆稜	三二七
ヘ、一九四二年より一九四四年までの石炭需給	三二七
三、非鉄金属及非金属鉱業	三二八
イ、銅 鉱	三二九
ロ、鉛及亜鉛 鉱	三三〇
ハ、硫化鉄 鉱	三三一
ニ、礬土頁岩	三三一
ホ、マグネサイト 鉱	三三一
ヘ、稀有金属鉱類	三三一
第四節 工業の発達	三三三
一、鉄 鋼 業	三三三

イ、昭和製鋼所	三三四
ロ、本溪湖煤鉄公司	三三六
ハ、東辺道開発会社電氣鉄工場	三三七
ニ、満鉄撫順製鉄工場	三三七
二、輕金屬工業	三三七
イ、アルミニウム	三三七
ロ、マグネシウム	三三九
三、機械工業	三四〇
イ、兵器	三四二
ロ、自動車	三四三
ハ、鉄道及産業車輛	三四四
ニ、工作機械	三四四
ホ、電氣機械	三四四
ヘ、産業機械	三四四
四、化学工業	三四五
イ、人造石油及其他液体燃料	三四六
ロ、タール系	三四七
ハ、アンモニア系	三四八
ニ、酸類	三四八
ホ、曹達類	三四八
ヘ、カーバイト	三四九
ト、火薬類	三四九

五、窯業.....	三四九
六、纖維工業及パルプ工業.....	二五三
七、油脂製粉其の他生必工業.....	三五六

第五節 電気及瓦斯.....	三五八
----------------	-----

一、滿洲建國前の發電業の状況.....	三五八
二、滿洲國建國後の發電業の状況.....	三六〇
イ、滿洲電業株式会社の設立とその業績.....	三六〇
ロ、水力電源の建設.....	三六二
三、瓦斯.....	三六五

第七章 交通.....	四七七
-------------	-----

第一節 総覧.....	四七七
-------------	-----

一、序説.....	四七七
二、滿洲における鉄道發達の概要.....	四七八
三、其の他陸運發達の概要.....	四八〇
イ、道路.....	四八〇
ロ、自動車.....	四八二
ハ、小運送.....	四八三
四、滿洲における水運發達の概要.....	四八四
イ、海運.....	四八四
ロ、江運.....	四八七

五、航 空……………四八八

第二節 南滿洲鐵道株式會社概要……………四九〇

一、會社の設立……………四九〇

二、滿鉄の會計……………四九一

イ、資本及株式……………四九二

ロ、社 債……………四九四

ハ、積 立 金……………四九五

ニ、事業投、資……………四九六

ホ、營業收支……………四九九

ヘ、利益金処分……………五〇〇

三、滿鉄の事業……………五〇二

イ、鉄 道 業……………五〇二

ロ、鐵道受託經營……………五一〇

ハ、港 灣 業……………五一六

ニ、水 運 業……………五一八

ホ、自動車業……………五一八

ヘ、採 炭 業……………五一九

ト、製 油 業……………五二七

チ、石炭液化事業……………五二九

リ、製 鉄 業……………五二九

ヌ、地方經營……………五二九

ル、教育並衛生部門の経営……………	五三六
ヲ、調査並研究機関の経営……………	五三八
ワ、関係会社投資……………	五三九
第三節 満洲の鉄道建設……………	五七〇

一、満洲事変前の鉄道建設……………	五七〇
1、中國資本鉄道……………	五七四
2、日本資本関係……………	五七九
3、ソヴェート聯邦関係……………	五八二
二、満洲事変後の新線建設……………	五八五

第八章 通 信……………	五九六
--------------	-----

第一節 郵 便……………	五九六
--------------	-----

第二節 電 気 通 信……………	五九八
------------------	-----

一、満洲國建國前の状況……………	五九八
イ、中國側の施設……………	五九九
ロ、日本側の施設……………	六〇三
二、満洲國建國後の状況……………	六〇六
イ、電 信……………	六〇七
ロ、電 話……………	六〇九
ハ、放 送……………	六一〇

附表

二、専用通信施設……………	六一三
三、太平洋戦争の開始より終戦まで……………	六一四

第一章 農 業

第一表	満洲土壤の諸性質……………	七三
第二表	満洲農業地帯特色一覽表……………	七四
第三表	一九三八年農地利用狀況表……………	七六
第四表	一九三八年農地利用狀況歩合一覽表……………	七八
第五表	都市農村別人口表……………	七九
第六表	省別農家一戸当並農業人口一人当耕作面積表……………	八〇
第七表	南北滿別農家一戸当並農業人口一人当耕作面積表……………	八〇
第八表	南滿土地所有面積別農家戸数百分率……………	八一
第九表	南滿洲耕作面積別農家戸数百分率……………	八一
第十表	北滿洲耕作面積別農家戸数百分率……………	八二
第十一表	耕作面積別農家戸数百分比……………	八二
第十二表	階級別農家戸数百分率……………	八二
第十三表	公主嶺反当收支に現れた勞力費……………	八三
第十四表	農耕勞力中に占むる雇傭勞力表……………	八三
第十五表	北滿における農家経営規模実数……………	八四
第十六表	北滿における農家経営規模百分率……………	八五

第十七表	北滿における農業經營規模一戸当平均	八六
第十八表	滿洲耕地面積表	八六
第十九表	滿洲主要農作物作付面積累年表(全滿)	八七
第二十表	同 (南滿)	八八
第二十一表	同 (北滿)	八九
第二十二表	滿洲主要農作物收穫高累年表(全滿)	九〇
第二十三表	同 (南滿)	九一
第二十四表	同 (北滿)	九二
第二十五表	滿洲主要農作物各省別收穫高	九三
第二十六表	主要農作物陌当收量	九四
第二十七表	一九三九年各省別作物別陌当收量	九四
第二十八表	農村實態調査より摘錄せる收量の推移狀況	九七
第二十九表	産業開發五ヶ年計画に於ける農業部門開發目標並所要經費資金	九八
第三十表	産業開發五ヶ年計画農業部門の推移	九九
第三十一表	一九四四年主要農産物蒐荷実績表	一〇〇
第三十二表	主要農産品輸出額累年比較表	一〇一
第三十三表	主要農産輸出品累計比較表	一〇二
第三十四表	大豆三品の滿洲貿易額に於ける地位	一〇三
第三十五表	大豆需給表	一〇三
第三十六表	大豆生産高、輸出高、國內消費高推移表	一〇四
第三十七表	主要輸出品國別累年比較	一〇五
第三十八表	滿洲主要農産輸入品累年比較表	一〇九

第三十九表	主要農産輸入品國別累年比較表……………	一〇九
第四十表	建國前五ヶ年平均を基準とせる輸出額の指数……………	一一二
第四十一表	棉花作付面積及收穫高表……………	一一三

第二章 開拓政策

第一表	日本開拓民二十ヶ年百万戸入植計画……………	一七四
第二表	第二期五ヶ年計画の年次別入植計画一覽表……………	一七四
第三表	実行計画と実績（一九三二—四五年）……………	一七五
第四表	年次別計画と実績（一九三二—四四年）……………	一七六
第五表	第十二次集團入植狀況（一九四三年）……………	一七七
第六表	第十三次集團入植計画数……………	一七七
第七表	日本内地人開拓民入植実績一覽表（一九四二年末）……………	一七七
第八表	大陸歸農実績……………	一七八
第九表	義勇隊渡滿計画並実績……………	一七八
第十表	訓練生現在数（一九四三年三月末）……………	一七九
第十一表	経営主体別訓練生数……………	一七九
第十二表	日本内地人開拓民入植現況（一九四三年十二月一日）……………	一八〇
第十三表	日本内地人開拓民入植概況……………	一八一
第十四表	各開拓團家族並人口表……………	一八二
第十五表	朝鮮人開拓民（一九四三年三月末）……………	一八三
第十六表	朝鮮人集團集合開拓民……………	一八三
第十七表	一九四四年作付目標……………	一八四

第十八表	内地開拓民作付面積（一九四一年）	一八四
第十九表	朝鮮人分散開拓民	一八五
第二十表	内國開拓民人植実績	一八六
第二十一表	一般婦農開拓團補助金一覽表	一八七
第二十二表	集團開拓地作物生産量増加指数表	一八八
第二十三表	一九四〇年開拓地生産量	一八八
第二十四表	集團開拓村作付面積年次別表	一八九
第二十五表	日本内地人開拓民作付面積増加の趨勢	一八九
第二十六表	集團開拓團年次別農作物作付面積（一九三四—三九年）	一九〇

第三章 畜 産 業

第一表	（欠）	
第二表	各省別家畜の分布狀況（一九四一年）	二〇七
第三表	一九四三年各省別家畜数	二〇七
第四表	獸皮、獸毛生産高（一九三七—三八年）	二〇八
第五表	家畜産肉量（一九三八—三九年）	二〇九
第六表	家畜産皮量（同）	二〇九
第七表	家畜産毛量（同）	二一〇
第八表	家畜年次別屠殺頭数（一九三三—三七年）	二一一
第九表	一九三八年家畜生産並斃死頭数	二一二
第十表	家畜並畜産物品目別輸出入数量（一九三八—三九年）	二一三
第十一表	家畜並畜産物年次別輸出統計（一九三三—三七年）	二一四
第十二表	毛皮毛製品地域別市場出廻数量（一九三七）	二一五

第十三表	生皮地域別出廻數量（一九三七年）	二一五
第十四表	年次別家畜傳染病發生頭數並防疫成績累年比較表（一九三三——三七年）	二一六

第四章 水 產 業

第一表	漁業戶數並從業員數（一九三七——三九年）	二二五
第二表	漁船數（一九三七——三九年）	二二五
第三表	省別船種別漁船數（一九三九年）	二二六
第四表	水域別漁獲高（一九三七年）	二二七

第五章 林 業

第一表	各省別林野面積並立木蓄積量	二四四
第二表	經營地區別國有林野面積及蓄材量	二四五
第三表	滿洲木材需給年別表	二四六
第四表	滿洲木材輸出入年別表	二四七
第五表	各年度別木材生產高	二四九
第六表	林產物生產高	二四九
第七表	一九三九年營林局別木材生產高	二四八
第八表	一九四四年各營林局別木材生產高	二五〇
第九表	森林鐵道一覽表	二五一
第十表	林業開拓民營農概況表	二五二
第十一表	林業開拓民作付面積表	二五二

第六章 鉦 工 業

第一表	南滿三港貿易額に占むる列國の割合……………	二五五
第二表	日滿主要品輸出入額……………	二五六
第三表	滿鉄傍系会社（一九三〇年一月）……………	二五九
第四表	一九三〇、一九三一年度大豆三品輸出比較表……………	二六四
第五表	一九二九、一九三〇年滿鉄營業收支……………	二六五
第六表	關東州及滿鉄附屬地工業企業資本累年比較（一九一四——一九三〇年）……………	二六六
第七表	一九二五——三〇年における全滿油房業……………	二六八
第八表	一九三〇年北滿地方製粉工場生産高……………	二七〇
第九表	一九三〇年末現在における紡織工業……………	二七二
第十表	一九二九年における綿糸布需給……………	二七三
第十一表	銑鉄生産高及市場別販売高（一九一九——一九二九年）……………	二七五
第十二表	本溪湖鉄生産量（一九一五——三一年）……………	二七六
第十三表	一九〇七——三一年撫順炭礦年次別出炭高……………	二七七
第十四表	滿鉄社炭用途別販売高（一九一二——二八年）……………	二七八
第十五表	滿洲炭輸出數量仕向地別（一九一七——二九年）……………	二七八
第十六表	一九三八年特殊会社資本金……………	二八三
第十七表	一九三一、一九三六年主要鉦工產品比較……………	二八六
第十八表	第一次産業開發五ヶ年計画（鉦工業部門）……………	二八七
第十九表	五ヶ年計画修正開發目標……………	二八九
第二十表	滿業發表表による一九三八年曆年基準の生産指數……………	二九五
第二十一表	一九四〇年滿洲國工場数、職工数、生産金額……………	三〇四
第二十二表	一九三八年滿洲國工業別生産額……………	三〇五

第二十三表	一九四一年關東州工場數、職工數、生產金額	三〇七
第二十四表	全滿工場數、職工數、生產額（一九四一年關東州＋一九四〇年滿洲國）	三〇八
第二十五表	一九三八年關東州工場數、職工數、生產額	三〇九
第二十六表	一九三八年全滿工場數職工數、生產額（滿洲國＋關東州）	三一〇
第二十七表	一九四〇年滿洲國地方別工場數、職工數、生產額	三一〇
第二十八表	一九四〇年工場原動機設備統計	三一四
第二十九表	旧日本勢力圈重要資源生產	三一六
第三十表	銑鉄鉄鋼生產高並対日供給高	三三三
第三十一表	一九四三年、四四年滿洲電氣銅需給	三三八
第三十二表	滿洲輕金会社生產量	三三九
第三十三表	滿洲マグネ会社生產量	三四〇
第三十四表	發電業設備能力及發電量	三六四
第三十五表	發電所設備能力及發電量	三六四
第三十六表	瓦斯製造及供給狀況	三六七
I 工場統計資料		
第一表	一九四〇年滿洲國工業主國籍別資本金及生產額	三六八
第二表	一九四一年關東州工業主國籍別資本金及生產額	三七〇
第三表	全滿工業主國籍別資本金及生產額（一九四〇年滿洲國及一九四一年關東州）	三七一
第四表	一九四〇年滿洲國工業主國籍別工業業種別生產額	三七二
第五表	一九四一年關東州工業主國籍別工業業種別生產額	三七六
第六表	全滿工業主國籍別工業業種別生產額（一九四〇年滿洲國及一九四一年關東州）	三八〇
第七表	一九三八年滿洲國工場規模別工場數、職工數、生產額	三八四

第八表	一九四〇年滿洲國工場規模別工場數、職工數、生產額	三八七
第九表	一九四一年關東州工場規模別工場數、職工數、生產額	三九〇
第十表	一九四〇年滿洲國工業主要生產品目別生產額	三九三
第十一表	一九四一年關東州工業主要生產品目別生產額	三九六
Ⅱ 鈹工業生產需給基本統計資料(一九四二—四四年)		三九八
第十二表	鈹業總括表(品目別埋藏量、生產能力、生產量)	三九八
第十三表	鉄鈹会社別生產統計(生產量、生產能力、埋藏量)	四〇〇
第十四表	石炭会社別生產統計(生產量、主要設備、埋藏量)	四〇一
第十五表	非鉄金屬及非金屬生產会社別生產統計(埋藏量、主要設備、生產量)	四〇三
第十六表	硫化鉄鈹会社別生產統計(埋藏量、主要設備、生產量)	四〇七
第十七表	稀有金屬会社別生產統計(同)	四〇八
第十八表	石炭需給表	四一一
第十九表	マグネサイト需給表	四一二
第二十表	螢石需給表	四一二
第二十一表	硫化鉄鈹需給表	四一三
第二十二表	鉄鋼業總括表(生產能力、需給)	四一四
第二十三表	鉄鋼会社別生產統計(生產能力、主要設備、生產量)	四一五
第二十四表	特殊鋼会社別生產統計(同)	四一八
第二十五表	鉄鋼需給表	四一九
第二十六表	特殊鋼需給表	四二〇
第二十七表	非鉄冶金及輕金屬工業總括表(生產能力、需給)	四二〇
第二十八表	非鉄金屬及輕金屬会社別生產統計	四二一

第二十九表	非鉄金屬類需給表	四二三
第三十表	アルミニウム需給表	四二四
第三十一表	機械工業總括表（能力、生産量、使用先、主要原材料使用量）	四二五
第三十二表	車輛会社別生産統計（能力、主要設備、生産量）	四二六
第三十三表	工作機械及工具会社別生産統計（同）	四二七
第三十四表	電氣機械会社別生産統計（同）	四二八
第三十五表	産業機械会社別生産統計（同）	四二九
第三十六表	軍事工業總括表（品目別、能力、生産量）	四三〇
第三十七表	航空機生産統計（同）	四三一
第三十八表	地上兵器生産統計（同）	四三二
第三十九表	化学工業總括表（同）	四三三
第四十表	化学工業会社別生産能力統計（生産能力、設備關係、原料關係）	四三四
第四十一表	化学製品需給總括表	四三五
第四十二表	曹達灰及苛性曹達需給表	四三七
第四十三表	硝酸及硫酸需給表	四三八
第四十四表	硫酸及硝安需給表	四三九
第四十五表	ベンゾール、トルオール、ナフタリン、コールタール需給表	四四〇
第四十六表	カーバイト需給表	四四二
第四十七表	セメント總括表	四四三
第四十八表	セメント会社別生産統計	四四三
第四十九表	セメント需給表	四四四
第五十表	パルプ及製紙工業總括表	四四五

第五十一表	バルブ及製紙工業会社別生産統計（主要設備、能力実績）	四四五
第五十二表	バルブ及製紙工業原料及需給表	四四七
第五十三表	纖維工業総括表（生産能力、生産数量、原料使用量、主要設備）	四四八
第五十四表	纖維工業統制会社及綿紡績業会社別統計（主要設備能力、生産量、原料使用量）	四五〇
第五十五表	綿及絹織物組合生産統計（同）	四五三
第五十六表	綿及絹織物組合生産統計（同）	四五五
第五十七表	毛織物会社別生産能力統計（主要設備、能力）	四五七
第五十八表	亞麻会社別生産能力統計（同）	四五八
第五十九表	柞蚕会社別生産能力統計（同）	四五九
第六十表	紡麻会社別生産能力統計（同）	四六一
第六十一表	纖維及同製品主要品種別取扱高	四六二
第六十二表	纖維及同製品輸出入累年比較表	四六三
第六十三表	纖維及同製品國別輸出累年比較表	四六五
第六十四表	纖維及同製品國別輸入累年比較表	四六七
第六十五表	食料加工業総括表（生産能力、需給）	四六九
第六十六表	油房業会社別生産統計（設備、能力、生産実績、原料使用高）	四七〇
第六十七表	製粉業会社別生産統計（同）	四七一
第六十八表	甜菜糖会社別生産統計（同）	四七一
其	他	四七二
第六十九表	主要鉱産額（一九二六——一九四四年）	四七二

第一表	社債年度別現存額調（一九〇七——四五年）	五四一
第二表	諸積立金年度別調（一九〇七——四五年）	五四二
第三表	年度別資產負債分析表（一九〇七——四五年）	五四〇ノ一
第四表	事業投資一覽表（一九〇七——三二年）	五四三
第五表	社内事業費年度別累計内訳表（一九〇七——四五年）	五四四
第六表	有價証券年度別調（一九〇七——一九四五年八月）	五四七
第七表	一九四五年八月一五現在有價証券内訳表	五四八
第八表	貸金年度別内訳表（一九〇七——四五年）	五四九
第九表	滿洲國國有鐵道借款内訳表（一九三三——四五年）	五五〇
第十表	營業收支年度別調	五五一
第十一表	營業收支事業別内訳表	五五二
第十二表	年度別利益金処分表（一九〇七——四四年）	五五三
第十三表	鐵道營業收支年度別内訳表（同）	五五五
第十四表	旅客輸送成績表（一九〇七——四四年）	五五六
第十五表	貨物運輸成績表（一九〇七——四四年）	五五七
第十六表	滿洲國國有鐵道受託經營當時の既成鐵道表	五五八
第十七表	滿鉄營業行程表	五五九
第十八表	港灣別輸出入貨物噸數表	五六〇
第十九表	港灣營業收支年度別内訳表	五六一
第二十表	滿鉄經營炭礦出炭量調	五六二
第二十一表	鈹業營業收支年度別内訳表	五六三
第二十二表	製油事業營業收支表（一九二九——四四年）	五六四

第二十三表	地方行政権移譲に伴う引継財産	五六五
第二十四表	地方収支年度別内訳表	五六六
第二十五表	關係会社一覽表	五六七
第二十六表	滿洲鐵道一覽表（一九三〇年三月現在）	五七三

第八章 通 信

第一表	滿洲國內通常郵便取扱数（一九三二——一九三九年）	六一六
第二表	外國通常郵便物取扱数（一九三四——一九三九年）	六一六
第三表	郵便線路杆数（一九二八——一九三九年）	六一六
第四表	郵便取扱局所数（一九〇六——一九三八年）	六一七
第五表	郵便物数（一九〇六——一九四〇年）	六一七
第六表	郵便線路杆数（一九〇七——一九四〇年）	六一八
第七表	電信施設概要（一）	六一九
第八表	電信施設概要（二）	六一九
第九表	電話施設概要（一）	六二〇
第十表	電話施設概要（二）	六二〇
第十一表	放送局分布	六二一
第十二表	滿洲電信電話株式会社通信施設内訳	六二二
第十三表	滿洲電信電話株式会社収支状況	六二三

第三部 滿洲の經濟

通卷第二十四冊 滿洲篇 第三分冊

第一章 財 政	五
第一節 旧東三省時代の財政	五
一、序 説	五
二、税 制	五
三、予 算	七
四、支 出	八
五、金融と財政	九
第二節 満洲国財政の概要	九
一、財政の発展段階	九
二、歳計発展の趨勢	一〇
三、経費膨脹の原因	一一
四、歳入歳出の相互関係	一三
五、歳入財源の構成の変動	一三
六、特別会計の発展	一四
七、一般会計と特別会計の純計	一四
第三節 創業財政時代（一九三二年——一九三三年六月）	一五
一、予算の編成	一五
二、税制の整理	一六
三、海關の接收と第一期關稅制度の改正	一七
四、專賣制度の實施	一九

五、特別会計の設置……………	一九
----------------	----

第四節 基礎財政時代（一九三三年——一九三六年）……………	二〇
-------------------------------	----

一、予算編成……………	二〇
二、第二期税制整理……………	二二
三、第二期関税制度の改正……………	二三
四、公債の発行並政策……………	二四
五、特別会計の増設……………	二五
六、財政行政の改善……………	二五

第五節 国防財政時代（一九三七年一月——一九四〇年十二月）……………	二六
------------------------------------	----

一、予算の編成……………	二六
イ、一九三七年度……………	二七
ロ、一九三八年度……………	二八
ハ、一九三九年度……………	二八
ニ、一九四〇年度……………	二九
二、第三次及四次税制整理……………	三〇
三、関税制度の改正……………	三〇
四、専売制度の発展……………	三一
五、国防財政と公債発行……………	三一
六、特別会計の発展……………	三一

第六節 太平洋戦争前後の財政（一九四一年——一九四五年）……………	三二
-----------------------------------	----

一、序	説	三二
二、予算の編成		三三
イ、総	観	三三
ロ、一九四一年度		三三
ハ、一九四二年度		三四
ニ、一九四三年度		三五
ホ、一九四四年度		三六
三、第五期税制整理並経済平衡資金等の増徴		三六
四、特別会計の発展		三八
五、公債増発の趨勢		三八
第二章 金	融	七五
第一節 満洲事変前における通貨及び金融制度		七五
一、通貨貨幣制		七五
二、金融機関		七九
三、貨幣取引及び対外爲替		八四
1、貨幣取引		八四
2、対外爲替		八八
第二節 幣制の統一と金融制度の整備		八九
一、幣制の統一		八九
1、満洲中央銀行の設立		九〇

2、旧通貨の回收整理	九四
(1) 旧四行発行紙幣の回收	九四
(2) 特殊通貨の回收	九七
馬太洋票——熱河票——私帳の整理——過炉銀の整理——鎮平銀の整理——中國交通兩行發行哈大洋票の整理——硬貨の回收整理	一〇三
3、銀口離脱と金口本位への移向	一一一
4、新通貨発行の概要	一一一
二、金融機関の整備	一一三
1、國內金融機関の整備	一一三
イ、弱小金融機関の整理	一一四
ロ、金融合作社の設立	一一五
ハ、大興公司の設立、滿洲中銀附屬業務の整理	一一七
ニ、滿洲興業銀行の設立	一一八
2、金融整備政策の推進	一二三
イ、低金利政策の確立	一二四
ロ、産金の買上	一二六
ハ、金融統制の發展	一二七
第三節 滿洲産業開發と資金の調達	一三〇
一、第一次五ヶ年計画と資金の調達	一三〇
二、太平洋戦争期における産業開發と金融統制の強化	一三九
第四節 日本對滿投資の特質	一四八

一、日本対滿投資の國際的地位	一四八
二、日本対滿投資の特質	一五一
第五節 金融統計の概観	一五八
一、銀行券の發行高	一五八
二、予金及貸付	一六一
第三章 貿易及國際收支	一七五
第一節 貿易	一七五
一、滿洲事変前の貿易概観	一七五
二、滿洲建國後の貿易	一八四
1、総貿易額の考察	一八四
2、貿易の國別構成	一八五
3、滿洲貿易港の消長	一九二
4、貿易の品別構成	一九三
第二節 國際收支	二〇四
第四章 商業、配給、物價	二一五
第一節 国内市場の形成過程	二一五
第二節 滿洲土着資本の特質	二二五
一、土着資本の性格に関する一般的考察	二二五

附表

第一章 財政

二、土着資本の出資経営に関する特質……………	二二一
三、財産及資本の構成……………	二三四
四、企業利潤とその配分……………	二四一
第三節 満洲建国後における商業配給統制……………	二四四
第四節 満洲国における物価……………	二七二
一、満洲国における價格形成の條件……………	二七二
二、物價の推移……………	二七六
第一表 遼寧省歷年支出統計表……………	三九
第二表 遼寧省歷年支出百分表……………	四〇
第三表 遼寧省收入支出過不足表……………	四一
第四表 遼寧省歷年收入統計表……………	四二
第五表 建國前後歲入比較表（一九三一—三二年）……………	四三
第六表 一般会計歲入歲出累年表（一九三二—四一年）……………	四六
第七表 物價騰貴と經費膨脹（一九三二—四二年）……………	四七
第八表 人口増加と經費膨脹（一九三二—四一年）……………	四七
第九表 一般会計歲出所管別累年表（一九三二—四二年）……………	四八
第十表 國防及治安費（一九三二—四二年）……………	四九
第十一表 經濟建設費（一九三二—四二年）……………	四九

第二章 金 融

第十二表	國 債 費（一九三二——四一年）	四九
第十三表	一般会計歳入種目別累年表（一九三二——四二年）	五〇
第十四表	歳入歳出の相互關係（一九三二——四二年）	五三
第十五表	主要歳入財源割合の變動（一九三二——四二年）	五三
第十六表	特別會計累年比較表（一九三二——四二年）	五四
第十七表	一般及特別會計純計額表（一九三二——四二年）	五九
第十八表	基礎財政時代の一般会計歳出（決算）費途別表	六〇
第十九表	國債増加額累年表（一九三二——三六年）	六一
第二十表	一般会計及特別會計別國債表（一九三二——三六年）	六二
第二十一表	國防財政時代の一般会計歳出費途別表（一九三七——四二年）	六四
第二十二表	國債増加額累年比較表（一九三七——四一年）	六五
第二十三表	一般及特別會計國債表（一九三七——四一年）	六六
第二十四表	一般会計歳出予算各年比（一九四二——四四年）	六七
第二十五表	特別會計歳入歳出累年表（一九四二——四四年）	六八
第一表	滿洲事變前に於ける通貨發行狀況（一九二七——三一年）	七六
第二表	滿洲主要通貨相場表（一九二——三一年）	七八
第三表	中國側銀行一覽表（一九三一年現在）	八一
第四表	日本側銀行一覽表（一九三一年六月）	八三
第五表	日本側貨幣取引所一覽表（一九三〇年）	八七
第六表	合併貸借対照表（一九三二年七月一日）	九三

第七表	新旧通貨換算率（一九三二年六月二八日）	九五
第八表	旧紙幣繼承額	九五
第九表	旧四行紙幣回收実績（一九三五年八月）	九六
第十表	馬太洋票回收実績（一九三三年五月）	九七
第十一表	熱河票回收実績（一九三三年三月）	九八
第十二表	熱河興業銀行貸借対照表	九八
第十三表	中國交通兩行發行哈大洋票（一九三二年六月）	一〇一
第十四表	哈大洋票回收実績表（一九三七年八月）	一〇一
第十五表	滿洲國國際收支（一九三三——三七年）	一〇六
第十六表	國幣對外爲替相場（一九三二年七月——三七年）	一〇七
第十七表	對第三國國際收支（一九三三——三七年）	一一〇
第十八表	橫浜正金銀行鈔票勘定（一九三一——三六年三月）	一一一
第十九表	國幣發行高と物價（一九三二——三七年十二月）	一一二
第二十表	國幣對外爲替相場（一九三二——三七年）	一一三
第二十一表	金融合作社數及社員數（一九三三——三七年）	一一六
第二十二表	旧官銀号の附帶業務投資額	一一七
第二十三表	全滿銀行預金貸附高（一九三二——三六年）	一一九
第二十四表	世界工業生産指數（一九三〇——三五年）	一二〇
第二十五表	日銀金利、國債、滿鉄社債發行利率低下の趨勢（一九三一——三六年）	一二一
第二十六表	ルート別對滿投資（一九三二——三六年）	一二一
第二十七表	日本投資余力と國民投資（一九三一——三六年）	一二二
第二十八表	旧政權時代官銀号金利	一二四

第二十九表	滿洲金利變動表（一九三二——四一年）	一二五
第三十表	滿洲中央銀行標準貸出金利變動一覽表（一九三二——四一年）	一二五
第三十一表	中銀產金買上價格（一九三三——三八年）	一二六
第三十二表	滿洲產業開發五ヶ年計画資金計画	一三三
第三十三表	滿洲五ヶ年計画による生産力拡充目標	一三四
第三十四表	五ヶ年計画資金調達実績（一九三七——四一年）	一三六
第三十五表	発行目的別滿洲國公債額（一九三三——四一年）	一三六
第三十六表	滿洲國內調達資金部門別推定表	一三七
第三十七表	通貨発行の膨脹	一三七
第三十八表	第一次五ヶ年計画部門別國別資金調達実績	一三八
第三十九表	鉄鋼石炭生産高及対日供給高（一九四一年）	一三九
第四十表	一九四二年日滿標準金利	一四二
第四十一表	資金放出機構図	一四三
第四十二表	日本對滿投資額（一九四二——四五年六月）	一四四
第四十三表	全滿銀行資金用途別残高（一九四一——四五三月）	一四四
第四十四表	公社債現在高（一九四一——四三年）	一四五
第四十五表	通貨発行高（一九四一——四五年八月）	一四五
第四十六表	全滿金融機關預金貸出高（一九四五年六月末）	一四六
第四十七表	一九四二——四五年六月に至る資金調達推定額	一四七
第四十八表	世界軍費の増大（一九一三——三二年）	一五〇
第四十九表	滿洲事変前に於ける列國の對滿投資	一五〇
第五十表	列國對滿投資額（一九三五年六月）	一五一

第五十一表	滿洲事変前に於ける日本の投資内容……………	一五二
第五十二表	滿洲事変前に於ける日本の対滿証券投資（一九三一年末）……………	一五二
第五十三表	日本対滿証券投資（一九三六年迄）……………	一五三
第五十四表	日本対滿投資業種別表（一九三二——三九年）……………	一五三
第五十五表	右証券投資額の構成……………	一五四
第五十六表	日本対滿投資ルートの構成（一九三七——四〇年）……………	一五四
第五十七表	支配系統別滿洲株式会社社資本金（一九三九年六月末）……………	一五五
第五十八表	在滿主要会社拂込資本金の構成……………	一五六
第五十九表	日本対滿投資純増額（一九三二——四五年六月）……………	一五六
第六十表	在滿主要会社資本構成（一九四五年六月末）……………	一五七
第六十一表	滿洲中央銀行券発行高（一九三二——四五年八月）……………	一五九
第六十二表	円系銀行券発行高指数（一九三二——四五年）……………	一六〇
第六十三表	円系通貨発行高（一九三二年末——四五年六月）……………	一六〇
第六十四表	預金及貸附証券投資勘定の対比（一九三二——四五年六月）……………	一六一
第六十五表	全滿主要金融機関預金高（一九三二——四五年六月）……………	一六二
第六十六表	全滿國籍別銀行預金高（一九三二——三六年）……………	一六三
第六十七表	預金の金融機関別構成（一九三二——四五年六月）……………	一六四
第六十八表	全滿銀行貸附高（一九三二——三六年）……………	一六五
第六十九表	貸附の金融機関別構成（一九三二——四五年六月）……………	一六五
第七十表	特殊銀行対比其他銀行の預金貸附証券投資の比率（一九四三年三月末）……………	一六六
第七十一表	全滿金融機関貸出高（一九三二——四五年六月）……………	一六六
第七十二表	全滿銀行の産業別貸附高（一九四一——四五年三月）……………	一六七

第七十三表 地域別預金貸出高（一九三六——四五年六月）……………一六八
第七十四表 全滿主要都市銀行預金高及貸出高（一九三六——四五年三月）……………一六九

第三章 貿易及び国際収支

第一表	全滿輪移出入額（一九〇七——三〇年）……………	一七六
第二表	滿洲普通作物收穫高（一九二四——三〇年）……………	一七七
第三表	農産物の輪移出貿易に占める地位（一九二六——三〇年）……………	一七七
第四表	全滿洲対外國別輪出入額表（一九三〇年）……………	一七九
第五表	海關別輪移入額（一九二〇——三〇年）……………	一七九
第六表	滿洲におけ輪移出額（一九二八——三〇年）……………	一八〇
第七表	全滿洲対外國輸出額表（一九三〇年）……………	一八一
第八表	滿洲主要輪移出品（一九二八——三〇年）……………	一八二
第九表	全滿洲対外國別輸入表（一九三〇年）……………	一八二
第十表	南滿三港及び哈爾濱に於ける輪移入額（一九二八——三〇年）……………	一八三
第十一表	滿洲國貿易累年比較表（一九三一——四一年）……………	一八四
第十二表	滿洲入超額及日本對滿投資額（一九三二——四四年）……………	一八五
第十三表	國別貿易構成（一九二九——四一年）……………	一八六
第十四表	輸出貿易の國別構成（一九三二——四一年）……………	一八六
第十五表	國別貿易輸出額（一九三二——四一年）……………	一八八
第十六表	輸入貿易の國別構成比率（一九三二——四一年）……………	一八九
第十七表	輸入貿易の國別構成（一九三二——四一年）……………	一九一
第十八表	滿洲貿易港別貿易額（一九三二——三九年）……………	一九二

第十九表	農産物の輸出貿易上に占める地位（一九二六——三九年）	一九三
第二十表	主要品輸出構成（一九三四——三九年）	一九四
第二十一表	主要品別貿易額（一九三二——三九年）	一九五
第二十二表	特産三品仕向地別輸出額（一九三四——三九年）	一九六
第二十三表	満洲國輸入貿易の用途別趨勢（一九三二——三六年）	一九七
第二十四表	産業別輸入品額（一九三二——三六年）	一九七
第二十五表	主要輸入品表（一九三二——三九年）	一九九
第二十六表	日本の貿易に占める満洲の地位（一九三一——四五年）	二〇〇
第二十七表	満洲國國際收支概要（一九三三——三八年）	二〇二
第二十八表	貿易外經常收入支拂内訳（一九三三——三八年）	二〇三
第二十九表	満洲國臨時收支内訳（一九三三——三八年）	二〇五
第三十表	対満日本資本流入還流額（一九三二——三六年）	二〇六
第三十一表	中國及其他國との國際收支（一九三七——三八年）	二〇七
第三十二表	日本の満洲に於ける行政経費の増大趨勢（一九三七——四一年）	二〇八
第三十三表	日満國際收支一覽表（一九三七——四一年）	二〇九
第三十四表	満洲の利子配当及び事業利益支拂勘定（一九三七——四一年）	二〇九

第四章 商業、配給、物価

第一表	人口耕地の増加趨勢（一九〇八——三一年）	二二四
第二表	東三省に於ける都市の發達（一九〇七——三〇年）	二二四
第三表	三都市満系有力企業の形態（一九三八年現在）	二三一
第四表	中都市満系有力企業財東の現住所	二三三

第五表	財東の職業……………	二三三
第六表	中市満系有力企業の概況（一九三八年末）……………	二三五
第七表	資産の構成……………	二三六
第八表	流動資産の構成……………	二三六
第九表	資本の構成……………	二三八
第十表	自己資本の構成……………	二三八
第十一表	他人資本の構成……………	二三九
第十二表	内部勘定及店內預り金の構成……………	二四〇
第十三表	収益率……………	二四一
第十四表	業種別元入資本収益率……………	二四一
第十五表	利潤分配の構成……………	二四二
第十六表	出資者所得利潤の社会的配分……………	二四四
第十七表	新京卸売物價指数（一九三六——四〇年）……………	二六二
第十八表	新京農産物卸売價格表（一九三六——四〇年四月）……………	二六二
第十九表	一九三八——三九特産年度農民販売單價指数……………	二六四
第二十表	大連市場に於ける混保一等品相場（一九二九——三六年）……………	二七七
第二十一表	大連卸売物價指数（一九二九——三六年）……………	二七八
第二十二表	新京卸売物價指数（一九三三——三七年）……………	二七八
第二十三表	新京卸売物價類別指数（一九三六——四〇年）……………	二七九
第二十四表	日満卸売物價指数（一九三六——四一年）……………	二八〇
第二十五表	年工勞賃（一九三六——四四年）……………	二八一
第二十六表	日満支各地卸売物價指数（一九三六——四五年三月）……………	二八二

第二十七表	新京卸売物價指數（一九三六——四三年十二月）	二八三
第二十八表	新京生計費指數（一九三六——四三年五月）	二八三

圖表

第一圖	小麦粉配給系統圖	二五〇
第二圖	輸入黃麻、麻糸、新麻袋配給系統圖	二五一
第三圖	原綿々製品配給系統圖	二五二
第四圖	毛皮、皮革收納配給系統圖	二五三
第五圖	機械類配給系統圖	二五四
第六圖	生必品の配給系統圖	二五五
第七圖	米穀管理配給系統圖	二五六
第八圖	大豆の收買及販売系統圖	二五七
第九圖	塩配給系統圖	二五九
第十圖	石油類配給系統圖	二六〇
第十一圖	マッチ配給系統圖	二六一

通卷第二十五冊 滿洲篇 第四分冊

關東州篇

第一章 總

說

第一節 概

說

第二節 地誌	三
第三節 気象	四
一、氣象觀測事業	四
二、氣象	五
第四節 人口	五
第五節 機構	七
第二章 行政	八
第一節 施政沿革並に現制	八
第二節 地方行政	九
一、關東州内自治制度	九
二、市制度	九
三、市の事業	一〇
四、会制度	一一
五、会の事業	一二
第三章 財政	一三
第一節 概要	一三
第二節 歳計	一三
一、特別會計	一三

(イ) 歳入——(ロ) 歳出	一六
二、地方費會計	一六
(イ) 收入——(ロ) 支出	一六
第三節 租 税	一八
一、國 税	一八
二、地 方 税	一九
第四節 国 有 財 産	二〇
第五節 專 売	二一
一、阿 片 專 売	二一
二、燐 寸 專 売	二三
第四章 関 説	二四
第一節 關東州の關稅制度	二四
一、露 治 時 代	二四
二、日本の繼承後と大連港の自由開放	二五
第二節 大連税関	二六
第五章 教 育	二八
第一節 概 説	二八
第二節 日本人教育	二九

第三節 滿支人教育	三〇
-----------	----

第四節 一般社會教育施設	三一
--------------	----

一、關東體育研究所	三一
-----------	----

二、旅順博物館	三二
---------	----

三、滿蒙資源館	三二
---------	----

四、工業博物館	三二
---------	----

五、圖書館	三三
-------	----

旅順圖書館——大連圖書館及在大連各圖書館

六、少年訓練	三三
--------	----

七、各種青年團體及婦人團體	三三
---------------	----

八、其他教育團體	三三
----------	----

第六章 產業	三四
--------	----

第一節 商業	三四
--------	----

第二節 工業	三五
--------	----

一、概観	三五
------	----

二、紡績工業	三六
--------	----

三、金屬工業及機械器具工業	三六
---------------	----

四、車輛工業	三七
--------	----

五、造船業	三七
-------	----

六、油坊工業	三八
--------	----

七、硬化油工業	四〇
八、染料工業	四〇
九、硫酸工業	四一
一〇、ソーダ工業	四二
一一、石油工業	四二
一二、塗料工業	四二
一三、混合飼料工業	四三
一四、硝子工業	四三
イ、板硝子工業——ロ、硝子器工業	
一五、セメント工業	四五
一六、耐火煉瓦工業	四五
一七、マグネシウム工業	四六
第三節 農業	四七
一、棉花	四八
二、落花生	四九
三、果樹	五〇
第四節 畜産	五一
一、畜牛	五一
二、馬匹	五一
三、驢	五二
四、騾	五二

五、豚	五二
六、家禽	五二

第五節 林業	五三
--------	----

第六節 水産	五四
--------	----

第七節 塩業	五五
--------	----

第七章 貿易	五八
--------	----

第一節 概要	五八
--------	----

第二節 貿易の趨勢	五九
-----------	----

一、海路貿易	五九
--------	----

二、陸路貿易	六〇
--------	----

三、再輸出	六一
-------	----

四、貿易尻	六二
-------	----

五、貿易國	六三
-------	----

六、貿易品目	六四
--------	----

第八章 通貨、金融及保險	六五
--------------	----

第一節 通貨	六五
--------	----

一、旧通貨の状態	六五
----------	----

二、帝政露國留紙幣の使用	六六
--------------	----

第二節 金

融

三、日本政府軍用手票の發行……………	六七
四、横浜正金銀行發行一覽拂手形の使用……………	六七
五、横浜正金銀行銀円券による幣制統一……………	六八
六、横浜正金銀行金円券の發行……………	六九
七、朝鮮銀行券による幣制統一……………	七〇
八、滿洲中央銀行券の自然流通……………	七二
一、錢莊の消長……………	七四
二、露國道勝銀行の支店設置……………	七六
三、横浜正金銀行の支店設置……………	七六
四、朝鮮銀行支店進出……………	七八
五、東洋拓殖株式会社の不動産金融……………	八〇
六、地場普通銀行の興廢……………	八二
七、其他の日本側出張所銀行の進出……………	八四
八、滿洲系銀行の滲透……………	八六
九、支那側銀行の支店設置……………	八七
十、外國側銀行の支店……………	八八
十一、金融組合及關東州金融組合聯合會……………	八九
十二、無盡會社……………	九一
十三、大連手形交換所……………	九二
十四、關東州金融機關の綜合的觀察……………	九二

A、金融機関類別による消長——B、資金構成面よりの観察——C、資金運用面よりの観察——D、貸出
金國籍別担保別及用途別

第三節 保 險 九六

一、保險事業の發達と其の監督法規 九六

二、生命保險業務 九七

三、損害保險業務 九九

四、保險業綜合機關 一〇三

第九章 物 價 及 賃 銀 一〇四

第一節 物 価 一〇四

一、物價構成の変遷 一〇四

二、物價統制施行狀況 一〇六

三、物價趨勢と物價平衡措置 一〇八

第二節 賃 銀 一一〇

一、労働事情 一一〇

二、労銀の趨勢 一一一

第十章 爲 替 一一四

第一節 為替取扱機構の消長 一一四

一、固有錢莊及支那側銀行國內爲替取扱 一一四

二、外國爲替市場の發達 一一六

第二節 為替取引形体の変遷	一七
---------------	----

一、円為替取引	一七
---------	----

二、対満取引	一七
--------	----

三、対支為替取引	一八
----------	----

四、対英米向為替取引	一八
------------	----

第三節 外国為替管理実施状況と為替資金の満洲国統合	一九
---------------------------	----

第十一章 衛生	二一
---------	----

第一節 診療機関	二一
----------	----

第二節 保健事業	二二
----------	----

一、関東保健館	二二
---------	----

二、衛生試験並に薬品検査	二二
--------------	----

三、其他	二二
------	----

第三節 予防及防疫	二二
-----------	----

一、急性傳染病	二二
---------	----

二、花柳病予防	二三
---------	----

三、結核予防	二三
--------	----

第四節 獣畜衛生	二三
----------	----

一、屠場並に屠畜取締	二三
------------	----

二、獸疫予防……………	一二三
第五節 阿片及び麻薬取締……………	一二四
一、阿片取締……………	一二四
二、麻薬取締……………	一二四
第十二章 公 共 施 設……………	一二五
第一節 關東州州計画……………	一二五
第二節 市区經營……………	一二五
一、大 連……………	一二五
二、旅 順……………	一二七
三、金 州……………	一二八
第三節 道路及び橋梁……………	一二八
一、道 路……………	一二九
二、橋 梁……………	一二一
第四節 上 水 道……………	一二二
一、大 連……………	一二二
二、旅 順……………	一二三
三、金 州……………	一二三
四、其の他の地域……………	一二四

五、水源水利調査……………	一三四
第五節 下 水 道……………	一三五
一、大 連……………	一三五
二、其の他の地域……………	一三六
第六節 瓦斯事業……………	一三七
第七節 電気事業……………	一三八

第十三章 社会事業……………	一四〇
----------------	-----

- (1) 恩賜財團慈善資金——(2) 恩賜財團兒童獎學資金——(3) 關東州方面委員——(4) 財團法人滿洲社会事業協會——(5) 財團法人大連方面事業助成會——(6) 社團法人聖德會——(7) 救世團育兒婦人ホーム——(8) 財團法人大慈園——(9) 財團法人鎌倉保育園旅順、大連支部——(10) 關東州労働保護會——(11) 日本赤十字社關東州委員本部——(12) 財團法人大連聖愛醫院——(13) 財團法人大連宏濟善堂——(14) 財團法人爲仁會

附表

第一表 關東州戶口表……………	一五四
第二表 職業別人口……………	一五五
第三表 關東州都市及農村人口比率表……………	一五六
第四表 一九四二年都市及農村別人口密度表……………	一五六
第五表 關東州氣溫……………	一五六
第六表 關東州降水量……………	一五六

第七表	關東局特別會計年度別歲入歲出決算及予算	一五七
第八表	關東局特別會計年度別歲入実績	一五八
第九表	關東州地方費會計年度別收入支出決算及予算	一五九
第十表	關東州地方費年度別收入実績	一六〇
第十一表	關東州國稅年度別実績	一六一
第十二表	關東州地方稅年度別実績	一六二
第十三表	關東州國有財産高	一六二
第十四表	年次別關東州阿片小売特許人及吸煙者	一六二
第十五表	在滿教務部管下學校一覽表	一六三
第十六表	在滿教務部管下教育費一覽表	一六四
第十七表	關東州內學校一覽表	一六四
第十八表	主要工業品產額表	一六五
第十九表	綿織絲日本向供給量	一六六
第二十表	關東州生産麻袋対日供給價格	一六六
第二十一表	年次別地方別豆粕生産高	一六六
第二十二表	年次別仕向地別豆粕輸出高	一六七
第二十三表	年次仕向地別豆油輸出高	一六七
第二十四表	硬化油生産高	一六七
第二十五表	滿洲化学年度別生産実績表	一六八
第二十六表	滿洲化学年度別販売実績表	一六九
第二十七表	年次別板硝子生産高	一七〇
第二十八表	年次別販路別板硝子販売高	一七〇

第二十九表	年次別地方別硝子器生産高	一七〇
第三十表	穀類作付段別及收穫高	一七一
第三十一表	蔬菜作付反別及收穫高	一七二
第三十二表	落花生作付反別收穫高	一七三
第三十三表	棉花作付反別及收穫高	一七三
第三十四表	果樹作付反別及收穫高	一七三
第三十五表	關東州内家畜、家禽現在数	一七四
第三十六表	關東州林野面積	一七四
第三十七表	一九四二年關東州塩需給表	一七五
第三十八表	一九四三年關東州塩需給表	一七五
第三十九表	一九四四年關東州塩需給表	一七五
第四十表	一九四五年關東州塩需給表	一七六
第四十一表	自一九〇六年至一九三五年各年次別塩田面積並に産塩高	一七六
第四十二表	一九三六年以降五ケ年間に於ける日本塩需給表	一七七
第四十三表	臭素、塩化マグネシウム及加里塩生産高	一七八
第四十四表	民族別漁獲高	一七八
第四十五表	漁業従事人員	一七九
第四十六表	漁船及漁具	一七九
第四十七表	關東州鉾産額表	一七九
第四十八表	關東州海路貿易額	一八〇
第四十九表	關東州陸路貿易額	一八一
第五十表	關東州海路再輸出額	一八一

第五十一表	關東州一九三八年中主要相手國別海路貿易……………	一八二
第五十二表	關東州一九三八年海路重要輸入品目……………	一八三
第五十三表	關東州一九三八年海路重要輸出品目……………	一八四
第五十四表	橫濱正金銀行銀円券各年末發行殘高表……………	一八五
第五十五表	朝鮮銀行券總發行高並に地域別流通推定量年次別表……………	一八五
第五十六表	滿洲中央銀行券總發行高、關東州內回收高、同流通推定額年次別表……………	一八六
第五十七表	橫濱正金銀行大連支店預金貸出科目別表……………	一八七
第五十八表	朝鮮銀行大連支店預金貸出科目別表……………	一八八
第五十九表	一九三八——一九四五年內地側出張所銀行預金貸出各行別年次表……………	一八九
第六十表	一九三八——一九四五年支那側銀行預金貸出各行別年次表……………	一九一
第六十一表	在關東州滿洲系支店銀行預金貸出年次表……………	一九二
第六十二表	關東州內金融組合及全聯合會年別業績表……………	一九三
第六十三表	關東州內三無盡会社總合業績表……………	一九四
第六十四表	一九四一——一九四三年大連組合銀行預金老國別內訳表……………	一九四
第六十五表	一九四三年十二月現在關東州金融機關別一般預金人種別內訳表……………	一九四
第六十六表	過去十ヶ年間關東州內金融機關別預金貸出年次總合表……………	一九五
第六十七表	過去十ヶ年間大連手形交換所組合銀行預金貸出勘定科目表……………	一九六
第六十八表	一九四五年六月末に於ける大連各銀行國籍別資金狀況……………	一九七
第六十九表	一九四三年六月末現在大連手形交換所組合銀行諸勘定報……………	一九八
第七十表	銀行預金貸出國籍別担保別用途別表……………	一九九
第七十一表	大連手形交換所交換高表……………	二〇〇
第七十二表	關東州內生命保險業者取扱高累年表……………	二〇一

第七十三表	關東州内外損害保險業者取扱高累年表	二〇二
第七十四表	大連卸売物價指數表	二〇三
第七十五表	大連一ヶ年平均貨銀表	二〇四
第七十六表	大連港出入支那人労働者年次表	二〇五
第七十七表	錢莊爲替受拂地方別表	二〇六
第七十八表	錢莊爲替受拂錢莊別表	二〇六
第七十九表	日本向銀行別爲替受拂表	二〇七
第八十表	關東州内金融機關爲替受拂地方別表	二〇八
第八十一表	銀行に於ける外國人通貨及爲替売買高表	二〇八
第八十二表	大連救療所成績	二〇九
第八十三表	關東州道路延長數	二〇九
第八十四表	關東州橋梁數及延長數	二〇九

通卷第二十六冊 北支篇

華北日系事業概観

第一章	華北經濟の基礎條件	一
-----	-----------	---

第一節	華北經濟の自然的條件	一
-----	------------	---

A、一般的自然條件	一
-----------	---

一、地	一
-----	---

二、地	形	二
三、地	質	三
四、河	川	三
五、氣	候	四
B、各種事業上より見たる自然條件		五
(1) 交通上より見たる自然條件		五
一、平坦交通路		五
二、内河水運		五
三、鉄道の発達		六
四、水害の不利		七
五、遠距離輸送		八
(2) 鉱工業より見たる自然的條件		九
一、金属資源		九
二、非金属資源		九
(3) 農業上より見たる自然的條件		一二
第二節 華北經濟の社会的条件		一四
第三節 華北に於ける經濟政策の動向		一六
A、鉱山事業上		一六
B、鉄鋼業關係上		一七
C、交通關係上		一八
一、自然に成れる交通系（南北交道路）		一八

二、日華事変による交通系（東西交通路）	一八
（1）京山線の重用——（2）同塘線計画——（3）石德線の建設——（4）連雲開港	
三、太平洋戦争による交通系（南北交通路）	二〇

第二章 華北日系事業の生成過程

第一節 日華事変勃発迄

一、滿洲事変前後の傾向	二二
二、日華事変直前の情況	二二
三、業種別工業概況	二七
四、北支経済開発の機運と滿鉄の活動	三三
五、興中公司初期の事業	三六

第二節 日華事変勃発より太平洋戦争勃発迄

一、日華事変に依る日系事業の被害と復興	三七
二、復興と経済合作方策	三八
三、北支那開発株式会社の使命と構成	四一
四、北支那開発会社関係事業の概況	四四
（1）交通運輸港灣事業——（2）電気通信事業——（3）發送配電事業——（4）石炭事業——（5）鉄鋼及製鉄業——（6）礬土頁岩採掘業——（7）塩及其の利用工業——（8）カーバイト——（9）山西省産業の建設——（10）棉花	
五、蒙疆経済の開発	五〇

第三節 太平洋戦争勃発より終戦迄

一、本時期に於ける特徴	五二
二、産業活動	五三
三、会社別生産能力及実績調	五六

第三章 華北に於ける各國事業と日系事業の概況

(一) 列國共通の權益	九三
(イ) 交通維持權——(ロ) 國內航行權——(ハ) 白河工事管理權——(ニ) 居留地設定權	九三
(二) 共通ならざる權益	九五
(イ) 借款——(ロ) 鉱山採掘權——(ハ) 直接事業投資	九五
(三) 各國別の事業投資狀況	九九
1、英國——2、米 國——3、佛 國——4、独 逸——5、伊太利——6、白耳義——7、日 本	九九

第四章 終戦と日系事業の接收狀況

第一節 華側の接收方針

一、接收の系統	一〇八
二、敵産処理の原則	一〇九
三、接收事業に対する民間競売の方法	一一〇

第二節 接收事業

一、接收機關	一一一
二、接收機關と地域との關係	一一三
三、接收の狀況	一一三

第三節 接收前後の状況	一一四
-------------	-----

(イ) 終戦直後に於ける状況	一一四
----------------	-----

(ロ) 接收後の状況	一一五
------------	-----

(ハ) 日人技術員の留用	一一六
--------------	-----

北支事業体接收状況調	一三六
------------	-----

第五章 華北日系事業の中國經濟に対する關係	二一一
-----------------------	-----

第一節 華北民族産業と日系事業との關係	二一一
---------------------	-----

一、北支の民族産業の一瞥	二一一
--------------	-----

二、北支の民族産業に対する日系事業の地位	二二三
----------------------	-----

三、日系紡績業の地位	二二三
------------	-----

第二節 日本並に華北の經濟計画	二一五
-----------------	-----

一、軍管理形態より綜合計画形態へ	二一五
------------------	-----

二、第二次五ヶ年計画の設定と北支の地位	二一六
---------------------	-----

三、第二次五ヶ年計画案の華北産業に対する影響度	二一七
-------------------------	-----

第三節 終戦前の華北産業の展望	二一九
-----------------	-----

第四節 華北日系事業の企業形態及び其の運用	二二一
-----------------------	-----

一、時期的觀測	二二一
---------	-----

二、日華事変中の中日合併時代	二二二
----------------	-----

三、民族産業尊重時期	二二三
------------	-----

四、事業管理上の貢献	二二四
------------	-----

第六章 華北日系事業の平和的性格	二二五
------------------	-----

第一節 平和的性格の原由	二二五
--------------	-----

第二節 平和的貢献の实例	二二六
--------------	-----

A、交通事業上（華北交通股份有限公司）	二二六
---------------------	-----

(一) 平和的事業上の民生的貢献	二二六
------------------	-----

一、運賃——二、サービス——三、民生愛路工作	二二六
------------------------	-----

(二) 資源開発事業上の民生的貢献	二二六
-------------------	-----

一、新線の建設——二、運賃プール制	二二六
-------------------	-----

B、鉦山事業上（山東鉦業株式会社及各炭鉦）	二四〇
-----------------------	-----

附表

第一表 華北水害件数	八
第二表 北支石炭埋藏量	一〇
第三表 北支鉄鉦埋藏量	一一
第四表 石炭輸送数量表	一六
第五表 日華事変直前の天津及青島両都市に於ける列國商社数	二三
第六表 日本対北支貿易表	二四
第七表 業種別日系工業概況	二七
第八表 北支借款建設鉄道表	九五
第九表 日華両紡績業の比較	二一四

第十表	日華事変前後の鉱工業の資本別構成……………	二一六
第十一表	第二次五ヶ年計画案の華北産業部分の実現程度……………	二一八
第十二表	華北交通会社屯当三〇〇秆運賃額変遷表……………	二二七
第十三表	華北交通会社車輛増備数……………	二三〇
第十四表	列車回数比較表……………	二三二
第十五表	營業貨物主要品目別輸送数……………	二二三
第十六表	特定資源開發鉄道建設線表……………	二三七

通卷第二十七冊 中南支篇 第一分冊

最近五十年日華經濟關係の史的考察

第一部	列國の對華經濟進出とその法的諸條件……………	一
第一章	列國の對華經濟進出と中國の近代化……………	一
第一節	世界資本主義の中國への進出……………	一
	英、印、華間の三角貿易——米華貿易——阿片貿易——阿片戰爭——中國の先進資本主義列國による半殖民地化……………	一
第二節	對華經濟進出を繞る例國の爭霸戰……………	四
	列國の對華利權爭奪戰——列國の事業投資——列國特に日本の對華進出の歴史……………	四
第三節	中國に於ける資本主義の發展と政治經濟的建設……………	一五

中國に於ける近代的産業化——中國の民族紡績業と日本の在華紡績業の対立と排日的民族運動の展開——國民政府の國內統一所謂「建設による統一」——農業建設——工業建設——國民政府の經濟建設の軍事的性格——國民政府指導下の排日民族運動

第四節 不平等條約廢棄運動と其の成果……………二〇

中國の近代化の爲の經濟社會の近代化と不平等條約の廢棄運動——孫文の民族主義思想——不平等條約廢棄運動の積極化と其の成功

第二章 中國に於ける不平等條約締結の歴史と列國對華經濟進出の法的諸條件……………二七

南京條約とそれに連る諸外國との一聯の不平等條約……………二七

天津條約と北京條約を中心とする一聯の不平等條約……………二八

- (一) 領事裁判權——(二) 租界——(三) 軍艦の航行停泊權——(四) 海關稅務管理權——(五) 關稅協定權——(六) 沿岸貿易權及び内河航行權

日清戰爭以後義和團事件に至るまでの不平等條約……………三一

- (一) 勢力範圍、租借地、鐵道敷設權、鐵道附屬地、鉅山探掘權——(二) 租界——(三) 外國軍隊駐屯權——(四) 郵政傭員任用權及び外國郵便局——(五) 在華工業權

義和團事件解決の辛丑和約以後の不平等條約……………三四

- (一) 公使館區域——(二) 外國軍隊駐屯權——(三) 日本の勢力範圍——(四) 租界——(五) 海關稅務管理權——(六) 關稅協定權——(七) 關稅支配權——(八) 内河整理、外國水先案内人使用、燈塔浮標建造

等の權

清末民國の不平等條約……………三八

列國對華經濟進出の法的諸條件……………四二

第二部 我が対華經濟活動と在華投資……………四四

第一章 総論……………四四

第一節 我が対華經濟活動の沿革……………四四

一、日清戦争より欧洲大戰前まで……………四四

日清戦争の劃期的意義——日清戦争の結果としての対華經濟進出——進出商社構成の特徴（爲替銀行——船会社——貿易商社——在華製造業——借款供與）

二、欧洲大戰より滿洲事変前まで……………五四

欧洲大戰を契機とする日本經濟の變化——対華經濟活動の躍進と日華の衝突（金融面——航運面——貿易面——工業面——借款面）

三、滿洲事変より太平洋戦争終結まで……………六七

滿洲事変、日華事変、太平洋戦争に照應する三つの時期——在華經濟活動の活潑化（通貨金融面——運航面——貿易面——工業面——借款面）

第二節 在外日本人の増加並にその性格と在華日本居留民の増加……………八二

一、在外居留民の増加……………八二

二、在外居留民と在華居留民……………八五

三、在華居留民の質的構成……………八八

四、在華居留民の地域的分布……………九五

第三節 我が在華投資の史的鳥瞰……………九九

一、一九一四年に於ける我が在華投資……………九九

二、一九三〇年に於ける我が在華投資……………	一〇二
三、一九三六年及び一九三八年に於ける我が在華投資……………	一〇五
四、一九四五年（終戦時）に於ける在華財産……………	一八

第二章 金融業に於ける活動及び投資…………… 一二一

第一節 銀行業…………… 一二一

十九世紀末までの我が銀行業の対華進出……………	一二一
日清戦争以後日華事变前までの我が銀行業の対華進出……………	一二三
（一）在華銀行業の外國爲替取扱高……………	一二五
（二）横浜正金銀行の兌換券発行……………	一二七
（三）特殊銀行を通ずる対華借款供與……………	一二九
（四）在華銀行の預金額及び貸出額……………	一三二
（五）我が銀行業の在華投資……………	一三四

第二節 其他の金融業…………… 一三六

（一）雑金融業……………	一三六
（二）保 險 業……………	一三七
（三）爲替ブローカー、錢莊及び両替……………	一三八
（四）質 屋……………	一三九

第三節 投資業…………… 一四〇

「特殊」投資機関……………	一四〇
---------------	-----

各種投資機関の対華借款供與……………	一四一
各種投資機関の直接事業投資……………	一四八

第四節 中支那振興株式会社……………一四九

一、中支那振興株式会社の設立と事業概況……………	一四九
二、関係会社の設立と事業概況……………	一五八
(1) 華中鉍業股份有限公司……………	一五九
(2) 華中水電股份有限公司……………	一六二
(3) 上海内河輪船股份有限公司……………	一六七
(4) 華中電氣通信股份有限公司……………	一七〇
(5) 上海恒産股份有限公司……………	一七一
(6) 中華蚕絲股份有限公司……………	一七二
(7) 上海都市交通股份有限公司……………	一七四
(8) 華中水産股份有限公司……………	一七五
(9) 大上海瓦斯股份有限公司……………	一七八
(10) 華中鉄道股份有限公司……………	一八〇
(11) 淮南煤礦股份有限公司……………	一八二
(12) 中央化学工業股份有限公司……………	一八四
(13) 中華輪船股份有限公司……………	一八六
(14) 華中運輸股份有限公司……………	一八八
(15) 華中火柴股份有限公司……………	一九〇
(16) 柳泉炭礦股份有限公司……………	一九二

(17) 振興住宅組合……………	一九二
(18) 振興生計組合……………	一九二

第三章 航運業に於ける活動と投資……………	一九三
-----------------------	-----

第一節 中国に於ける日本船舶業の発展……………	一九三
-------------------------	-----

日清戦争を契機とする対華航運業の発展……………	一九四
-------------------------	-----

日露戦争による日本海運業の発達……………	一九六
----------------------	-----

第一次世界戦争による日本海運業の躍進と中国の对外贸易に於ける日本船の比重……………	一九七
---	-----

満洲事变以降中国の外洋航路及び沿岸内河航路に於ける日英米華四國の勢力関係……………	一九九
---	-----

日華事变による対華航運業の飛躍……………	二〇一
----------------------	-----

第二次世界大戦以後……………	二〇三
----------------	-----

第二節 日本の対華航運業投資……………	二〇四
---------------------	-----

第四章 日華貿易の史的概観……………	二〇九
--------------------	-----

一、日本と中国との貿易関係……………	二〇九
--------------------	-----

二、輸出入総額の累年考察……………	二〇九
-------------------	-----

三、地域別中国貿易の特徴……………	二一九
-------------------	-----

四、日華貿易の商品構成……………	二二九
------------------	-----

第五章 工業及び鉱業に於ける活動と投資……………	二六三
--------------------------	-----

第一節 紡績業……………	二六三
--------------	-----

一、在華紡発展の由來……………	二六三
-----------------	-----

イ、在華紡發展の動機——ロ、在華紡發展の主たる理由	二六四
二、在華紡發展経路	二七三
イ、創設期——ロ、発展期——ハ、整理期	二七三
三、在華紡各社概況	二八六
内外綿株式会社——大日本紡績株式会社——上海紡績株式会社——鐘淵公大実業株式会社——裕豊紡績株式会社——日華紡績株式会社——豊田紡績株式会社——明豊紡績株式会社——同興紡績株式会社——泰安紡績株式会社——富士紡績株式会社——倉敷紡績株式会社——日清紡績株式会社——株式会社天津紡績公司——雙喜紡績株式會社	二八九
四、在華紡の経営組織	二九三
五、在華紡の投下資本	二九六
六、在華紡發展が中國經濟に寄與せる利益	三〇九
七、結語	三〇九
第二節 對華雜纖維工業投資	三一〇
一、沿革	三一〇
1、毛織業——2、製絲業——3、製麻業	三一〇
二、投資狀況	三一〇
1、毛織業——2、製絲業——3、製麻業	三一〇
三、結語	三一〇
第三節 其他の工業	三一二
一、沿革	三一二

(イ) 日清戦争後義和團事件まで——(ロ) 義和團事件後歐洲大戰まで——(ハ) 歐洲大戰後滿洲事変まで	
——(ニ) 滿洲事変後日華事変まで	
二、日華事変前後の投資状況	三一九
(イ) 昭和十一年度の現状 (1) 直接事業投資——(2) 合辦事業投資——(3) 中國人企業への貸付	
(ロ) 昭和十三年度の現状 (1) 直接事業投資——(2) 合辦事業投資——(3) 中國人企業への貸付	
三、結 語	三二一

第四節 鉦 業

一、日本の鉦業投資の沿革	三三五
列國及び日本の對華鉦業投資 (イ、第一期——ロ、第二期——ハ、第三期)——日本の對華鉦業投資の投資形態 (1) 合辦鉦業投資——(2) 直接鉦業投資——(3) 借款形態による鉦業投資——(4) 各企業の活動状況	
二、一九三七年以來の鉦業投資	三四九
(1) 合辦鉦業投資 (1、國策会社の鉦業投資——2、一般合辦鉦業投資——3、各企業の活動狀態)——(2) 直接鉦業投資——(3) 軍管理關係鉦業投資	
三、結 語	三五五

附 表

第一表 日清戦争後の我が對華貿易の發展	四六
第二表 Japanese in China, 1897—1913	四八
第三表 日清戦争至滿洲事変我が對關東州、中華民國、香港貿易の發展	五六
第四表 滿洲事変下の對華貿易	六八

第五表	事変及戦争下貿易の変遷……………	六九
第六表	海外在留邦人々口累年統計……………	八三
第七表	中國大陸在留邦人々口累年統計……………	八四
第八表	海外在留総人口の職業別増加指数……………	八六
第九表	中國大陸在留民の職業別増加指数……………	八七
第十表	職業別に見た中國大陸在留民の海外在留民総数に占める比重……………	八八
第十一表	海外在留人口総数の職業構成の累年的変化……………	八九
第十二表	中國大陸在留民の職業構成の累年的変化……………	八九
第十三表	職業別地域別中國大陸居留民の累年統計……………	九一
第十四表	上海在留邦人職業別人口表……………	九四
第十五表	中國大陸居留民の地域的分布……………	九五
第十六表	中國本部在留日本内地人口統計……………	九六
第十七表	華中主要地区在留邦人口表……………	九八
第十八表	一九四五年四月一日現地調華中主要地区在留邦人口……………	九八
第十九表	中國より引揚の邦人人口及在留邦人口……………	九八
第二十表	Japanese Investments in China, 1914……………	一〇〇
第二十一表	Japanese Direct Business Investments in China, 1914……………	一〇一
第二十二表	Japanese Investments in Chinese Corporations, 1914……………	一〇一
第二十三表	Japanese Investments in China, 1930……………	一〇二
第二十四表	Japanese Direct Business Investments in China, 1930……………	一〇三
第二十五表	Japanese Investments in Chinese Corporations, 1930……………	一〇四
第二十六表	Japanese Holdings of the Obligations of the Chinese Government as of December 31, 1930……………	一〇四

第二十七表	日本の對華投資の総額（一九三六年末及一九三八年末）	一〇五
第二十八表	日本の對華經濟投資の形態別業種別綜合表（一九三六年末現在）	一〇七
第二十九表	日本の對華經濟投資の形態別業種別綜合表（一九三八年末現在）	一〇九
第三十表	日本の對華經濟投資の地域別業種別綜合表（一九三六年末現在）	一一二
第三十一表	日本の對華經濟投資の地域別業種別綜合表（一九三八年末現在）	一一四
第三十二表	民間実業借款の元金及延滞利子（一九三六年末及一九三八年末）	一一六
第三十三表	政府借款其の他の元金及延滞利子（一九三六年末及一九三八年末）	一一七
第三十四表	終戦時の在華財産	一一九
第三十五表	在華日本銀行業本支店数	一二三
第三十六表	在華日本銀行業の地域的分布	一二四
第三十七表	上海宛爲替及倫敦銀塊相場表	一二六
第三十八表	横浜正金銀行銀券發行現在高表	一二八
第三十九表	本邦銀行對華借款未償還額及延滞利子額（一九三六年末現在）	一三〇
第四十表	本邦銀行在華預金高及貸付高	一三二
第四十一表	在華主要八行支店借方貸方勘定合計表（一九三六年末及一九三八年末）	一三三
第四十二表	Japanese Investments in Banking and Finance, 1914 & 1930	一三五
第四十三表	日本の對華銀行業投資額（一九三六年末及一九三八年末）	一三五
第四十四表	在華本邦雜金融業拂込資本金及投資額（一九三六年末及一九三八年末）	一三六
第四十五表	在華本邦損害保險会社年末現在契約高（一九三六年末及一九三八年末）	一三七
第四十六表	在華本邦生命保險会社年末現在契約高（一九三六年末及一九三八年末）	一三八
第四十七表	爲替仲立、錢莊業の軒数及投資額（一九三六年末及一九三八年末）	一三八
第四十八表	小口金銭貸付業の都市別軒数及投資額（一九三六年末及一九三八年末）	一三九

第四十九表	本邦投資機關對華借款未償額及延滯利子額（一九三六年末現在）	一四二
第五十表	本邦投資機關の直接事業投資（一九三六年末現在）	一四八
第五十一表	中支那振興關係会社及組合拂込資本構成	一五一
第五十二表	中支那振興会社關係会社への融資並に貸付金年度末残高	一五二
第五十三表	中支那振興会社社債發行高	一五三
第五十四表	終戦時に於ける振興会社及關係会社を通じての日本の投資融資及物資注入額	一五四
第五十五表	美光燐寸公司生産販売數量及販売價額	一五六
第五十六表	中支那振興会社及關係会社の管理又は委託軍管理企業數	一五八
第五十七表	華中鋁業各鋁石採鋁量	一六二
第五十八表	華中水電運營狀況並に設備能力（一九四五年九月末現在）	一六五
第五十九表	上海内河汽船貨客數量及收入	一六九
第六十表	華中水産所有漁船、運搬船隻數及総噸數	一七六
第六十一表	華中水産の各期水揚高及金額	一七七
第六十二表	製氷及冷凍、冷蔵各工場的能力	一七七
第六十三表	大上海瓦斯工場の機械設備と能力	一七九
第六十四表	大上海瓦斯の各期に於ける生産物販売狀況	一七九
第六十五表	旧上海瓦斯会社生産物販売狀況	一八〇
第六十六表	淮南煤礦会社の各期出炭、売炭、貯炭數量	一八三
第六十七表	中央化学工業公司副産物製造狀況	一八五
第六十八表	中華輪船会社の各期に於ける貨客輸送量及收入	一八七
第六十九表	華中運輸会社の貨物取扱數量	一九〇
第七十表	華中火柴会社の製産実績	一九一

第七十一表	清國開港場、香港、韓國における日本船舶の地位……………	一九五
第七十二表	對外貿易貨物運搬の日本船舶の地位……………	一九六
第七十三表	日本船による貿易額と入港噸数百分比……………	一九七
第七十四表	總噸数一、〇〇〇噸以上の汽船の船腹増加……………	一九七
第七十五表	中國の對外貿易に占める日、英、米三國の比重……………	一九九
第七十六表	中國の外洋航路、沿岸、内河航路に於ける日、英、米、華四國の勢力關係……………	二〇〇
第七十七表	日本對華航路配船狀況（一九三二年）……………	二〇一
第七十八表	上海出入港船舶に現はれた日華事變の影響……………	二〇二
第七十九表	日本海運發達趨勢……………	二〇三
第八十表	日本の對華航運業投資（一九三六年末）……………	二〇五
第八十一表	日本の對華航運業投資（一九三八年末）……………	二〇六
第八十二表	貿易總額及對中國貿易の發展傾向指數……………	二一〇
第八十三表	對中國貿易の比重の累年の考察……………	二一四
第八十四表	地域別輸出總計表……………	二一九
第八十五表	地域別輸入總計表……………	二二一
第八十六表	中國本土及滿洲の外國貿易額の消長比較……………	二二四
第八十七表	全滿貿易主要國別比重表……………	二二五
第八十八表	日本の輸出總額に對する對滿洲輸出の比重……………	二二六
第八十九表	日本の輸入總額に對する對滿洲よりの輸入の比重……………	二二六
第九十表	一九三六年日本の對中國大陸貿易……………	二二七
第九十一表	一九三六年中國本土の對外國別貿易……………	二二八
第九十二表	品目別輸出入統計（一） 關東洲よりの輸入……………	二二九

第九十三表	同	(2)	滿洲よりの輸入	二二二
第九十四表	同	(3)	中國よりの輸入	二二三
第九十五表	同	(4)	香港よりの輸入	二二三
第九十六表	同	(5)	關東洲への輸出	二三四
第九十七表	同	(6)	中國への輸出	二三六
第九十八表	同	(7)	滿洲への輸出	二三七
第九十九表	同	(8)	香港への輸出	二三八
第百表	日本輸出貿易の商品類別構成の累年の考察			二四〇
第百一表	日本輸入貿易の商品類別構成			二四〇
第百二表	一九三六年に於ける日本の商品別對中國依存率			二四二
第百三表	石炭輸入			二四四
第百四表	鉄、鉄鋳輸入			二四五
第百五表	鉄、鉄輸入			二四七
第百六表	棉花輸入			二四九
第百七表	塩輸入			二五一
第百八表	印刷用紙輸出			二五三
第百九表	板紙輸出			二五五
第百十表	機械類輸出			二五七
第百十一表	石炭輸出			二五八
第百十二表	綿製品輸出			二五九
第百十三表	鐵道枕木輸出			二六一
第百十四表	在華紡設備			二六八

第百十五表	在華紡地区別会社名、創立年月日……………	二六八
第百十六表	在華紡が委任経営し後返還せる中國紡績……………	二七二
第百十七表	内外綿終戦直前の設備……………	二七四
第百十八表	大日本紡終戦直前の設備……………	二七五
第百十九表	上海紡終戦直前の設備……………	二七七
第百二十表	鐘淵公大紡終戦直前の設備……………	二七八
第百二十一表	裕豊紡終戦直前の設備……………	二七九
第百二十二表	日華紡終戦直前の設備……………	二八〇
第百二十三表	豊田紡終戦直前の設備……………	二八一
第百二十四表	同興紡終戦直前の設備……………	二八二
第百二十五表	富士紡終戦直前の設備……………	二八四
第百二十六表	倉敷紡終戦直前の設備……………	二八四
第百二十七表	日清紡終戦直前の設備……………	二八五
第百二十八表	天津紡終戦直前の設備……………	二八六
第百二十九表	雙喜紡終戦直前の設備……………	二八六
第百三十表	在華紡の経営内容……………	二八八
第百三十一表	在華紡の投下資本と錘当り評價……………	二九一
第百三十二表	在華紡資産と合併工場日本側資産……………	二九二
第百三十三表	世界の紡績錘数と各國の比率……………	二九三
第百三十四表	在華紡が中國政府及中國民に及ぼせる利益……………	二九五
第百三十五表	中國に於ける各國紡績増錘の経路……………	二九八
第百三十六表	日華事変前在華日本紡績各社設備表……………	三〇〇

第三百三十七表	日華事変による在華紡績喪失並に復興設備表……………	三〇二
第三百三十八表	日華事変後の復興完成後に於ける在華日本紡績各社設備表……………	三〇四
第三百三十九表	終戦時在華日本紡績各社設備表……………	三〇六
第三百四十表	終戦時中日合弁紡績設備表……………	三〇八
第三百四十一表	華北に於ける毛織工業……………	三〇九
第三百四十二表	終戦直後上海に於ける繊維工業商社数並に資本額……………	三一
第三百四十三表	一九〇〇——一九一三年間に中國に於て設立せられた日本の雜工業商社数……………	三一四
第三百四十四表	一九一四年現在中國に於ける雜工業投資……………	三一四
第三百四十五表	一九一三——一九三〇年間に中國に於て設立せられた日本の雜工業商社数……………	三一五
第三百四十六表	一九二八——一九三〇年代の日本の對華製造業投資に関する統計……………	三一七
第三百四十七表	在華日本の雜工業商社平均投資額（一社当り）……………	三二〇
第三百四十八表	在華日本の雜工業商社組織別表……………	三二〇
第三百四十九表	在華日本の雜工業商社本拠別表……………	三二一
第三百五十表	一九三六年現在日本の對華雜工業直接事業投資……………	三二二
第三百五十一表	一九三六年現在日本の對華雜工業合辦事業投資……………	三二七
第三百五十二表	日華合辦雜工業投資割合……………	三二七
第三百五十三表	日華合辦雜工業地域別投資割合……………	三二七
第三百五十四表	地域別企業数並に投資表……………	三三〇
第三百五十五表	一九三一年に於ける列國の對華雜工業投資……………	三三二
第三百五十六表	終戦時上海に於ける日本の工業投資表……………	三三四
第三百五十七表	年次別對華鉦業投資……………	三三七
第三百五十八表	炭鉦業投資……………	三四一

第百五十九表	一九三六年末對華合弁鉅業投資表	三四二
第百六十表	一九三六年對華鉅業直接投資表	三四三
第百六十一表	借款形態による對華鉅業投資	三四四
第百六十二表	一九三六年末現在鉄鉅契約高	三四六
第百六十三表	同 石炭契約高	三四七
第百六十四表	同 鉛、磷鉍、滿俺、アンチモニー等契約高	三四七
第百六十五表	一九三一—一九三四年華中各炭礦採掘量	三四八
第百六十六表	國策会社關係鉅業投資一覽表	三五〇
第百六十七表	一九三八年末日華合弁鉅業投資表	三五一
第百六十八表	一九三八年末直接鉅業投資表	三五二
第百六十九表	一九三八年末軍管理關係炭礦投資表	三五三
第百七十表	軍管理關係鉄鉅業投資表	三五四

通卷第二十八冊 中南支篇 第二分冊

第三部 對華借款と對華文化事業

第一章 政府及び自治体の在華財産

第一節 政府の對華借款

政府自身の對華借款——北清事變團匪賠償金——膠濟鉄道國庫証券と青島公有財産及び製塩業補償日金國庫証券

第二節 在華固有財産……………	七
在華中及び華南日本公館——一九三七年末現在在華固有財産——終戰時現在在華中國固有財産	
第三節 在華自治体財産……………	一〇
在華中及華南日本居留民團及び民會——一九三六年末現在在華自治体財産——終戰時現在在華中自治体財産	
第二章 日本の對華文化事業……………	一三
第一節 對華文化事業の沿革……………	一三
第二節 對華文化事業特別會計法の施行……………	一六
對華文化事業特別會計の財源——歳入及び歳出の狀況	
第三節 布教事業の概要……………	二〇
第四節 教育事業の概要……………	二五
(一) 東亞同文會の教育事業……………	二五
(二) 在留日本人の爲の教育事業……………	二八
(1) 各地居留民團及び民會の教育事業——(2) 台灣籍民教育事業	
(三) 日本語學校……………	三二
(四) 教會教育事業……………	三二
(1) 基督教關係——(2) 佛教關係——(3) 神道關係	
(五) 其の他……………	三四
第五節 医療事業の概要……………	三四

概 説……………三四

(一) 同仁会の医療事業……………三六

(1) 同仁会在華四医院の事業——(2) 日華事変後の各地診療班、防疫班の活動

(二) 博愛会の医療事業……………四三

(三) その他の医療事業……………四六

第六節 研究調査、産業改進其他文化施設事業の概要……………四七

(一) 研究調査機関……………四七

(1) 東方文化事業総委員会の事業(イ、上海自然科学研究所——ロ、北京人文科学研究所)——(2) 南

満洲鉄道株式会社の調査事業(イ、北支経済調査所——ロ、満鉄上海事務所)——(3) 其他

(二) 産業改進機関……………四九

華北産業科学研究所——華北棉産改進会——華中棉産改進会——山東産業館

(三) 図 書 館……………五〇

北京日本近代科学図書館——上海日本近代科学図書館——天津日本図書館

(四) 文 化 団 体……………五一

東方文化事業総委員会——東亞文化協議会——中支建設資料整備委員会——國際觀光局在支支局

第七節 結 論……………五三

第四部 補 遺……………五七

第一章 華 南……………五九

第一節 一八九五年日清戦争による台湾の領有より日華事変直前迄……………五九

華南及び南洋方面に対する基地としての台湾	六〇
華南に対する邦人進出	六〇
華南に対する邦人企業	六一
(イ) 福州地方——(ロ) 汕頭地方——(ハ) 廣東地方(ニ) 厦門地方	
華南に対する日本の貿易面	六三
華南に対する日本の金融面	六五
華南に対する日本の海運面	六七
第二節 一九二七年日華事変勃発より太平洋戦争終結迄	七一
対華南経済工作特に金融対策	七一
華南に対する邦人進出	七二
華南に対する邦人企業	七四
華南に対する日本の海運及び貿易面	七七
結語	七九

第二章 香 港

第一節 英国の対華進出史上に於ける香港の地位	八四
一、改隸以前の英華関係	八四
二、英國資本の蓄積期(一八四一——一八六〇年)	八七
——香港植民地の創設——	
三、英國資本の組織化(一八六〇——一九二〇年)	九一
——香港經濟の確立——	

四、香港經濟の衰退期……………	九五
——一九二〇年より日華事變まで——	
五、嵐の中の香港……………	九七
——日華事變より現在に至る——	
第二節 日華經濟關係と香港……………	一〇〇
——日香貿易を中心として——	
第三節 日本の對香港投資……………	一〇七
一、沿革……………	一〇七
二、日華事變前の狀況概要……………	一一五
(一) 商社關係——(二) 日本の香港投資評價——(三) 邦人商社の取引高	
第七十一表 政府の對華借款額、未償還額及び延滞利子額(一九三六年末)……………	四
第七十二表 在華中日本公館名と開設年月日……………	七
第七十三表 在華國有財産(一九三七年末)……………	九
第七十四表 在華中日本居留民團及び民會と設立年月日……………	一〇
第七十五表 在華民團財産總額(一九三六年末)……………	一一
第七十六表 團匪賠償金四分利付國庫債券元利(一九二三——一九三七年)……………	一七
第七十七表 膠濟鐵道國庫証券利子(一九二三——一九三七年)……………	一七
第七十八表 青島公有財産製鹽業補償金國庫証券元利(一九二三——一九二五年)……………	一七
第七十九表 對華文化事業特別會計歲出狀況……………	一八

第一百八十表	同上中在華事業への支出費……………	一九
第一百八十一表	對華布教事業の經費……………	二三
第一百八十二表	東亞同文会在華三學校教員、學生數……………	二七
第一百八十三表	東亞同文会在華三學校經費……………	二七
第一百八十四表	東亞同文会在華三學校財產額（一九三六年）……………	二七
第一百八十五表	在華初等中等學校の概況……………	二九
第一百八十六表	華南に於ける各學校の教員、學生數及び經費……………	三〇
第一百八十七表	同仁会の職員數及び取扱患者數……………	三七
第一百八十八表	同仁会在華四醫院治療患者數……………	三八
第一百八十九表	同仁会各地防疫施療事業……………	四一
第一百九十表	博愛会四醫院職員及び患者數……………	四四
第一百九十一表	日本の對華文化事業機關及び施設の數……………	五三
第一百九十二表	對華文化事業一般會計補助費概況……………	五五
第一百九十三表	華南航路使用船舶……………	六六
第一百九十四表	華南航路各線船客及び貨物數……………	六七
第一百九十五表	華南航路寄港地及び使用船舶（一九二五年）……………	六八
第一百九十六表	同（日華事變前）……………	六八
第一百九十七表	華南航路線名、船客及び貨物數……………	六九
第一百九十八表	華南に於ける内、鮮、台人人口……………	七三
第一百九十九表	華南に於ける製造工業及び商社名……………	七五
第二百表	台灣の對華南貿易輸出品價額仕向地別表……………	八〇
第二百一表	輸入品價額仕出地別表……………	八二

第二百二表	カルカッタ及びボンベーよりの阿片對華輸入……………	八八
第二百三表	英國の對華貿易概觀表……………	八八
第二百四表	太平洋戰前十年の日香貿易……………	一〇一
第二百五表	香港糸及び織物輸入相手國別計數……………	一〇二
第二百六表	日香貿易商品別表……………	一〇二
第二百七表	一九三六年末在香港邦人商社等及び設立年月……………	一〇八
第二百八表	同 年代別設立數……………	一二
第二百九表	在香港日本商社業種別調查表（一九三六年末現在）……………	一七
第二百十表	本店在香港日本人商社源泉別資本構成（一九三八年末現在）……………	一七
第二百十一表	同 運用態別資本構成（一九三四—一九三八年）……………	一八
第二百十二表	香港日本人商社業種別資產運營（一九三四—一九三八年）……………	一九
第二百十三表	在香港商社關係投資……………	二〇
第二百十四表	在香港文化事業財產……………	二〇
第二百十五表	邦人商社對香港投資一社當り平均額（一九三六年末）……………	二一
第二百十六表	日本對香港投資額（一九三六年末及び一九三八年末比較）……………	二三
第二百十七表	邦人商社一九三六年取引高……………	二四

通卷第二十九冊 海南島篇

海南島に於ける日本經濟發展概觀

序……………	三
說……………	三

一、島史の概略	三
二、自然的特性とその産業の状況	四
三、日軍占領後に於ける施策	六
四、中國に與へたる影響	七

第一部 日本軍占領前に於ける海南島の狀態	九
----------------------	---

第一章 自然的條件	九
-----------	---

第一節 土地	九
--------	---

一、位	九
二、面	九
三、地	〇
四、河	〇
五、港	一

第二節 氣象	二
--------	---

一、氣象觀測の機關	二
二、溫度	二
三、雨量及風	三

第三節 地質及び土壤	七
------------	---

一、地質	七
二、土壤	八

第二章 住 民	二〇
第一節 人口構成	二〇
第二節 海南島華僑	二一
第三節 住 民	二三
一、住民の種類	二三
二、言 語	二五
第三章 資源と農業状態	二七
第一節 農 産 業	二七
一、資源の種類	二七
二、農 耕 地	二八
三、米	三〇
四、甘 藷	三一
五、甘 蔗	三二
六、護 謨	三三
七、珈 琲	三四
八、天 蚕	三五
九、椰子その他	三五
一〇、結 論	三五
第二節 林 産 業	三五

第三節 畜産業	三七
第四節 水産業	三八
一、主な漁港及漁業種類	三九
二、塩干魚の製造	四〇
三、近代的漁業化の有望	四一
第五節 塩業	四一
一、主要産地	四二
二、製塩法	四三
三、移出	四三
四、塩業の将来	四三
第六節 鋳業	四四
一、琼崖視察團の鋳区調査報告	四四
二、那大地方の錫鋳業	四六
第七節 工業	四七
一、家庭工業時代	四七
二、近代的工業の発達の可能性	四七
第八節 電力事業	四八
一、一般市民用電燈用電力	四九
二、病院の自家用電力	四九

第九節 交通運輸事業	四九
一、海上運輸	五〇
二、陸上運輸	五三
第四章 貿易の構造	五五
第一節 輸 出	五五
一、大陸移出	五五
二、對外輸出	五六
第二節 輸 入	五七
一、移 入	五七
二、輪 入	五八
第三節 密 貿 易	六〇
第五章 財政金融機構	六一
第一節 財 政	六一
一、中央財政	六一
二、省 財 政	六三
三、地方財政	六五
四、匪賊の賦課金	六五
第二節 金融事業	六六

一、幣	六六
二、金融機關	六七
第六章 社會文化	六九
第一節 教育事業	六九
小学校——中学校——師範學校等——教化機關（圖書館）——黎族の教育——琼崖民文化協會	
第二節 宗教	七一
儒教——道教——佛教（齊教）——基督教——回教	
第三節 通信及び新聞	七二
一、郵便	七三
二、電信及電話	七三
三、新聞	七四
第四節 医療と衛生状態	七四
一、傳染病及地方病	七四
二、衛生施設	七五
三、衛生行政	七六
第五節 民衆娛樂	七六
第七章 日本人とその事業	七八
一、海南島と日本商船	七八

二、海南島唯一の日本商社	七八
第二部 日軍占領後に於ける邦人企業の発達状況	八一
第一章 南支輸送基地海南島の占領	八一
第二章 占領地行政の発足	八三
第三章 日本の計画経済の拡張	八五
第一節 基本方針	八五
第二節 農産資源の開発	八五
第三節 鉱産資源の開発	八八
第四章 海南島に於ける日本企業の計画とその実績	九〇
第一節 農業の計画とその実績	九〇
一、計 画	九〇
二、実 績	九一
三、各社の終戦時に於ける事業概要	九一
第二節 農業水利事業	一〇一
一、農業水利事業より見たる農業の実状	一〇一
二、水利施設施行概要	一〇四
第三節 畜産業の計画とその実績	一〇六

一、畜産業の改善計画	一〇六
二、実績	一〇八

第四節 林業の計画とその実績	一一〇
----------------	-----

一、木材自給計画	一一〇
二、林業実績	一一三

第五節 水産業の計画とその実績	一一六
-----------------	-----

一、水産事業計画	一一六
二、事業の実施とその実績	一二七

第六節 鉱業の計画とその実績	一二八
----------------	-----

一、石碌鉱山の開発概況	一二八
-------------	-----

イ、鉱山発見の沿革——ロ、鉱量と品位——ハ、主要設備——ニ、生産能力——ホ、生産実績	
--	--

二、田独鉱山の開発概況	一二二
-------------	-----

イ、鉱山の発見と建設状況——ロ、鉱量と品位——ハ、主要設備——ニ、生産能力——ホ、生産実績	
---	--

三、羊角嶺鉱山の開発概況	一二六
--------------	-----

イ、沿革——ロ、推定残存鉱量——ハ、生産実績	
------------------------	--

四、南支第一鉱山の開発概況	一二七
---------------	-----

イ、沿革——ロ、推定残存鉱量——ハ、生産実績	
------------------------	--

第七節 工業の計画とその実績	一二八
----------------	-----

一、沿革	一二八
------	-----

二、計画の概要	一二九
三、投下資本の状態	一三〇
四、主要工業の実績	一三一
イ、機械工業——ロ、製鉄事業——ハ、セメント工業	
五、造船事業	一三六
六、煙草製造	一三七
七、其の他の工業	一三九
第八節 電気事業	一四〇
一、沿革	一四〇
二、事業概要	一四一
イ、海口地区発電事業——ロ、三亞榆林地区発電事業——ハ、昌江第三水力発電事業	
三、水力発電事業の将来の計画	一五一
第五章 商業及金融機関	一五三
第一節 商業	一五三
一、業者	一五三
二、営業取引高	一五五
三、業者の業務統制	一五五
四、終戦時に於ける資産	一五六
第二節 金融機関	一五六

一、金融機関の概況……………	一五六
イ、中國通貨の禁止と軍票の利用——ロ、内地銀行の進出とその業務——ハ、島民銀行の設立とその業務……………	一五七
二、日本軍票の流通……………	一五七
三、軍票流通状況……………	一五八
イ、海南島に於ける軍票放出超過累計——ロ、一九四五年八月中に於ける軍票回收状況——ハ、預金状況……………	一五八
——ニ、貸出状況——ホ、現金保有状況……………	一五八

第六章 通信事業

第一節 軍用通信

一、無線電信設備……………	一六三
二、有線電信電話……………	一六四

第二節 民間電信電話事業

一、電報電話局所在地……………	一六五
二、施設電話……………	一六五
イ、有線電話施設——ロ、無線電信電話施設及運用……………	一六六
三、従業員……………	一七〇

第七章 交通運輸事業

第一節 陸上運輸事業

一、鉄道事業……………	一七一
二、道路の改修並に橋梁の架設……………	一七二

三、自動車事業……………	一七三
イ、路線杆程及營業所——ロ、自動車数——ハ、従業職員——ニ、利用者数	
第二節 海上輸送事業……………	一七七
一、主要航路とその運営……………	一七七
二、主要港湾荷役状況……………	一八〇
第三節 港湾改良事業……………	一八一
一、秀英埠頭の改良……………	一八二
二、榆林港の改良……………	一八二
三、八所港の改良……………	一八四
四、其の他の港湾……………	一八五
第四節 航空基地の建設……………	一八五
第八章 社会公共事業……………	一八七
第一節 教育施設……………	一八七
一、初等教育……………	一八七
二、実業教育……………	一八七
三、中等教育……………	一八八
四、師範教育……………	一八八
第二節 衛生施設……………	一八八

一、傳染病の防遏と保健衛生思想の普及……………	一八九
イ、傳染病の防遏——ロ、マラリヤ防遏——ハ、衛生思想の普及と保健衛生施設……………	
二、同仁会の概要……………	一九八
三、其の他……………	二〇二
第三節 産業試験場……………	二〇三
一、場所……………	二〇四
二、所管……………	二〇四
三、試験項目……………	二〇四
四、設備……………	二〇六
五、試験農場……………	二〇六
六、試験成績……………	二〇六
第四節 血精製造所……………	二〇七
第五節 映画と新聞其の他……………	二〇九
一、映画……………	二〇九
二、新聞……………	二一〇
三、其の他……………	二一一
第三部 結 論……………	二一一
(海南島に於ける日本占領地行政及び実業開発の中國民衆にあたへた影響について)	
一、行政方面……………	二一一

二、教育及公益事業方面……………	二一四
イ、教育方面——ロ、公益事業方面	
三、産業方面……………	二一五

附表

第一表 海南島の温度……………	一四
第二表 海口市の降雨日時……………	一六
第三表 海南島に於ける暴風……………	一六
第四表 日本と海南島との土性と化学成分の比較……………	一九
第五表 縣別 人口……………	二〇
第六表 本島華僑の出入数……………	二二
第七表 海南島言語分布略図……………	二六
第八表 海南島縣別耕地面積……………	二九
第九表 輸出牛、牛皮及豚……………	三七
第十表 主な漁港及漁業種類……………	三九
第十一表 塩田及生産高……………	四二
第十二表 海口港寄港隻数……………	五〇
第十三表 大陸移出高……………	五六
第十四表 対外輸出高……………	五六
第十五表 移入品……………	五八
第十六表 輸入品……………	五九
第十七表 貿易入超高……………	五九

第十八表	一九三七年以降琼海関々稅收入表	六二
第十九表	省 稅 額	六四
第二十表	各宗教信仰者数	七二
第二十一表	農林進出会社名と其の研究項目	八七
第二十二表	各農林会社の終戦時に於ける事業概要	九一
第二十三表	地目別耕地面積	一〇二
第二十四表	水利事業施行概況表	一〇五
第二十五表	各畜産会社の事業実績概要	一〇八
第二十六表	林 業 実 績	一一三
第二十七表	各水産会社の終戦時に於ける施設概況	一一七
第二十八表	石碌鉞山生産実績	一二二
第二十九表	田独鉞山生産実績	一二五
第三十表	羊角嶺鉞山生産実績	一二七
第三十一表	南支第一鉞山生産実績	一二八
第三十二表	商社及事業の概況	一五四
第三十三表	預 金 狀 況	一五九
第三十四表	貸 出 狀 況	一五九
第三十五表	電報電話局所在地	一六五
第三十六表	海口電報局の施設及運用	一六七
第三十七表	島内通信施設	一六九
第三十八表	海岸電台施設	一六九
第三十九表	電信電話事業従業員	一七〇

第四十表	自動車事業路線、料程及營業所	一七三
第四十一表	自動車事業従業職員	一七六
第四十二表	自動車利用者数	一七六
第四十三表	各海運会社の終戦時に於ける状況	一七九
第四十四表	荷役倉庫会社の終戦時に於ける状況	一八〇
第四十五表	実業学校一覽表	一八八
第四十六表	急性傳染病患者発生数	一八九
第四十七表	予防接種人員調	一九〇
第四十八表	檢疫所別入港船舶数及檢疫人員	一九一
第四十九表	年次別入港船舶檢疫人員調	一九一
第五十表	東部マラリヤ防遏地区年別マラリヤ統計表	一九二
第五十一表	西部マラリヤ防遏地区年別マラリヤ統計表	一九三
第五十二表	東部マラリヤ防遏地区原虫保有者統計表	一九三
第五十三表	西部マラリヤ防遏地区原虫保有者統計表	一九四
第五十四表	井水検査成績	一九六
第五十五表	同仁会一九四四年度各部別外來患者統計表	二〇〇
第五十六表	同仁会一九四四年度各班別入院患者統計表	二〇〇
第五十七表	同仁会各班処別入院患者收容能力調査表	二〇一
第五十八表	同仁会海口医院取扱患者調	二〇一
第五十九表	其の他の医療施設	二〇二
第六十表	産業試験項目	二〇四
第六十一表	被接收財産評價額	二一六

通卷第三十冊 南方篇 第一分冊

第一部 總論	一
--------	---

第一章 序說 南方圈の經濟的基礎條件	一
--------------------	---

第一節 南方圈の地政學的輪廓	一
----------------	---

一、南方圈の地理的環境	一
-------------	---

(イ) 自然的條件	一
-----------	---

(ロ) 人口構成	四
----------	---

二、複合社會の構造的特質	七
--------------	---

(イ) 原住民の社會的構成	七
---------------	---

(ロ) 華僑社會の經濟的構造	九
----------------	---

(1) 華僑の商業活動——(2) 華僑労働者の地位——(3) 生産業者としての華僑——(4) 華僑投資の実態	九
--	---

(ハ) 外國人社會の地位及び其の經濟的關係	一五
-----------------------	----

(ニ) 日本人社會の地位及び現地社會との關係	二〇
------------------------	----

三、政治的構造	二九
---------	----

(イ) 南方圈各地域の政治構造的特質	二九
--------------------	----

(ロ) 各地域相互間の地政學的關係	三四
-------------------	----

四、南方圈の經濟的景觀	三六
-------------	----

(イ) 資源の賦存狀況	三六
-------------	----

(ロ) 貿易の構造	四二
(ハ) 南方圏貿易に於ける主要國の地位	四七
第二節 南方圏經濟開發と世界經濟との關係	五五
一、南方圏經濟の構造的特質	五五
二、資本主義的開發と其の對外依存關係	五九
三、南方圏經濟の自主化傾向と民族經濟の發展	六二
第二章 南方圏に於ける日本經濟との史的關係	六七
第一節 二十世紀以前に於ける日本との經濟的關聯	六七
第二節 第一次世界大戰までの日本との經濟的關係	七三
一、貿易の問題	七三
第一期(一八九四年乃至一九〇三年)——第二期(一九〇四年乃至一九一三年)——第三期(一九一四年以降)	
二、投資の問題	八七
三、其の他の經濟的諸關係	九三
移民の問題——海運の問題	
第三節 世界經濟恐慌の影響とその後の發展	九六
一、貿易の問題	九六
二、投資の問題	一〇八
三、その他の問題	一一一
移民の問題——海運の問題	

第四節 第二次世界大戰前後の南方圈に於ける日本經濟の發展	一一四
------------------------------	-----

一、貿易の問題	一一四
---------	-----

二、投資の問題	一二三
---------	-----

三、其の他の問題	一二六
----------	-----

第三章 日本の対南方圈投資と世界經濟との關係	一二八
------------------------	-----

第一節 世界各國の対南方圈投資と日本の地位	一二八
-----------------------	-----

一、世界各國の対南方圈投資概観	一二八
-----------------	-----

(イ) 列國投資の特色と其の一般的傾向	一二八
---------------------	-----

(ロ) 列國投資の実態	一三七
-------------	-----

(一) 比島に於ける列國の投資	(二) 佛印に於ける列國の投資	(三) 暹羅に於ける列國の投資
-----------------	-----------------	-----------------

(四) ビルマに於ける列國の投資	(五) 馬來に於ける列國の投資	(六) 北ボルネオに於ける列國の投資
------------------	-----------------	--------------------

(七) 蘭印に於ける列國の投資	(八) 一つの結論
-----------------	-----------

二、日本の対南方圈投資の実態と其の世界經濟的意義	一七一
--------------------------	-----

(1) 日本の対南方圈投資概観	一七一
-----------------	-----

(2) 日本の投資の実態	一七四
--------------	-----

(a) 栽培業	(b) 林業	(c) 水産業	(d) 鉱業	(e) 工業	(f) 商業及び其の他の雜業
---------	--------	---------	--------	--------	----------------

(3) 日本の投資的性格と其の世界經濟史的意義	二〇五
-------------------------	-----

(a) 日本の投資的性格	(b) 日本投資の世界經濟史的意義
--------------	-------------------

第二節 日本人の現地蓄積資本と現地經濟との關係	二一二
-------------------------	-----

一、土着資本形成の條件と其の過程	二一二
------------------	-----

二、南方圏に於ける土着資本の実態	二二七
三、日本人の現地蓄積資本と其の現地経済に於ける関係	二二九
第三節 日本対南方圏投資の総決算	二三二
一、戦争中に於ける南方投資の対象と其の重点	二三二
二、終戦時に於ける日本の投資資産概観	二四二
第四章 日本経済に於ける南方圏の経済的地位及び其の役割	二四五
第一節 日本及び南方圏経済の展開と其の構造	二四五
一、日本経済の展開と其の構造	二四五
二、南方圏経済の構造及び展開	二五二
第二節 日本経済に於ける南方圏の経済的地位及び役割	二五七
一、南方圏の日本経済に於ける地位	二五七
(一) 貿易	二五八
(二) 資源	二六四
(三) 投資	二六五
(四) 移民	二六七
二、南方圏工業化と日本経済	二七〇
第三節 日本経済と南方圏との結合過程の意義	二七二
第五章 結論	二七九

—— 日本は南方圏より何を得、何を與へたか？ ——

附表

第一章 序説南方圏の經濟的基礎條件

第一表	南方圏各地域の地理的條件	二
第二表	南方圏の人口構成及び比率	六
第三表	原住民の職業的分布	七
第四表	全世界華僑人口分布	一〇
第五表	地域別華僑人口及び同比率	一〇
第六表	華僑職業的分類	一二
第七表	華僑の南方圏投資	一五
第八表	南洋に於ける華僑投資	一六
第九表	國籍別外國人居住者数	一七
第十表	外國投資に依り生産される物資、其の数量及び主產地一覽表	一九
第十一表	本邦移民渡航者数	二一
第十二表	南方圏在住邦人数	二二
第十三表	南方圏在住日本人の地域別職業別分類（一九三二年現在）	二三
第十四表	終戦時現在南方各地域在留邦人数（一九四五年現在）	二四
第十五表	日本人職業別地域別在留数（一九三九年現在）	二六
第十六表	日本の業種別投資内容	二七
第十七表	南方圏各地域の政治的帰属關係	三〇

第十八表	南方圈賦存資源一覽表	三七
第十九表	南方圈各地域森林面積	四〇
第二十表	南方圈の木材輸出（一九三九年）	四〇
第二十一表	南方圈に於ける日本人水産業	四一
第二十二表	南方圈各地域の貿易額と其の世界貿易に占める地位	四三
第二十三表	各地域の貿易状態（一九三六年度）	四四
第二十四表	南方圈各地域の貿易の帰趨並に対東亞分の割合	四五
第二十五表	各國の対南方圈貿易の趨勢（其の一）	四八
第二十六表	各國の対南方圈貿易の趨勢（其の二）	四九
第二十七表	對南方圈貿易に於ける日本の地位	五四

第二章 南方圈に於ける日本經濟との史的關係

第一表	一八五九——六二年、一八六三——六七年平均貿易額	七二
第二表	一八六八——一九三年每五ヶ年平均貿易額	七二
第三表	一九〇四——一九四年貿易額	七五
第四表	一九〇四——一九四年各洲別貿易額 其の一	七六
第五表	一九〇四——一九四年各洲別貿易額 其の二	七六
第六表	類別輸入品目百分比	七八
第七表	貿易商國籍別扱高	七八
第八表	一九〇四——一九三年每五ヶ年平均南方圈諸國貿易額	七九
第九表	一九一五——一九二四年貿易額	八〇
第十表	一九一六——一九一八年類別輸入品目百分比	八一

第十一表	一九一五——一九二四年各洲貿易額……………	八二
第十二表	一九一四——一九二三年日本對南洋圈五ヶ國貿易……………	八三
第十三表	一九一四——一九二三年每五ヶ年平均南方圈諸國貿易額……………	八四
第十四表	一九一四——一九二〇年重要品目對蘭印輸出額……………	八五
第十五表	一九一四——一九二〇年重要品目對比島輸出額……………	八六
第十六表	南方圈五ヶ國の對日英米貿易額……………	八六
第十七表	一九二二年ジャヴァ、スマトラ、ボルネオ島農企業調査……………	九三
第十八表	一八九九——一九〇五年間渡航地別移民數……………	九四
第十九表	一九〇六——一九一一年間渡航地別移民數……………	九四
第二十表	一九一二——一九一一年間渡航地別移民數……………	九五
第二十一表	一九一三——一九二五年洲別世界貿易分布……………	九七
第二十二表	世界貿易一九一三、一九二四、一九二五年比較……………	九七
第二十三表	一九二九——三二年世界貿易洲別推移……………	九八
第二十四表	一九三二年アジア諸國輸出貿易推移……………	九九
第二十五表	世界主要國各種重要商品東南洋向輸出狀勢……………	一〇一
第二十六表	輸出品目一九三一——三二年推移……………	一〇二
第二十七表	對蘭印主要商品輸出……………	一〇二
第二十八表	對海峽植民地主要商品輸出……………	一〇三
第二十九表	對佛印主要商品輸出……………	一〇三
第三十表	對シヤム主要商品輸出……………	一〇四
第三十一表	對比島主要商品輸出……………	一〇四
第三十二表	世界主要國工業生產量指數……………	一〇五

第三十三表	南方圈諸國貿易政策推移……………	一〇六
第三十四表	一九二八年栽培業投資面積狀況……………	一〇九
第三十五表	一九二八年栽培種類別投資面積……………	一〇九
第三十六表	渡航地別移民数（一九二〇——二九年间）……………	一一一
第三十七表	渡航地別移民数（一九三〇——三三年間）……………	一一二
第三十八表	自一九三〇年至一九三四年主要國海運輸入……………	一一三
第三十九表	一九三二年六月現在日本遠洋船舶配船狀況……………	一一四
第四十表	自一九三三年至一九四〇年對南方圈日本貿易推移……………	一一六
第四十一表	自一九三七年至一九四〇年マレー對日貿易推移……………	一一七
第四十二表	一九三七——一九四〇年仕向國別ゴム輸出……………	一一九
第四十三表	自一九三四年至一九三七年渡航地別移民数……………	一二六
第四十四表	一九三八・一〇・一現在南方圈在留邦人職業別人口表……………	一二七

第三章 日本の對南方圈投資と世界經濟との關係

第一表	東南アジアに於ける外國投資の一九三〇年見積高……………	一三四
第二表	東南アジアに於ける外國投資の最近年に於ける見積高……………	一三四
第三表	世界各國の對南方圈投資（一九三七年）……………	一三五
第四表	比島に於ける列國投資額……………	一三九
第五表	比島の公社債券に對する米國投資（一九三五年二月三一日現在）……………	一四〇
第六表	比島に於ける米國の事業投資（一九三五年六月三〇日現在）……………	一四一
第七表	比島の重要産業に對する資本投下狀況（一九三七年現在）……………	一四三
第八表	比島に於ける公益企業投資……………	一四四

第九表	比島の林業投資……………	一四四
第十表	佛印に於ける列國の投資……………	一四八
第十一表	佛印に於ける佛國投資額……………	一四九
第十二表	暹羅に於ける外國人の投資……………	一五四
第十三表	ビルマに於ける列國の事業投資（一九三七年）……………	一五七
第十四表	マライに於ける未償還資本額（一九三六年）……………	一五九
第十五表	マライに於ける外國投資総額（一九一四年乃至一九三七年）……………	一六〇
第十六表	蘭印の総投資額（一九〇〇——三七年）……………	一六四
第十七表	蘭印に於ける各國民別企業投資（一九三七年）……………	一六六
第十八表	蘭印の民間企業投資に於ける和蘭人の持分……………	一六七
第十九表	邦人投資の地域別産業別内訳……………	一七二
第二十表	南方圏地域別邦人農企業一覽（一九三九年度）……………	一七五
第二十一表	南方圏邦人農作物別企業一覽（一九三九年）……………	一七六
第二十二表	各地域別ゴム企業一覽（一九三九年）……………	一七七
第二十三表	各地域別マニラ麻企業一覽（一九三九年）……………	一七九
第二十四表	地域別ココ椰子企業一覽（一九三九年）……………	一八〇
第二十五表	油椰子企業会社一覽（一九三九年）……………	一八一
第二十六表	地域別椰子企業個人農園……………	一八一
第二十七表	地域別栽培企業会社及個人園一覽（一九三九年）……………	一八二
第二十八表	地域別林業投資一覽……………	一八五
第二十九表	南方圏に於ける邦人漁業……………	一八六
第三十表	地域別漁業一覽……………	一八七

第三十一表	南方圏に於ける鉦業投資（一九四一年）	一八九
第三十二表	鉦種別投資内訳（一九四一年）	一八九
第三十三表	地域別邦人工業の現況（一九三七、八年）	一九四
第三十四表	南方圏に於ける邦人商業等の現況（一九三七—三八年）	一九七
第三十五表	南方圏に於ける邦人商工業等の現況	二〇一
第三十六表	マライに於ける華僑投資	二一八
第三十七表	マライに於ける華僑銀行	二一九
第三十八表	蘭印に於ける郵便貯金の状況	二二二
第三十九表	蘭印村落銀行の状況	二二二
第四十表	蘭印の一般庶民信用銀行の状況	二二三
第四十一表	蘭印の官営質屋の状況	二二三
第四十二表	主要産業に於ける比島人の投資額及び其の比率	二二五
第四十三表	比島の産業別國民所得	二二五
第四十四表	比島全銀行の營業狀態	二二六
第四十五表	下ビルマ主要米作地十三地方の農地所有關係	二二九
第四十六表	地域別、業種別投下資本内訳（一九四四年上半期迄）	二三三
第四十七表	地域別投資資金繰内訳	二三七
第四十八表	南方開發金庫券發行高	二三七
第四十九表	南發券地域別發行高（一九四五年三月三十一日現在）	二三九
第五十表	南方開發金庫融資実行内容（一九四五年五月三十一日現在）	二三九
第五十一表	地域別投資資材原料内訳	二四一
第五十二表	業種別投資総額中間推計	二四一

第五十三表 業種別、地域別投資総額の中間推計額……………二四三

二八八

通卷第三十一冊 南方篇 第二分冊

第二部 各 論

第一章 佛領印度支那……………一

第一節 仏領印度支那に於ける日本の経済的活動……………一

第一項 序 説……………一

一、佛印の地理的環境……………一

二、政治的支配……………四

三、経済的景観……………六

(イ) 佛印経済の世界的地位——(ロ) 佛印経済の数量的指標

第二項 仏印と日本との経済的關係……………一〇

一、太平洋戦争前に於ける邦人の経済活動……………一〇

(イ) 日、佛印協定締結前に於ける経済活動……………一〇

(ロ) 日華事变下に於ける経済的關係……………一三

二、太平洋戦争下に於ける日、佛印交渉……………一八

三、戦時日本の構想せる佛印の地位と其の現実の形態……………二二

第三項 太平洋戦争前に於ける日本の仏印投資の実態……………二三

第四項	太平洋戰爭中に於ける日本の仏印に於ける經濟活動	二八
第五項	終戦時に於ける投資額	二九
一、北部佛印に於ける投資		二九
二、南部佛印に於ける投資		三一
三、總括		三五
第六項	結語	三八
第二章	暹羅	五九
第一節	暹羅の地政學的概観と其の特徴	五九
一、暹羅の自然的環境		五九
二、人口の分布と住民		六一
三、暹羅國の政治的構造の特質		六八
四、南方圈に於ける地政學的關係		七〇
五、暹羅國の經濟的景観		七二
(イ) 資源の世界的及東亞的地位		七二
(ロ) 暹羅國經濟の世界經濟的意義と其の東亞に於ける地位		八〇
第二節	暹羅に於ける日本經濟との關係	九三
一、日本經濟との交渉史概観		九三
二、所謂大東亞共榮圈思想に於ける暹羅國の地位と其の現狀形態		九七

附表

第三章	太平洋戦争前に於ける日本の投資と暹羅経済との関係	一〇一
第四節	太平洋戦争中に於ける暹羅経済の状態と日本経済の活動	一〇七
一、戦争中に於ける暹羅経済の一般的状態		一〇七
二、戦争中に於ける日本の経済的活動		一一五
第五節	日本経済進出の暹羅経済に対する影響	一一八
第六節	結語	一二〇
第一章	仏領印度支那	一
第一表	地域別人口統計	三
第二表	人種別、地域別人口構成	三
第三表	国籍別、地域別ヨーロッパ人統計	四
第四表	佛印米仕向別輸出額	七
第五表	佛印に於けるゴム生産高	九
第六表	仕向地別ゴム輸出数量	九
第七表	仕向地別石炭輸出数量	一〇
第八表	在佛印日本人職業別調査	一一
第九表	日、佛印貿易額累年表	一三
第十表	一九三六、七年度品種別貿易額	一四
第十一表	日本南方各地投資額	二四
第十二表	佛印在留邦人の経済活動（一九三八年現在）	二五

第十三表	北部佛印邦人關係事業投資額（一九四五年八月現在）	三〇
第十四表	同商社別投資額	三一
第十五表	南部佛印邦人業種別投資額（一九四五年現在）	三二
第十六表	同 商社別投資額	三四
第十七表	佛印在留邦人業種別投資額（昭和十九年上期現在）	三五
第十八表	事業別投資額内訳	四〇
附 錄	佛印貿易統計	五五

第二章 暹

羅

第一表	暹羅國人口增加率	六二
第二表	國籍別人口表	六三
第三表	産業別人口表	六四
第四表	暹羅在留邦人数	六六
第五表	暹羅國在留民籍別邦人数	六六
第六表	在留邦人職業別分類表	六七
第七表	暹羅國外債殘額一覽表	六九
第八表	暹羅國主要産物の世界的地位	七三
第九表	主要農作物作付面積	七四
第十表	粳生産高及米輸出高	七四
第十一表	ゴム輸出額表	七五
第十二表	コブラ輸出量	七六
第十三表	農産物年々輸出額表	七六

第十四表	チーク材の植付面積、伐採可能量、産出高及輸出高表	七七
第十五表	錫生産額及輸出額	七八
第十六表	家畜飼育頭数	七九
第十七表	家畜輸出高表	八〇
第十八表	英國領諸港に対する貿易依存率	八一
第十九表	暹羅國外國貿易累年表	八二
第二十表	盤谷港の占める貿易比率	八二
第二十一表	港別重要輸出品比率	八四
第二十二表	港別部類別輸出入品額	八四
第二十三表	輸出超過率表	八七
第二十四表	暹羅貿易の世界及南方圈貿易上に占める地位	八八
第二十五表	五大洲別暹羅國貿易比率	九〇
第二十六表	國別輸出額及同比率	九〇
第二十七表	原産國別輸入構成	九一
第二十八表	主要國海運の消長	九二
第二十九表	日暹貿易累年表	九七
第三十表	暹羅に於ける外國人投資	一〇二
第三十一表	日本の對暹投資内訳	一〇三
第三十二表	暹羅邦人農企業（一九三九年）	一〇三
第三十三表	在暹羅邦人実業家調（一九三八年）	一〇四
第三十四表	暹羅國紙幣流通高及準備高表	一〇九
第三十五表	暹羅の日本軍に対する貸上金	一一〇

第三十六表	戰時中に於ける暹羅の物價指數……………	一一一
第三十七表	戰爭末期に於ける暹羅國內の日本經濟活動狀態（一九四五年八月現在）……………	一一六
第三十八表	終戰時暹羅國に於ける日本人の資産内容……………	一二七
附 錄	暹羅貿易統計……………	一二五

通卷第三十二冊 南方篇 第三分冊

第二部 各 論

第三章	ビルマ……………	一
-----	----------	---

第一節	序 說——地政學的概観と其の特徴……………	一
-----	-----------------------	---

一、地理的環境……………	一
--------------	---

二、政治的機能……………	六
--------------	---

三、經濟的景観……………	七
--------------	---

(イ) 世界的資源と東亞的資源……………	七
----------------------	---

(ロ) ビルマ經濟の世界經濟史的意義（殖民地としてのビルマの形成）……………	一六
--	----

(ハ) ビルマの東亞に於ける地位……………	二二
-----------------------	----

第二節	ビルマと日本經濟との關係……………	二七
-----	-------------------	----

第三節	太平洋戰爭前に於ける日本の投資とビルマ經濟との關係……………	二九
-----	--------------------------------	----

第四節	太平洋戰爭中に於けるビルマの經濟狀態と日本經濟の活動……………	三一
-----	---------------------------------	----

第五節 戰時中に於ける日本のビルマ投資の実態	三四
第六節 日本經濟進出のビルマ經濟に対する影響	四〇
第七節 結 論	四一
——日本は終局的にビルマに対し何を求め、何を與へたか——	
第四章 英領マライ（英領北ボルネオ、サラワクを含む）	四七
第一節 序 説	四九
一、地理的環境	四九
（一）自然——（二）人文	
二、政治的構造	六〇
三、經濟的景觀	六二
（イ）農業——（ロ）林業及牧畜業——（ハ）水産業——（ニ）鉱業——（ホ）工業——（ヘ）貿易	
第二節 英領マライに於ける日本經濟	九八
一、日本經濟との交渉史概観	九八
（一）第一次世界大戰迄	九八
（二）世界經濟恐慌前後	一〇〇
（三）第二次世界大戰前後	一〇三
二、所謂大東亞共榮圈思想に於て日本の構想せるマライの地位と其の現實の形態	一〇五
第三節 太平洋戦争前に於ける日本の対英領マライ投資と現地經濟との關係	一〇九

一、総説	一〇九
(一) 邦人の企業地探險調査	一〇九
(二) マライ邦人企業概況	一一〇
(イ) 農業(ゴム其の他)——(ロ) 林業——(ハ) 水産業——(ニ) 鉱業	一一〇
(三) 日本人の南方企業	一三九
二、日本のマライに於ける投資と其の意義	一三九
(一) 総説	一三九
(二) 日本の投資	一四七
第四節 太平洋戦争中に於けるマライの経済状態と日本経済の活動	一五〇
一、太平洋戦争中に於けるマライの経済状態	一五〇
二、戦争中のマライに於ける日本経済の活動	一五五
(一) 産業	一五五
(イ) 農業——(ロ) 水産業——(ハ) 畜産業——(ニ) 鉱業——(ホ) 工業	一五五
(二) 交通	一六一
(イ) 道路——(ロ) 自動車——(ハ) 鉄道——(ニ) 海運——(ホ) 港灣問題	一六一
(三) 金融	一六三
(イ) 金融機関——(ロ) 通貨——(ハ) 富籤	一六三
四、労働	一六六
第五節 終戦時に於ける日本投資の総括	一六七
第六節 結語	一七四

附表

第三章 ビルマ

第一表	人種別人口構成（一九三一年度）	三
第二表	産業別人口構成比率	三
第三表	日本人職業別在留者数	四
第四表	籾生産高	七
第五表	アジア諸國米生産高	八
第六表	ビルマ、シヤム、佛印三國米輸出高及生産高	八
第七表	ビルマ農作物作付面積及收穫高	九
第八表	ビルマ林産統計	一〇
第九表	鉍産物生産高	一二
第十表	主要米産地に於ける田の分配移動狀況	一八
第十一表	ビルマに於ける列國の事業投資	二二
第十二表	東亞各地向輸出高	二三
第十三表	東亞向米輸出高（一九三九—四〇）	二四
第十四表	東亞向鉍物輸出高	二五
第十五表	東亞各地よりの輸入高	二六
第十六表	対日貿易	二七
第十七表	一九三八年度対ビルマ日本投資額	二九
第十八表	業種別投資額表（一九四五年三月一日現在）	三五
第十九表	業種別投資額表（一九四四年上期現在）	三八

附 錄 ビルマ貿易統計……………四三

第四章 英領 マライ

第一表	地方別人口表……………	五三
第二表	マライに於ける人種別人口……………	五四
第三表	北ボルネオ人種別人口……………	五五
第四表	地方別種族人口比率（一九四一年）……………	五五
第五表	馬來聯邦州一九三一年主要職業人口……………	五六
第六表	北ボルネオ職業別人口表（一九三一年）……………	五七
第七表	一九三八年十月現在マライ在留邦人職業別表……………	五八
第八表	マライ、北ボルネオ、サラワク日本人職業別在留数……………	五九
第九表	一九四〇年度マライ作物栽培面積……………	六六
第十表	國籍別、地方別マライ農業人口……………	六八
第十一表	一九四〇年度家畜調査……………	七〇
第十二表	マライに於ける地方別漁獲生産高……………	七三
第十三表	漁業従業者数（一九三八年）……………	七四
第十四表	マライ鉾産物の五ヶ年平均生産高（一八九八——一九三九年）……………	七六
第十五表	鉾山従業者数（一九三八年十二月末）……………	七九
第十六表	地域別鉾産物生産高（一九三八年）……………	八〇
第十七表	各國別鉾業投資……………	八三
第十八表	太平洋戦争前に於けるマライ各地の工産品一覽……………	八四
第十九表	マライ主要國別輸出貿易……………	九四

第二十表	マライ主要國別輸入貿易……………	九五
第二十一表	マライ主要品目別輸出貿易……………	九六
第二十二表	マライ主要品目別輸入貿易……………	九七
第二十三表	一九一一年八月現在マライ半島邦人ゴム園表……………	一二
第二十四表	一九一九年二月末現在マライ半島邦人ゴム園表……………	一五
第二十五表	一九三五年二月末現在マライ地方邦人栽培企業一覽……………	一八
第二十六表	一九三八年南洋に於ける日本人ゴム栽培業一覽……………	二三
第二十七表	一九三八年会社個人別ゴム植付面積……………	二四
第二十八表	一九三八年会社別ゴム栽培業……………	二五
第二十九表	一九三九年英領マライ、北ボルネオ、サラワクに於ける邦人栽培企業一覽……………	二七
第三十表	英領マライ邦人企業会社一覽表（一九三九年度）……………	二九
第三十一表	英領北ボルネオ、サラワク邦人農企業会社一覽表（一九三九年度）……………	三〇
第三十二表	南洋に於ける邦人栽培事業一覽（一九四一年五月末現在）……………	三一
第三十三表	一九三八年英領マライ漁夫数……………	三六
第三十四表	マライの英、米、日投資対照表……………	四〇
第三十五表	貨幣流通高……………	四二
第三十六表	銀行券平均流通高……………	四四
第三十七表	マライ銀行狀況……………	四五
第三十八表	日本のマライに於ける産業別投資表……………	四八
第三十九表	南方開発金庫融資預金借入金現在高表（昭和二十年五月末現在）……………	五四
第四十表	終戦時に於ける日本の投資資産（マライ）……………	五八
第四十一表	終戦時に於ける日本の投資資産（北ボルネオ）……………	六九

第四十二表	マライ及北ボルネオに於ける戦時中の日本投資資産	一七〇
第四十三表	業種別投資調査	一七一
第四十四表	投資資金種類別	一七二
第四十五表	用途別資金表	一七二
第四十六表	戦後報告に基く日本の業種別マライ、北ボルネオ投資額	一七三
附 録	マライ貿易統計	一七六

通卷第三十三冊 商 方 篇 第四分冊

第二部 各 論

第五章 蘭 領 印 度	一
-------------	---

第一節 序 説	一
---------	---

一、自然的條件の素描	一
(一) 面積——(二) 地形——(三) 氣候	一
二、人口 構成	四
(一) インドネシア人口——(二) 華僑人口——(三) 其他東洋外國人——(四) ヨーロッパ人口	四
三、政治機構の概観	一四
四、社会経済的構造	一九
(イ) 本國工業のための原料生産地——(ロ) 本國製品のための市場	一九
五、資源の分布と産業の構造	二五

(イ) 農産資源と農業.....	二七
(1) 甘 蔗——(2) ゴ ム——(3) コーヒー——(4) 茶——(5) 煙 草——(6) キ ナー	
—(7) 油椰子——(8) コ、椰子——(9) 米、玉蜀黍	
(ロ) 林産資源と林業.....	六一
(ハ) 水産資源と水産業.....	六三
(ニ) 鉱産資源と鉱業.....	六四
(1) 石 油——(2) 錫——(3) 石 炭——(4) 金 銀——(5) ボーキサイト——(6) 鉄—	
—(7) ニッケル——(8) 硫 黄	
(ホ) 工 業.....	七五
六、貿易の構造.....	七七
輸出—貿易均衡——國別貿易の趨勢——品別貿易の趨勢——ジャワの貿易の構造——スマトラの貿易	
の構造——ボルネオ、セレベス、小スンダ、モルツケン地域の貿易の構造	
第二節 日本人企業発達史.....	九〇
一、第一次世界大戰前後.....	九〇
二、世界經濟恐慌前後.....	九七
三、第二次世界大戰前後.....	一〇二
第三節 太平洋戦争前に於ける日本の投資と現地經濟との關係.....	一一一
一、日本の投資実態と其の意義.....	一一一
イ、産業資本の投資の実態.....	一一一
ロ、近代的産業資本.....	一一一
(1) 農 業——(2) 鉱 業——(3) 林 業——(4) 水産業	

附
表

ハ、中小産業資本……………	一二四
（1）農 業——（2） 軽工業	
ニ、商業資本の投資実態……………	一二六
（1） 近代的資本に依る商業資本（金融業——貿易業）——（2） 現地在住者資本に依る商業資本（稍々巨大化する商業資本）——中小商業資本	
二、日本投資の現地経済に於ける意義……………	一三一
三、日本投資の日本経済に対する意義……………	一三一
第四節 太平洋戦争中に於ける現地経済の状態と日本経済の活動……………	一三二
一、現地経済の一般的状態……………	一三二
二、日本の戦前投資事業の復活及拡張……………	一三四
三、戦争により破壊せられ又放棄せられたる外國投資事業の復旧……………	一三五
四、戦争に依る新規投資事業……………	一三八
五、現地経済自給政策に基く生産の轉換と経済機構の变革……………	一四二
第五節 終戦時に於ける日本投資の総括……………	一四三
第六節 日本経済進出の現地経済に対する影響……………	一五一
一、現地経済資本主義化との関係……………	一五一
二、現地民族経済乃至複合経済の形成との関係……………	一五三
第七節 結 論……………	一五五

第一表	蘭領印度面積……………	二
第二表	ジャワ、土侯領、外領、自治領人口……………	七
第三表	蘭領印度地域別人口及人口密度（一九三〇年）……………	七
第四表	民族別職業比率……………	九
第五表	民族別百当り都市農村人口の比重……………	九
第六表	華僑出身地別人口構成……………	一〇
第七表	華僑職業人口……………	一一
第八表	其の他東洋外國人人口構成……………	一二
第九表	原住民以外の東洋人外國人職業別人口……………	一二
第十表	蘭印ヨーロッパ人口の國籍別構成……………	一三
第十一表	ヨーロッパ人職業人口……………	一四
第十二表	自治領数……………	一八
第十三表	蘭印輸出貿易額中に占める農林產物、鉱產物及其の他價格の割合……………	二二
第十四表	蘭印主要國別輸出額比率……………	二三
第十五表	蘭印対主要國別輸入比率……………	二四
第十六表	農產物及鉱業生產物の蘭印輸出價格に占める地位……………	二五
第十七表	一九三九年に於ける蘭印農產物の世界生產（輸出）量に占める地位……………	二六
第十八表	世界鉱產物生產に於ける蘭印の地位（一九三八年）……………	二七
第十九表	土地利用別エステート数（一九三九年）……………	二九
第二十表	栽培種別エステート數（一九三九年）……………	三二
第二十一表	エステートの原住民より買收量（一九三九年）……………	三四
第二十二表	一九四一年世界ゴム生產能力……………	三七

第二十三表	蘭印のゴム生産割当量	三八
第二十四表	エステートゴムと原住民栽培ゴムの配分量	三八
第二十五表	間作、混合栽培の作物別ゴムエステート数（一九三九年）	三九
第二十六表	ゴムエステート	四〇
第二十七表	ゴムと他の作物との組合せ面積	四一
第二十八表	ジャワ原住民ゴム栽培面積（一九三九年）	四二
第二十九表	外領原住民ゴム栽培面積（一九三九年）	四三
第三十表	栽培形態別コーヒーエステート数（一九三九年）	四四
第三十一表	コーヒーエステート栽培面積	四五
第三十二表	ジャワ原住民コーヒー栽培面積及生産面積（一九三九年）	四六
第三十三表	外領原住民コーヒー地域別概算余利輸出货量（一九三九年）	四七
第三十四表	エステート茶	四九
第三十五表	エステート煙草	五〇
第三十六表	エステート煙草地域別生産量（一九三九年）	五一
第三十七表	バリ、ロンボック以外の外領原住民煙草輸移出量（一九三九年）	五二
第三十八表	エステートキナ	五三
第三十九表	エステート油椰子栽培面積及生産量	五四
第四十表	エステートコ、椰子	五六
第四十一表	ジャワのコブラ、椰子油、椰子果実輸移出入量	五八
第四十二表	ジャワ、マドウラの原住民コブラの概算生産量	五八
第四十三表	外領の原住民コブラの概算生産量	五八
第四十四表	ジャワの米輸移出入量	五九

第四十五表	外領に於けるジャワ及外領からの米輸移入過剰量（一九三九年）	六〇
第四十六表	バリ、ロンボック以外の外領に於ける玉蜀黍輸移出入量（一九三九年）	六〇
第四十七表	外領地域別森林面積（一九四〇年）	六一
第四十八表	ジャワ及外領に於ける森林伐採量（一九四〇年）	六二
第四十九表	石油、錫、ボーキサイト生産高の世界総生産高中に占める地位（一九三八年）	六四
第五十表	世界産油量（一九四一年）	六五
第五十一表	蘭印島嶼別産油量	六六
第五十二表	蘭印油田別産油量	六六
第五十三表	蘭印錫生産量（一九三九年）	六九
第五十四表	蘭印地域別、資本別出炭量	七一
第五十五表	スマトラ金銀産出量（一九三九年）	七二
第五十六表	蘭印ボーキサイト産出量	七四
第五十七表	ジャワ、マドウラの重要輸出品（一九三九年）	八一
第五十八表	スマトラ重要輸出港別輸出数量	八二
第五十九表	スマトラ商品別、地域別輸出数量	八三
第六十表	ボルネオ商品輸出量の蘭印全輸出量に於ける地位	八四
第六十一表	ボルネオ輸移入量	八五
第六十二表	ボルネオ地域別米輸移入量	八六
第六十三表	ボルネオ輸移出入量	八七
第六十四表	南東ボルネオ及西ボルネオ輸移出入量	八七
第六十五表	ボルネオ主要港の貿易額及蘭印貿易全額に対する比率	八八
第六十六表	セレベス、小スンダ、モルツケン輸移出入量	八八

第六十七表	セレベス、小スンダ、モルツケン港別輸出入量	八九
第六十八表	在蘭印邦人主要職業別人口	九六
第六十九表	蘭印輸入制限商品の輸入総量と日本よりの輸入量との比率（一九三三年）	九九
第七十表	和蘭及日本よりの輸入の蘭印輸入総額中占める割合	九八
第七十一表	一九三八年より一九四〇年までの蘭印輸出入額（金額）	一〇三
第七十二表	一九三六年より一九四〇年までの蘭印輸出入量（数量）	一〇四
第七十三表	総輸出額に於ける主要物産別比率	一〇五
第七十四表	重要仕向地別輸出表	一〇六
第七十五表	日本人農企業中産業資本投資	一〇七
第七十六表	日本人農企業中中小資本投資	一〇八
第七十七表	南洋林業会社伐採量及対日輸出量（一九三四—三八年）	一〇九
第七十八表	日本人農企業地域別企業別投資額及租借面積	一一三
第七十九表	ジャワ日本人農企業作物別栽培状況	一一五
第八十表	南ボルネオ日本人農企業作物別栽培状況	一一六
第八十一表	セレベス、モルツケン日本人農企業作物別栽培状況	一一六
第八十二表	スマトラ日本人農企業作物別栽培状況	一一六
第八十三表	日本人農企業産業資本投資数及金額	一一七
第八十四表	日本人農企業個人資本投資数及金額	一一七
第八十五表	日本人農企業産業資本栽培品種別投資数及投資額（其の一）	一一八
第八十六表	日本人農企業産業資本栽培品種別投資数及投資額（其の二）	一一九
第八十七表	ジャワ中小農園租借面積	一二五
第八十八表	資本金十万盾以上の日本人商社調	一二八

第八十九表	日本人雜貨小売商調	一三〇
第九十表	蘭印在住日本人送金額	一三二
第九十一表	農業に於ける列國投資（一九三一年）	一三六
第九十二表	戰時中蘭印に於ける日本人鉦業投資	一四〇
第九十三表	蘭印に於ける終戰時の日本人投資	一四三
附 錄	蘭印貿易統計	一五七

通卷第三十四冊 南方篇 第五分冊

第二部 各 論

第六章 フイリツビン

第一節 総 論

一、比島の自然的及歴史的環境	一
（イ） フイリツビンの自然的環境	一
（ロ） 地形及地質	四
（ハ） 氣候	六
（ニ） 住民	七
二、比島の政治的構造	一二
（イ） 政治的構造特質	一二
（ロ） 東亞に於ける比島の地政学的位置	一四

三、比島の経済的景觀……………	一七
(イ) 総説……………	一七
(ロ) 世界的資源と東亞的資源……………	二二
(ハ) フィリッピン経済の世界経済的意義と其の東亞に於ける地位……………	二九
第二節 比島と日本との経済的關係……………	三四
一、日本経済との交渉史概観……………	三四
(イ) 通商貿易關係……………	三五
(ロ) 農業移民關係……………	四一
(ハ) 其の他の關係……………	五五
二、大東亞共榮圈思想と其の比島に於ける現実形態……………	六〇
第三節 太平洋戦争前に於ける日本の投資と比島経済との關係……………	六一
一、日本投資の実態と其の意義……………	六一
(イ) 産業資本の投資の実態……………	六一
(1) 農業——(2) 漁業——(3) 鉱業——(4) 林業——(5) 工業……………	六六
(ロ) 商業資本の投資の実態……………	七六
二、日本投資の比島経済に於ける意義……………	七九
三、日本投資の日本経済に対する意義……………	八〇
第四節 太平洋戦争中に於ける比島の経済状態と日本経済の活動……………	八一
一、比島経済の一般的状态……………	八一
二、比島に於ける戦時経済統制……………	八二

三、工業開発計画の実際	八四
四、日本軍の要求に基く生産の轉換	八七
第五節 終戦時に於ける日本の対比島投資の総括	八九
第六節 日本経済進出の比島経済に対する影響	九四
一、比島経済の資本主義化との関係	九四
二、比島の民族経済乃至複合経済の形成との関係	九八
三、比島経済と日本経済の連環化の必然性	一〇三
第七節 結 語	一〇七

——日本は終極的に何を求め何を與へたか？——

附表

第一表 比島各島嶼別面積人口及人口密度	二
第二表 フイリツビン人口増加表	九
第三表 フイリツビン国籍別人口数（一九三九年）	一〇
第四表 フイリツビン宗教別人口数（一九三九年）	一〇
第五表 フイリツビン職業別人口数（一九三九年）	一一
第六表 産業別国籍別投資額（一九三二年一月二日現在）	一八
第七表 一九四〇年主要商品別輸出入額	一九
第八表 フイリツビン産業部門別生産額（一九三九年）	二二
第九表 世界硬質纖維生産額（一九三八年度）	二八
第十表 フイリツビン主要生産品生産額と世界生産額との比較	三〇

第十一表	フィリッピン國別輸出額（一九三九年度）	三一
第十二表	フィリッピン主要商品輸出先（一九四〇年度）	三二
第十三表	日本フィリッピン間貿易額表	三五
第十四表	フィリッピン主要商品輸入額（一九三六年度）	三九
第十五表	日本よりの輸入商品（一九三六年度）	三九
第十六表	フィリッピン在留日本人數	四九
第十七表	フィリッピン在留日本人州別人口表（一九三九年）	五〇
第十八表	ダバオ州内に於ける日本人經營農企業日本人従業員數及職業別人口	五一
第十九表	全島對ダバオ州麻生産量比較表	五三
第二十表	國籍別小売商店數及日本人商店州別分布數	五七
第二十一表	フィリッピン資本別小売商店數	五九
第二十二表	ダバオ州に於ける日本人經營耕地の狀況（一九三五年）	六二
第二十三表	フィリッピン邦人農企業会社一覽	六三
第二十四表	ダバオ州國籍別農業投資調査	六四
第二十五表	フィリッピン漁業國籍別投資額（一九三二年）及日本人投資額（一九三八年）	六六
第二十六表	國籍別木材企業投資額及日本主要木材關係会社一覽	七〇
第二十七表	フィリッピンに於ける諸外國資本の工業投資額（一九三二年）	七二
第二十八表	日本人比島工業投資会社一覽表（一九三八年）	七三
第二十九表	フィリッピン小売業売上高別比率	七七
第三十表	ダバオ州國籍別商業投資額（一九三七年）	七七
第三十一表	ダバオ州國籍別小売店舗數（一九三八年）	七八
第三十二表	日本の商業投資高	七八

第三十三表	對外供給物資取得計畫數量（一九四二年度）	八三
第三十四表	日本軍接收工場數	八四
第三十五表	接收（管理）工場一覽	八五
第三十六表	南方陸軍地域進出企業会社投資額調查（一九四四年上半期現在）	九二
第三十七表	南方地域進出会社資金調達別調查	九二
第三十八表	南方地域進出会社資金使途別調查	九三
第三十九表	フィリッピン銀行資本國別投資額（一九三二年）	九五
第四十表	日本の銀行投資額（一九三八年）	九五
第四十一表	日本の銀行業務調査	九六
第四十二表	マニラ市に於ける日本の年次別資本投下額	九六
第四十三表	フィリッピンに於ける日本の諸投資一覽表（一九三八年）	九七
第四十四表	フィリッピン貿易額表	九九
第四十五表	マニラ麻、粗糖及砂糖輸出量	九九
第四十六表	フィリッピン米產額表	一〇〇
附 錄	フィリッピン貿易統計	一〇九

通卷第三十五冊 欧米其の他諸地域篇

第一章 總 論	一
---------	---

第一節 外国貿易より觀た欧米等との經濟關係	一
-----------------------	---

一、全貿易の経過……………	一
二、欧米等との貿易の全貿易に於ける地位……………	三
第二節 原料輸入製品輸出より観た欧米等の経済関係……………	四
一、原料輸入と欧米圏の地位……………	五
二、製品販路と欧米圏……………	六
三、通 覧……………	七
第三節 サービスの交換（見えざる貿易）より観た欧米等の経済関係……………	八
一、海 運 関 係……………	九
二、海外事業及労務関係……………	一一
三、海上保険関係……………	一二
四、旅行者消費関係……………	一二
五、投資 関 係……………	一二
第四節 在外事業より観た欧米等との経済関係……………	一三
一、出 先 商 業……………	一三
二、出 先 漁 業……………	一三
三、出先農業及鉱業……………	一五
第五節 移民事業より観た欧米等との経済関係……………	一六
第六節 国際収支より観た欧米等との経済関係……………	一八
第七節 在欧米等日本財産の意義……………	二〇

第八節 結 言	二六
---------	----

第二章 北 米	三〇
---------	----

緒 論	三〇
-----	----

第一節 対 米 貿 易	三一
-------------	----

一、維新前の貿易	三一
----------	----

イ、日米交渉の始因——ロ、輸出入の状況——ハ、貿易の形態及業者	三一
---------------------------------	----

二、明治以降の貿易	三五
-----------	----

イ、洲別貿易より観たる北米貿易の推移——ロ、明治に於ける対米貿易の特質——ハ、居留地貿易の変遷	三五
---	----

——ニ、通商條約改正と対外貿易——ホ、対米主要貿易商社の略史——（1、森村組——2、三井物産——	三五
--	----

——3、三菱商事——4、其の他）	三五
------------------	----

三、世界第一次大戦以降の対米貿易	四〇
------------------	----

イ、対米貿易の躍進——ロ、我が商品の飛躍に対する圧迫	四〇
----------------------------	----

四、貿易上より観たる日米の關係	四四
-----------------	----

イ、我が貿易対米依存度——ロ、生糸と米棉——ハ、我が綿布と其の世界經濟に於ける地位	四四
---	----

五、船会社、保險会社、金融機關	五〇
-----------------	----

イ、船会社——ロ、海上保險会社——ハ、金融機關	五〇
-------------------------	----

第二節 米 国 移 民	五四
-------------	----

一、米國移民の沿革	五四
-----------	----

二、移 民 問 題	五四
-----------	----

イ、日本移民排斥の根本原因——ロ、日本移民排斥略史——ハ、政が政府の態度	五四
--------------------------------------	----

三、移民法修正問題……………	五七
四、我が移民の現況並に其の資産……………	五七
第三節 対加奈陀貿易……………	五八
第四節 加奈陀移民……………	五九
一、加奈陀移民の沿革及現況……………	五九
二、移民問題……………	六〇
イ、伐木業に於ける排斥問題——ロ、漁業に於ける排斥問題……………	六三
三、加奈陀移民の投資及資産……………	六三
第三章 中南米……………	六八
第一節 序説……………	六八
第二節 移民……………	七〇
一、日本移民政策の回顧……………	七〇
二、日本移民の発展……………	七一
第三節 事業……………	七七
一、日本人の中南米発展の特質……………	七七
二、産業界に於ける日本人の活動……………	七七
イ、開拓事業——ロ、農業ハ、工鉱業——ニ、漁業——ホ、海運……………	八一
三、教育文化衛生に対する貢献……………	八一

第四節 貿易	八二
--------	----

一、概観	八二
------	----

二、貿易品及金額	八三
----------	----

イ、日本よりの輸出——ロ、日本への輸入	
---------------------	--

三、日本と主要列強との比較	八八
---------------	----

イ、輸出入額——ロ、中南米各國対主要貿易國輸出入割合——ハ、中南米主要輸出品主要貿易國向輸出割合	
--	--

第五節 結論	九三
--------	----

第四章 東方諸地域	九四
-----------	----

第一節 印度	九四
--------	----

一、序説	九四
------	----

二、日印貿易	九四
--------	----

イ、日印貿易概況——ロ、主要日本輸出品と印度市場	
--------------------------	--

三、日印通商交渉	一〇一
----------	-----

第二節 太平洋	一〇二
---------	-----

一、総論	一〇二
------	-----

二、濠洲	一〇三
------	-----

イ、日濠貿易の発展経過	一〇三
-------------	-----

(一) 明治時代の日濠貿易——(二) 第一次世界大戦と日濠貿易の量的、質的变化——(三) 日濠通商	
---	--

紛議——(四) 日華事変と日濠經濟關係の惡化——(五) 第二次世界大戰と日濠經濟關係	一二七
ロ、濠洲産物と日本の輸入貿易……………	一二七
(一) 濠洲牧畜業と日本への輸入——(二) 濠洲農業と日本への輸入——(三) 濠洲鋁業と日本への輸入——(四) 濠洲酪農業と日本への輸入——(五) 濠洲水産業と日本への輸入	一四三
ハ、濠洲と日本輸出貿易……………	一四三
(一) 紡績製品——(二) 雜貨	一五五
ニ、濠洲と日本海運……………	一五五
ホ、濠洲移民……………	一五六
(一) 濠洲移民の先驅——(二) 日本移民の最盛時代——(三) 白濠主義と日本移民の排斥——(四) 日本移民の終焉——(五) 第二次世界戦争直前の在留邦人	一七二
三、新 西 蘭……………	一七二
イ、新西蘭、日本間貿易……………	一七二
ロ、第二次世界戦争前の在留邦人……………	一七六
四、ニューカレドニア……………	一七七
イ、ニューカレドニア、日本間貿易……………	一七七
ロ、ニューカレドニアに於ける日本人の鋁業……………	一八二
ハ、ニューカレドニアに於ける日本人の商業……………	一八七
ニ、ニューカレドニアと日本海運……………	一八九
ホ、在留邦人職業別人口調査表……………	一八九
ヘ、ニューカレドニア日本移民史……………	一九一
第一次の渡航——その後の消長——一九二六年前後の状況——第二次世界大戰直前の状況——三つの問題	一九一

五、大洋洲諸島と日本の貿易関係……………二一〇〇

イ、フィジー諸島……………二一〇〇

ロ、トンガ諸島（英領）……………二一〇二

ハ、ギルバード諸島（英領）……………二一〇三

ニ、エリス諸島（英領）……………二一〇三

第三節 近 中 東……………二一〇五

一、概 説……………二一〇五

二、土 耳 古……………二一〇九

イ、日土間の貿易概況……………二一〇九

ロ、本邦輸出品の主なるもの、本邦代理店及商社……………二一一

ハ、土國の商港と日本船舶……………二一一

三、イラク、イラン……………二一二

イ、イ ラ ク……………二一二

ロ、イ ラ ン……………二一四

第五章 西方諸地域……………二一六

第一節 欧 洲……………二一六

一、総 説……………二一六

イ、貿易進展經過檢討……………二一六

ロ、貿易外收入の検討……………二一九

二、英 國……………二二〇

イ、日本の対英貿易……………	一二〇
ロ、日本の対英属領貿易……………	一二三
ハ、日本と英本國との海運関係……………	一二八
三、佛 蘭 西……………	一三〇
イ、日佛間貿易概況……………	一三〇
ロ、日佛間海運関係……………	一三二
四、独 逸……………	一三二
五、伊 太 利……………	一三四
イ、日伊間の貿易状況……………	一三四
ロ、海 運 関 係……………	一三七
六、和 蘭……………	一三七
七、白 耳 義……………	一四一
八、希 臘……………	一四四
イ、希臘の対日求償貿易制度……………	一四四
ロ、日、希貿易概況……………	一四七
九、イベリア半島諸國……………	一四八
十、スカンデナヴィア諸國……………	一五三
第二節 ソ 聯 邦……………	一六一
一、日、ソ間貿易……………	一六一
二、日本のソ領水域に於ける漁業……………	一六五
第三節 阿 弗 利 加……………	二六八

一、概 説	二六八
二、埃 及	二七二
イ、日 埃 貿易	二七二
ロ、日本海運等より観たる日埃關係	二七七
三、南 阿 聯 邦	二七八
四、東 阿 弗 利 加	二八〇

附 表

第一表 我國の全貿易額に対する欧米及其の植民地との貿易額の割合（一九二七——一九三七年）	三
第二表 海運關係收支（一九三二——一九三五年）	九
第三表 船腹増加量（一九三五——一九四〇年）	九
第四表 主要汽船会社別船腹量（一九四〇年九月現在）	九
第五表 定期航路表	一〇
第六表 欧米圏内配船狀況	一一
第七表 海外出稼移民關係の受拂狀況（一九三二——一九三五年）	一二
第八表 海上保險關係受拂狀況（一九三二——一九三五年）	一二
第九表 旅行者消費關係受拂狀況（一九三二——一九三五年）	一二
第十表 投資關係受拂狀況（一九三二——一九三五年）	一二
第十一表 出先商業收益額（一九二六——一九二八年）	一三
第十二表 出先漁業生産高及輸出高（一九三七——一九四〇年）	一四
第十三表 出先漁業輸出先別輸出高（一九三七——一九四〇年）	一四
第十四表 北洋漁業従業員	一四

第十五表	日本捕鯨業の外地捕獲高（一九三七——一九三九年）	一五
第十六表	海外漁業製鹽業従業員（一九三八年十月現在）	一五
第十七表	出先農業及鉱業従事員（一九三八年十月現在）	一六
第十八表	中南米移民数（一九四〇年現在）	一七
第十九表	貿易及貿易外收支通計バランス（一九二八——一九三四年）	一九
第二十表	在欧米会社、銀行の支店等分布状態	二〇
第二十一表	在欧米会社、銀行の従事日本人数（一九三八年）	二一
第二十二表	欧米地域との貿易額の全貿易額に於ける割合（一九三八年）	二一
第二十三表	在欧米商、工、農、漁、鉱業、自由職業等の従事日本人数（一九三八年十月一日現在）	二一
第二十四表	在欧米日本人数（一九三八年十月一日現在）	二二
第二十五表	在東亞及南洋群島日本人数（一九三八年）	二三
第二十六表	在欧米商社財産推定額	二四
第二十七表	在欧米個人財産推定額	二五
第二十八表	一八六〇——一八六二年米英商船出入数輸出入額及其の比率	二三
第二十九表	一八六〇——一八六七年米國向生糸及茶輸出量	三四
第三十表	米國向主要輸出入品の総輸出入額に占める比率	三四
第三十一表	一八七三年洲別輸出入比率	三五
第三十二表	北米向及歐洲向輸出入額（一八九三——一九一五年）	三五
第三十三表	邦商外商別日本輸出入貿易額比率（一八八〇——一九〇〇年）	三八
第三十四表	北米向、歐洲向及アジア向輸出入額（一九〇四——一九一三年）	四〇
第三十五表	世界主要工業國輸出貿易指数（一九二九——一九三二年）	四二
第三十六表	日米貿易の依存関係（一九三六——一九三八年）	四四

第三十七表	米國向輸出・生糸の生糸輸出入総額に占める地位（一九三六——一九四〇年）	四五
第三十八表	米國輸入総額中日本生糸輸入額の占める地位（一九三六——一九三九年）	四六
第三十九表	棉花輸入高（一九三六——一九三九年）	四七
第四十表	米棉輸入高の輸入総額中に占める地位（一九三七——一九三九年）	四七
第四十一表	米棉輸入高と棉花輸入総額との対比（一九三六——一九三九年）	四八
第四十二表	綿布輸出高（一九三六——一九三九年）	四八
第四十三表	主要綿業國の亞細亞向綿布輸出高（一九三六——一九三九年）	四八
第四十四表	亞細亞向綿布輸出内訳表（一九三六——一九三九年）	四九
第四十五表	百噸以上の汽船数（一九一二——一九二〇年）	五一
第四十六表	職業別米國在留移民数	五七
第四十七表	加奈陀向輸出入額（一九三七——一九三九年）	五八
第四十八表	職業別在加邦人数	六〇
第四十九表	主要品別対米貿易額（一九三七——一九三九年）	六五
第五十表	主要品別対加奈陀貿易額（一九三七——一九三九年）	六七
第五十一表	中南米諸國又は属領名	六九
第五十二表	一八八五年——一九三六年間入伯移民数と移民制限数	七二
第五十三表	職業別中南米在留邦人数（一九四〇年一〇月現在）	七三
第五十四表	南米に於ける伊独移民概数	七七
第五十五表	綿糸布、絹、人絹布雜貨の中南米向輸出額（一九三五——一九三九年）	八四
第五十六表	日本より中南米諸國向輸出貿易額（一九三六——一九三九年）	八五
第五十七表	中南米諸國より日本への輸入貿易額（一九三六——一九三九年）	八七
第五十八表	対中南米主要列強貿易額（一九三七——一九三八年）	八九

第五十九表	一九三七——八年列強対南米各國輸出入割合……………	九〇
第六十表	一九三七——八年列強対中米及西印度各國輸出入割合……………	九一
第六十一表	中南米主要品輸出品輸出割合……………	九二
第六十二表	日本印度間貿易額（一九二九——一九三六年）……………	九四
第六十三表	対印度重要輸出品（一九三三——一九三五年）……………	九五
第六十四表	印度からの重要輸入品（一九三三——一九三五年）……………	九六
第六十五表	印度綿工業の發展過程……………	九六
第六十六表	印度に於ける日英綿織物輸入数量の割合（一九一三——一九三七年）……………	九七
第六十七表	印度に於ける輸入纖維製品の國別、品別輸入高（一九三七——八年）……………	九九
第六十八表	明治時代に於ける日濠貿易の發展狀況（一八七七——一九一〇年）……………	一〇八
第六十九表	第一次世界大戰後の日濠貿易（一九一四——一九二二年）……………	一〇九
第七十表	英濠貿易の推移（一九二九——一九三六年）……………	一一三
第七十一表	濠洲の対日貿易（一九三二——一九三六年）……………	一一三
第七十二表	本邦主要輸出品の濠洲に於ける進出狀況（一九二九——一九三六年）……………	一一四
第七十三表	日本の毛織原料國別輸入高（一九三五——一九三七年）……………	一一七
第七十四表	最近の日濠貿易（一九二三——一九三九年）……………	一二四
第七十五表	濠洲の対日商品別輸出（一九三四——一九三八年）……………	一二五
第七十六表	濠洲の対日商品別輸入（一九三四——一九三八年）……………	一二五
第七十七表	濠洲の輸入貿易に於ける各國の地位（一九〇九——一九三九年）……………	一二六
第七十八表	濠洲の輸出貿易に於ける各國の地位（一九〇九——一九三九年）……………	一二六
第七十九表	日本貿易に於ける濠洲の地位……………	一二七
第八十表	日本の濠洲羊毛買付高（一九二九——一九三九年）……………	一三〇

第八十一表	世界に於ける綿羊頭数と産毛量（一九三八——九年度現在）	一三一
第八十二表	日本の國別羊毛輸入数量及價額（一九三七——一九三九年）	一三二
第八十三表	濠洲小麦の生産高及輸出高（一九三一——一九四二年）	一三三
第八十四表	濠洲、亞國及加奈陀に於ける最近五ヶ年平均小麦生産高並に輸出高	一三三
第八十五表	濠洲小麦の輸出先（一九三五——一九三九年）	一三四
第八十六表	濠洲小麦粉の輸出先（一九三六——一九四〇年）	一三五
第八十七表	濠洲バターの仕向地別輸出数量	一三八
第八十八表	濠洲ケイシインの仕向地別輸出数量（一九三四——一九三六年）	一三九
第八十九表	濠洲粉乳及煉乳の生産量及輸出高（一九三三——一九三九年）	一四〇
第九十表	濠洲に於ける水産物採取高（一九三二年）	一四一
第九十一表	濠洲の魚類輸入高（一九三二——一九三四年）	一四一
第九十二表	濠洲に於ける輸出漁業品（一九三二——一九三四年）	一四二
第九十三表	眞珠及眞珠貝の日本輸入額（一九三四——一九三八年）	一四二
第九十四表	濠洲向日本玩具類輸出額（一九三八年）	一四七
第九十五表	濠洲に於ける日本品輸入統計表（一九一三——一九一八年）	一五〇
第九十六表	濠洲向日本品輸出統計表（一九二八——一九三七年）	一五一
第九十七表	本邦貨物船の濠洲への配船狀況（一九三六——一九三九年）	一五五
第九十八表	濠洲寄港外國船総噸数に於ける日英の比率（一九三三——一九三九年）	一五五
第九十九表	在濠日本商社表（一九三九年一月現在）	一六七
第一百表	職業別濠洲在留日本人口表（一九四〇年一月一日現在）	一七〇
第一百一表	新西蘭の主要輸出入品（一九三九年）	一七二
第一百二表	新西蘭の主要輸出相手國別輸出入比率（一九三九年）	一七三

第百三表	新西蘭向日本品輸出金額統計表（一九三四——一九三八年）	一七四
第百四表	新西蘭より日本向輸入品及金額統計表（一九三四——一九三八年）	一七五
第百五表	新西蘭所在主要日本商社（一九三九年一月現在）	一七六
第百六表	ニューカレドニアの最近五ヶ年に於ける輸出入貿易額（一九三五——一九三九年）	一七七
第百七表	ニューカレドニア産業別輸出額（一九三八年）	一七七
第百八表	ニューカレドニア主要産物別輸出額（一九三八年）	一七八
第百九表	ニューカレドニア國別輸出額（一九三八年）	一七八
第百十表	ニューカレドニア國別輸入額（一九三六——一九三八年）	一八〇
第百十一表	ニューカレドニアへの日本輸出品並に金額統計表（一九三五——一九三八年）	一八〇
第百十二表	ニューカレドニアより日本向輸出品並に金額統計表（一九三五——一九三九年）	一八一
第百十三表	ニューカレドニアに於ける日本人經營のニツケル鉾輸出（一九三七年度）	一八四
第百十四表	ニューカレドニアに於けるニツケル鉾輸出量（一九三六——一九三八年）	一八四
第百十五表	ニューカレドニアに於ける日本人經營のクローム鉾輸出（一九三五——一九三八年）	一八五
第百十六表	ニューカレドニアに於けるクローム鉾輸出（一九三五——一九三八年）	一八五
第百十七表	ニューカレドニアに於ける日本人經營の鉄鉾輸出	一八六
第百十八表	ニューカレドニアに於ける日本人經營の銅鉾輸出	一八六
第百十九表	ニューカレドニアに於ける日本人經營の金鉾輸出	一八七
第百二十表	ニューカレドニアに於ける日本人經營のマンガン鉾輸出	一八七
第百二十一表	ニューカレドニアに於ける邦人商店（一九三九年十二月現在）	一八七
第百二十二表	職業別ニューカレトニア在留邦人人口調査表（一九四〇年十月一日現在）	一八九
第百二十三表	フィジー諸島への日本品輸出額統計表（一九三五——一九三八年）	二〇一
第百二十四表	ギルバード及エリス諸島への日本輸出品並に金額統計表（一九三五——一九三八年）	二〇四

第二百二十五表	日本対近中東諸國貿易額（一九三〇——一九三五年上期）	二〇六
第二百二十六表	日本対近中東諸國主要商品別貿易額（一九三〇——一九三四年）	二〇八
第二百二十七表	土耳其の対日貿易額	二〇九
第二百二十八表	日本より土耳其への主要品輸出額（一九三五——一六年）	二一〇
第二百二十九表	日本の土耳其よりの主要品輸入額（一九三五——一六年）	二一〇
第二百三十表	日本からイラクへの主要輸出品（一九三五年——一九三七年）	二一二
第二百三十一表	日本のイラクからの主要輸入品（一九三五——一九三七年）	二一三
第二百三十二表	日本イラン間の貿易額（一九三五——一九三八年上半期）	二一四
第二百三十三表	日本のイランからの主要輸入品（一九三六年）	二一五
第二百三十四表	日本からイランへの主要輸出品（一九三六——一九三八年七月末）	二一五
第二百三十五表	日本の対英（英帝國全体）貿易（一九二九——一九三六年）	二二二
第二百三十六表	日本の対英貿易推移（一九二四——一九三六年）	二二三
第二百三十七表	英本國諸港への入港外國船舶（一九三八年）	二二八
第二百三十八表	対佛輸入品数量及價格（一九三六——一七年）	二三〇
第二百三十九表	対佛輸出品数量及價格（一九三六——一七年）	二三一
第二百四十表	日独間貿易品價額（一九三六——一七年）	二三三
第二百四十一表	日独間貿易額（一九三六——一七年）	二三四
第二百四十二表	日伊間貿易額（一九二九——一九三八年）	二三五
第二百四十三表	日伊間主要輸出入品價額（一九三五——一九三七年）	二三五
第二百四十四表	和蘭の對外貿易（一九三五——一九三七年）	二三八
第二百四十五表	日本、和蘭間の貿易額（一九三四——一九三七年）	二三九
第二百四十六表	和蘭向日本主要輸出品（一九三五——一九三七年）	二三九

第四百四十七表	日本の和蘭よりの主要品輸入額（一九三五——六年）	二四〇
第四百四十八表	日本白耳義間貿易額（一九三二——一九三八年八月）	二四一
第四百四十九表	日本から白耳義への主要輸出品（一九三五——一九三七年）	二四一
第四百五十表	日本の白耳義がらの主要輸入品（一九三五——一九三七年）	二四二
第四百五十一表	日本、希臘間の貿易額（一九三一——一九三八年上半期）	二四七
第四百五十二表	日本から希臘への主要輸出品額（一九三四——一九三六年）	二四七
第四百五十三表	日本の希臘からの主要輸入品額（一九三四——一九三六年）	二四八
第四百五十四表	日本、西班牙間貿易額（一九三三——一九三八年上半期）	二四九
第四百五十五表	日本から西班牙への主要輸出品額（一九三五——六年）	二四九
第四百五十六表	日本の西班牙からの主要輸入品額（一九三五——六年）	二五〇
第四百五十七表	日本の葡萄牙からの主要輸入品額（一九三五——六年）	二五〇
第四百五十八表	日本から葡萄牙への主要輸出品額（一九三五——六年）	二五一
第四百五十九表	日本、瑞典間貿易額（一九三四——一九三七年）	二五四
第四百六十表	日本から瑞典への主要輸出品額（一九三五——一九三七年）	二五五
第四百六十一表	日本の瑞典からの主要輸入品額（一九三五——一九三七年）	二五七
第四百六十二表	日本、丁抹間貿易額（一九三四——一九三七年）	二五七
第四百六十三表	日本から丁抹への主要輸出品額（一九三五——一九三七年）	二五八
第四百六十四表	日本の丁抹からの主要輸入品額（一九三五——一九三七年）	二五八
第四百六十五表	日本、諾威間貿易額（一九三四——一九三七年）	二五九
第四百六十六表	日本から諾威への主要輸出品額（一九三五——一九三七年）	二五九
第四百六十七表	日本の諾威からの主要輸入品額（一九三五——一九三七年）	二六〇
第四百六十八表	最近八年間に於ける日、ソ間貿易統計表（一九三一——一九三八年）	二六一

第百六十九表	最近数年間に於ける日、ソ間重要品目別輸出入表（一九三六——三七年）	二六三
第百七十表	ソ領漁業借区数、借區料、使用船舶及従業員數（一九三一——一九三九年）	二六六
第百七十一表	ソ領漁業漁獲高（一九三一——一九三九年）	二六七
第百七十二表	ソ領漁業生産品（罐詰）の漁場より直接海外向輸出額（一九三一——一九三九年）	二六七
第百七十三表	ソ領漁業生産品（罐詰）輸出高（一九三七——一九三九年）	二六八
第百七十四表	日本の対阿弗利加貿易（一九二九——一九三五年上期）	二六九
第百七十五表	主要諸國の対阿弗利加貿易上の地位（一九二九——一九三四年）	二七一
第百七十六表	日本より埃及及向纖維製品輸出額（一九二九——一九三四年）	二七二
第百七十七表	埃及より日本向繰綿輸出額（一九三六——七年）	二七五
第百七十八表	埃及より日本向其の他の輸出品（一九三——七年）	二七五
第百七十九表	日本より埃及向（綿製品を除く）輸出品（一九三六——七年）	二七六
第百八十表	日本対南阿聯邦主要貿易品（一九二九——一九三四年）	二七八
第百八十一表	日本対東阿弗利加主要貿易品（一九二九——一九三四年）	二八〇